認知症の高齢者に関するアンケート
報告書

令和元年（2019 年）11 月

草津市

目　次

Ⅰ　調査概要 **1**

1. 調査の目的 1
2. 調査項目 1
3. 調査設計 1
4. 回収結果 1
5. 報告書の見方 2

Ⅱ　調査結果（一般市民） **3**

1. 回答者の属性 3
2. 認知症に対する知識と認識について 5
3. 自分自身や家族が認知症になった場合について 14
4. 認知症予防について 24
5. 認知症に関する制度やサービスについて 27

Ⅲ　調査結果（家族） **39**

1. 主に介護を行っている人について 39
2. 介護を受けている本人について 42
3. 発症から相談、医療機関へのつながりの状況について 45
4. 相談相手と周囲とのかかわりについて 55
5. サービス・制度について 61

Ⅳ　調査結果（本人） **72**

1. 最近話した人について 72
2. 認知症になったときの相談先について 73
3. 認知症の人にとって暮らしやすい地域について 74

Ⅴ　調査票 **76**

Ⅰ　調査概要

１．調査の目的

草津市において、認知症になっても本人、家族ともに安心して生活できるまちをめざし、認知症の正しい理解の啓発や、早期発見・早期対応、地域での見守り、認知症の人やその家族への支援体制の充実など、「（仮称）草津市認知症があっても安心なまちづくり条例」制定および「草津市認知症施策アクション・プラン」策定のために基礎資料を得ることを目的に実施した。

２．調査項目

○一般市民用

（1）回答者の属性

（2）認知症に対する知識と認識について

（3）自分自身や家族が認知症になった場合について

（4）認知症予防について

（5）認知症に関する制度やサービスについて

○家族用

（1）主に介護を行っている人について

（2）介護を受けている本人について

（3）発症から相談、医療機関へのつながりの状況について

（4）相談相手と周囲とのかかわりについて

（5）サービス・制度について

○本人用

（1）最近話した人について

（2）認知症になったときの相談先について

（3）認知症の人にとって暮らしやすい地域について

３．調査設計

	一般市民用	家族用	本人用
調査対象	20～74 歳の市民を無作為抽出	令和元年 8 月 1 日時点で介護認定を受けている人のうち、日常生活自立度が「Ⅰ」以上の人の家族	平成 31 年 4 月 1 日時点で介護認定を受けている人のうち、日常生活自立度が「Ⅰ」もしくは「Ⅱａ」の人
調査方法	郵送による調査票の配布・回収		在宅介護実態調査と併せて、認定調査員による聞き取り
調査期間	令和元年 8 月 9 日～8 月 23 日	令和元年 8 月 19 日～9 月 2 日	令和元年 5 月 22 日～7 月 31 日

４．回収結果

配布数	発送数	回収数	白票・無効票	有効回答数	有効回答率
一般市民用	1,000 人	343 票	0 票	343 票	34.3%
家族用	500 人	244 票	1 票	243 票	48.6%
本人用	－	177 票	18 票	159 票	89.8%

５．報告書の見方

（1）回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してある。小数点第 2 位を四捨五入しているため、比率の合計が 100.0%を上下することがある。回答者数（n）が少ない場合は比率の数字が動きやすいため、厳密な比較をすることは難しいので、回答の傾向をみる程度になる。

（2）複数回答を依頼した質問では、回答比率の合計が 100%を超える。

（3）図表では、コンピュータ入力の都合上、回答の選択肢を短縮している場合がある。

Ⅱ　調査結果（一般市民）

１．回答者の属性

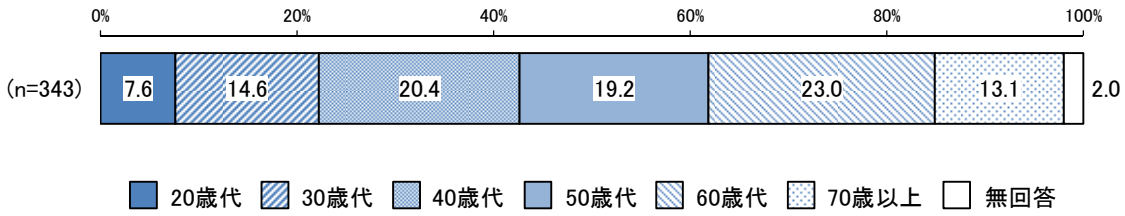
（1）年齢

回答者の年齢は、「60 歳代」が 23.0%で最も高く、次いで「40 歳代」が 20.4%、「50 歳代」が 19.2%、「30 歳代」が 14.6%、「70 歳以上」が 13.1%となっており、50 歳以上の回答者が半数以上を占めている。

回答者の平均年齢は 51.9 歳である。

回答者の性別による平均年齢は、男性 51.7 歳、女性 52.1 歳でほとんど変わらない。

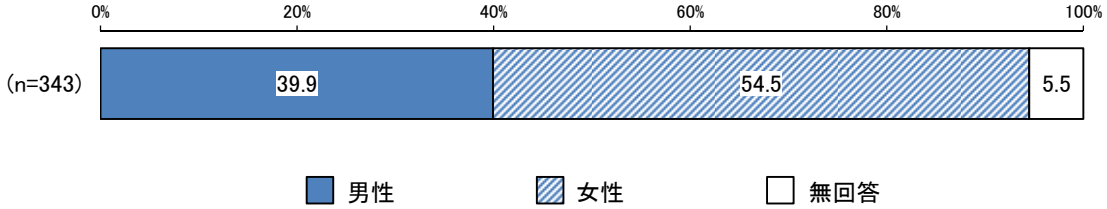
【年齢】



（2）性別

回答者の性別は、「男性」が 39.9%、「女性」が 54.5%となっている。

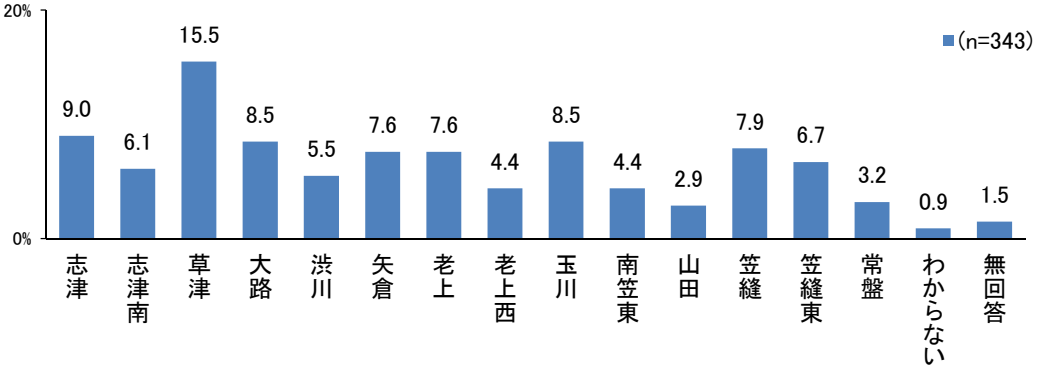
【性別】



（3）居住地域

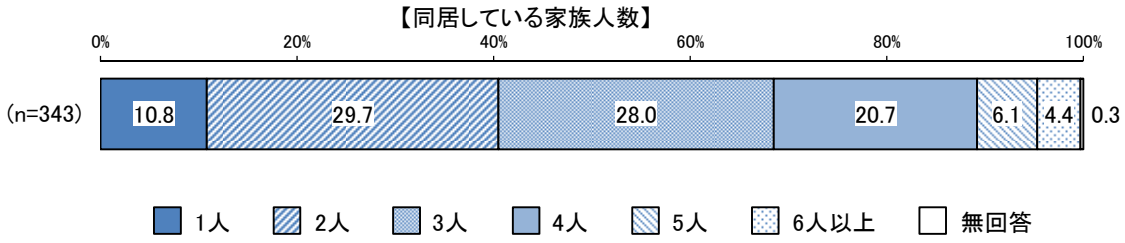
回答者の居住地域は、「草津」が 15.5%で最も高く、次いで「志津」が 9.0%、「大路」と「玉川」がともに 8.5%、「笠縫」が 7.9%、「矢倉」と「老上」がともに 7.6%となっている。

【居住地域】



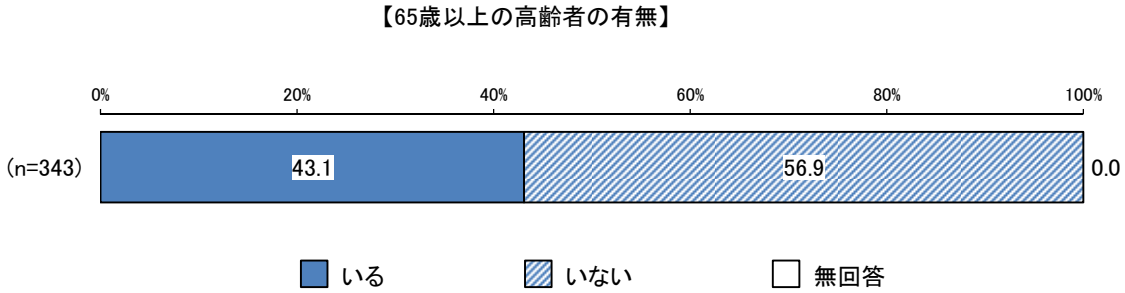
(4)同居している家族人数

同居している家族人数は、「2 人」が 29.7%で最も高く、次いで「3 人」が 28.0%、「4 人」が 20.7%となっている。一方、「1 人」は 10.8%となっている。



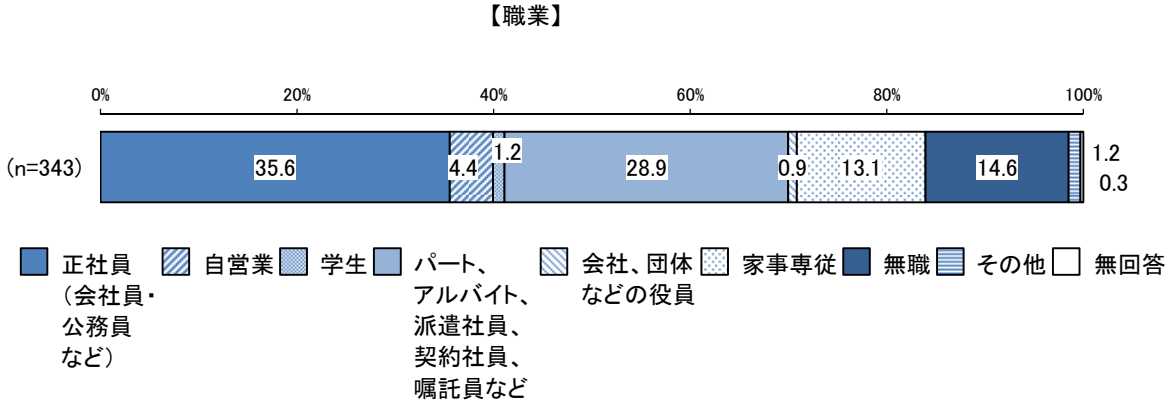
(5)65 歳以上の高齢者の有無

同居者のうちの 65 歳以上の高齢者の有無については、「いる」が 43.1%、「いない」が 56.9%となっている。



(6)職業

回答者の職業は、「正社員(会社員・公務員など)」が 35.6%で最も高く、次いで「パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員など」が 28.9%、「無職」が 14.6%、「家事専従」が 13.1%となっており、就労中の回答者が約 70%となっている。



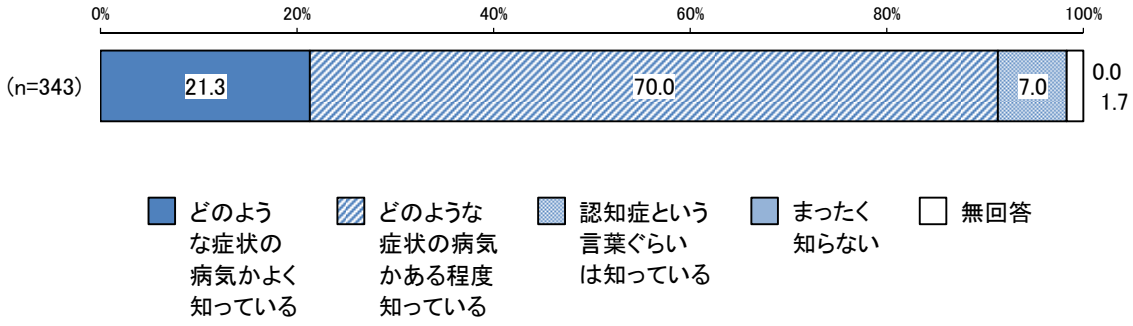
２．認知症に対する知識と認識について

（1）認知症の認識程度

問２　あなたは、認知症という病気について、どの程度ご存知ですか。

認知症に対する認識については、「どのような症状の病気かある程度知っている」が 70.0％で最も高く、次いで「どのような症状の病気かよく知っている」が 21.3％となっている。

【認知症の認識程度】



年齢別にみると、「どのような症状の病気かよく知っている」の割合は、70 歳以上が 28.9％で他の年代に比べて高い。一方、40 歳代は 11.4％で他の年代に比べて低い傾向である。20・30 歳代が 23.7％で全体平均より高いのは、問７の認知症に関する講演会などの参加経験や問８の回答で仕事やボランティアで認知症の人と接した経験が他の年代よりも高いことと関連していると推察される。

性別にみると、女性の方が男性より「どのような症状の病気かよく知っている」の割合が高くなっている。

【年齢別、性別　認知症の認識程度】

（％）

		回答者数（ｎ）	どのような症状の病気かよく知っている	どのような症状の病気かある程度知っている	認知症という言葉ぐらいは知っている	まったく知らない	無回答
全体		343	21.3	70.0	7.0	－	1.7
年齢別	20・30歳代	76	23.7	67.1	7.9	－	1.3
	40歳代	70	11.4	78.6	10.0	－	－
	50歳代	66	24.2	71.2	4.5	－	－
	60歳代	79	21.5	70.9	6.3	－	1.3
	70歳以上	45	28.9	57.8	4.4	－	8.9
性別	男性	137	19.0	68.6	10.2	－	2.2
	女性	187	23.5	70.6	4.8	－	1.1

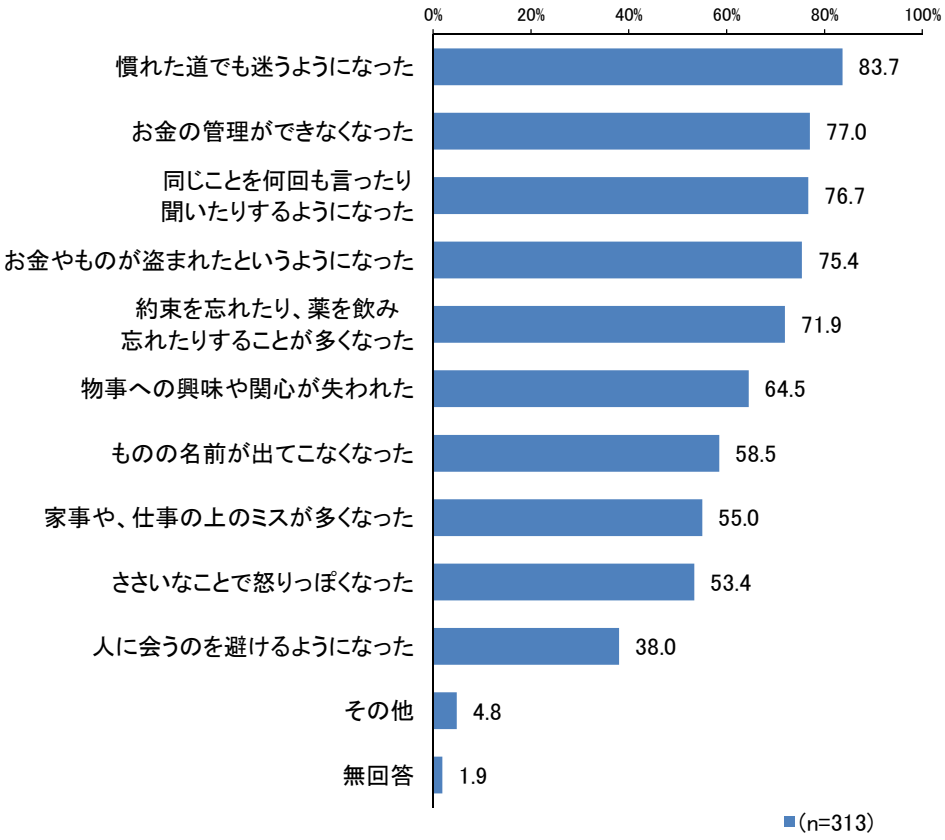
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（2）認知症と思う症状

問３　あなたが認知症の症状だと思うのは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

認知症だと思う症状は、「慣れた道でも迷うようになった」が 83.7％で最も高く、次いで「お金の管理ができなくなった」が 77.0％、「同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった」が 76.7％、「お金やものが盗まれたというようになった」が 75.4％、「約束を忘れたり、薬を飲み忘れたりすることが多くなった」が 71.9％となっている。

【認知症と思う症状】



年齢別にみると、年代が若い方がいずれの項目も回答割合が高い傾向である。なかでも20・30歳代が総じて回答割合が高いのは、認知症に関する講演会などの参加経験に関連していると考えられる。60 歳代以上の人では、老化によるもの忘れなどは自分にも思い当たることなので、認知症の症状だと認識しにくいのかもしれない。

性別にみると、すべての項目で女性の方が男性より回答割合が高く、認知症の症状に対する認識が高いといえる。

【年齢別、性別　認知症と思う症状】

（%）

		回答者数（n）	慣れた道でも迷うようになった	お金の管理ができなくなった	同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった	お金やものが盗まれたというようになった	約束を忘れたり、薬を飲み忘れたりすることが多くなった	物事への興味や関心が失われた	ものの名前が出てこなくなった	家事や、仕事の上のミスが多くなった	ささいなことで怒りっぽくなった	人に会うのを避けるようになった	その他	無回答
全体		313	83.7	77.0	76.7	75.4	71.9	64.5	58.5	55.0	53.4	38.0	4.8	1.9
年齢別	20・30歳代	69	87.0	76.8	91.3	84.1	85.5	68.1	75.4	71.0	68.1	52.2	1.4	-
	40歳代	63	92.1	85.7	79.4	77.8	73.0	68.3	57.1	52.4	58.7	38.1	3.2	1.6
	50歳代	63	87.3	82.5	71.4	81.0	71.4	66.7	49.2	55.6	47.6	33.3	4.8	1.6
	60歳代	73	78.1	69.9	78.1	67.1	64.4	61.6	56.2	49.3	43.8	32.9	8.2	2.7
	70歳以上	39	69.2	69.2	56.4	64.1	64.1	53.8	48.7	41.0	46.2	33.3	5.1	5.1
性別	男性	120	82.5	71.7	71.7	72.5	66.7	58.3	58.3	45.8	43.3	32.5	1.7	2.5
	女性	176	86.4	82.4	81.3	78.4	77.3	69.9	60.8	63.6	61.4	43.8	7.4	1.7

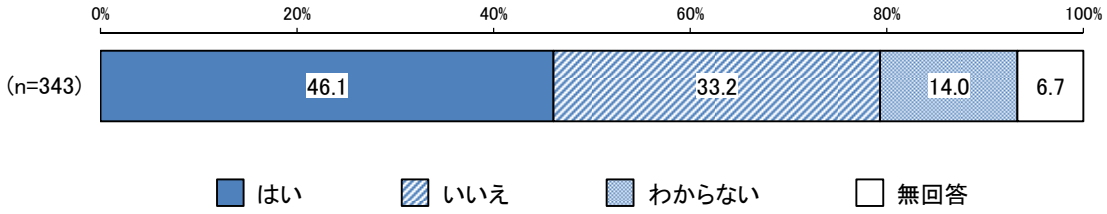
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（3）自分自身が認知症になった場合のことを考えたことがあるか

問４　あなたは、自分自身が認知症になった場合のことを考えたことがありますか。

自分自身が認知症になった場合のことを考えたことがあるかについては、「はい」が 46.1%、「いいえ」が 33.2%、「わからない」が 14.0%となっている。

【自分自身が認知症になった場合のことを考えたことがあるか】



年齢別にみると、40 歳代以下は「いいえ」の回答が「はい」よりも高いが、50 歳代以上では「はい」の回答が高くなっている。60 歳代以上では半数以上が「はい」と回答している。

性別にみると、男性は「いいえ」の回答が「はい」よりも高いが、女性では「はい」の回答が高くなっている。女性の方が男性よりも自分ごととして認知症について考える割合が高いことが、前問の認知症への認識の高さにもつながっていると考えられる。

【年齢別、性別　自分自身が認知症になった場合のことを考えたことがあるか】

（%）

		回答者数（n）	はい	いいえ	わからない	無回答
全体		343	46.1	33.2	14.0	6.7
年齢別	20・30歳代	76	38.2	47.4	10.5	3.9
	40歳代	70	35.7	44.3	12.9	7.1
	50歳代	66	48.5	19.7	27.3	4.5
	60歳代	79	51.9	27.8	8.9	11.4
	70歳以上	45	53.3	26.7	13.3	6.7
性別	男性	137	33.6	43.1	16.8	6.6
	女性	187	52.9	26.7	12.8	7.5

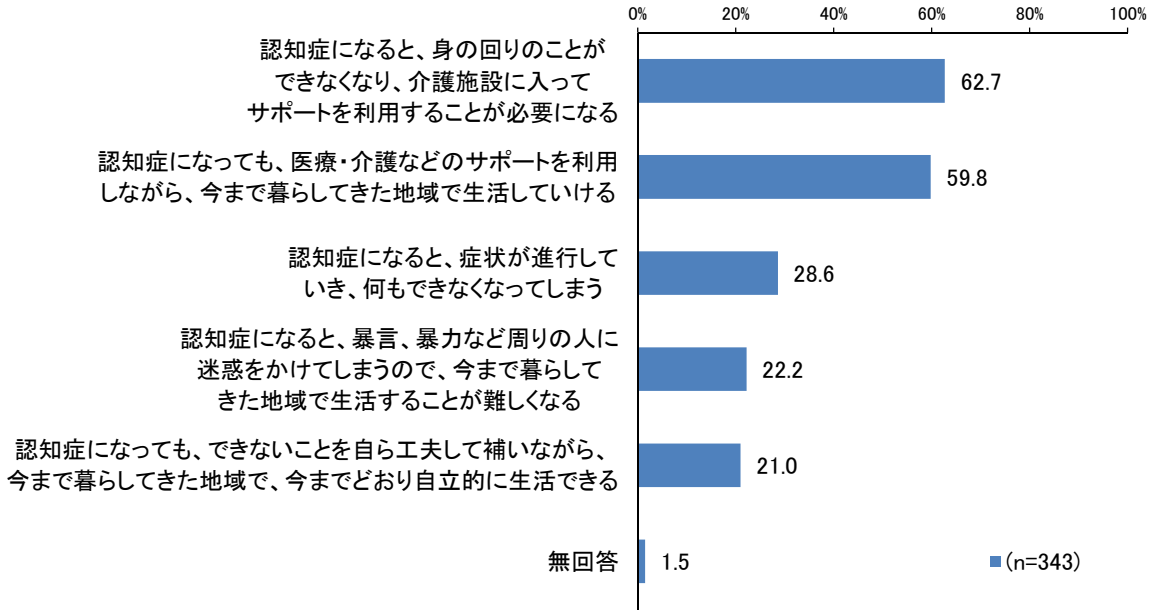
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（4）認知症に対するイメージ

問５　あなたの認知症に対するイメージは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

認知症に対するイメージについては、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が 62.7％で最も高く、次いで「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」が 59.8％、「認知症になると、症状が進行していき、何もできなくなってしまう」が 28.6％となっている。

【認知症に対するイメージ】



年齢別にみると、年代が低い方が「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」の回答割合が高い傾向であり、逆に「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」は、年代が高い方が回答割合が高い傾向である。

性別にみると、女性の方が男性よりも「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」の回答は8.4ポイント高い。その他の項目は大きな違いがみられない。

【年齢別、性別　認知症に対するイメージ】

（%）

		回答者数（n）	認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる	認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	認知症になると、症状が進行していき、何もできなくなってしまう	認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる	無回答
全体		343	62.7	59.8	28.6	22.2	21.0	1.5
年齢別	20・30歳代	76	71.1	40.8	28.9	30.3	11.8	1.3
	40歳代	70	62.9	68.6	31.4	25.7	20.0	1.4
	50歳代	66	65.2	60.6	25.8	19.7	18.2	-
	60歳代	79	63.3	59.5	32.9	25.3	20.3	3.8
	70歳以上	45	48.9	73.3	17.8	4.4	33.3	-
性別	男性	137	65.0	54.7	29.2	21.2	19.7	1.5
	女性	187	63.1	63.1	29.9	24.6	20.3	1.1

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

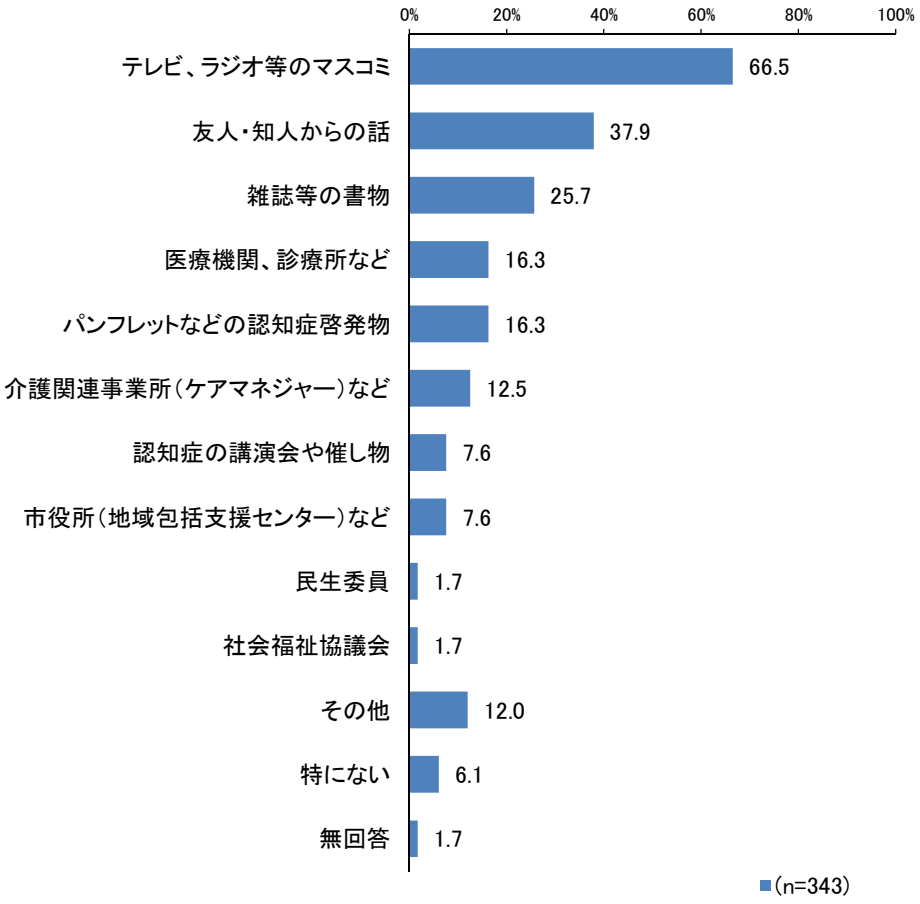
（5）認知症についての情報入手元

問６　認知症の情報を何から得られていますか。（あてはまるものすべてに○）

認知症についての情報入手元は、「テレビ、ラジオ等のマスコミ」が 66.5％で最も高く、次いで「友人・知人からの話」が 37.9％、「雑誌等の書物」が 25.7％となっている。

「その他」には、認知症の家族がいた、介護の仕事を通じてなどが挙げられている。

【認知症についての情報入手元】



年齢別にみると、50 歳代、60 歳代では「テレビ、ラジオ等のマスコミ」、「友人・知人からの話」の回答が他の年代よりも高くなっている。この年代は、認知症に対する関心が一定高いのでマスコミによる情報を見聞きしたり、友人との話題になることが多いのかもしれない。

性別にみると、女性の方が男性より回答割合が高い項目が多いが、大きな違いはみられない。

【年齢別、性別　認知症についての情報入手元】

（%）

		回答者数（ｎ）	テレビ、ラジオ等のマスコミ	友人・知人からの話	雑誌等の書物	医療機関、診療所など	パンフレットなどの認知症啓発物	介護関連事業所（ケアマネジャー）など	認知症の講演会や催し物	市役所（地域包括支援センター）など	民生委員	社会福祉協議会	その他	特にない	無回答
全体		343	66.5	37.9	25.7	16.3	16.3	12.5	7.6	7.6	1.7	1.7	12.0	6.1	1.7
年齢別	20・30歳代	76	47.4	25.0	11.8	19.7	7.9	9.2	9.2	10.5	1.3	3.9	22.4	13.2	－
	40歳代	70	68.6	40.0	20.0	11.4	7.1	10.0	2.9	4.3	－	－	8.6	8.6	4.3
	50歳代	66	75.8	43.9	24.2	16.7	22.7	16.7	9.1	7.6	3.0	3.0	9.1	1.5	－
	60歳代	79	79.7	44.3	38.0	15.2	25.3	13.9	6.3	8.9	1.3	－	7.6	1.3	2.5
	70歳以上	45	57.8	35.6	31.1	22.2	20.0	15.6	8.9	6.7	4.4	2.2	11.1	6.7	－
性別	男性	137	65.7	36.5	25.5	16.1	10.9	10.9	5.8	8.8	2.9	2.2	8.8	9.5	2.2
	女性	187	69.5	40.1	26.2	15.5	19.8	13.9	9.1	7.5	1.1	1.6	13.4	3.2	1.1

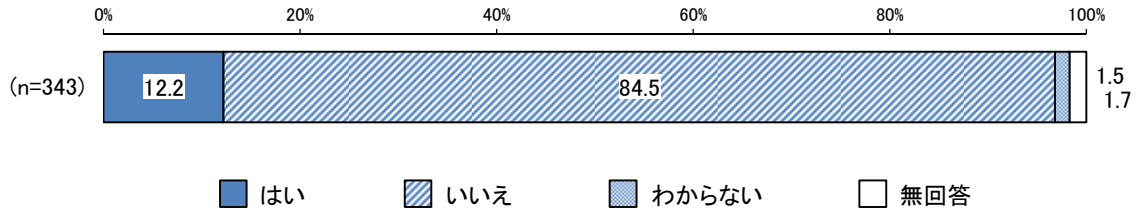
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（6）認知症に関する講演会などの参加有無

問７　これまでに認知症に関する講演会や催しに参加したことはありますか。

これまでに認知症に関する講演会や催しに参加したことがあるかについては、「いいえ」が 84.5%と高く、「はい」は 12.2%となっている。

【認知症に関する講演会などの参加有無】



年齢別にみると、認知症に関する講演会や催しの参加経験は、20･30 歳代が他の年代よりもやや高い。参加経験が低いのは 40 歳代である。

性別にみると、男女の違いはほとんどみられない。

【年齢別、性別　認知症に関する講演会などの参加有無】

（%）

		回答者数（n）	はい	いいえ	わからない	無回答
全体		343	12.2	84.5	1.5	1.7
年齢別	20・30歳代	76	15.8	81.6	2.6	－
	40歳代	70	4.3	92.9	1.4	1.4
	50歳代	66	10.6	87.9	1.5	－
	60歳代	79	13.9	83.5	－	2.5
	70歳以上	45	13.3	80.0	2.2	4.4
性別	男性	137	11.7	86.9	－	1.5
	女性	187	11.8	84.0	2.7	1.6

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

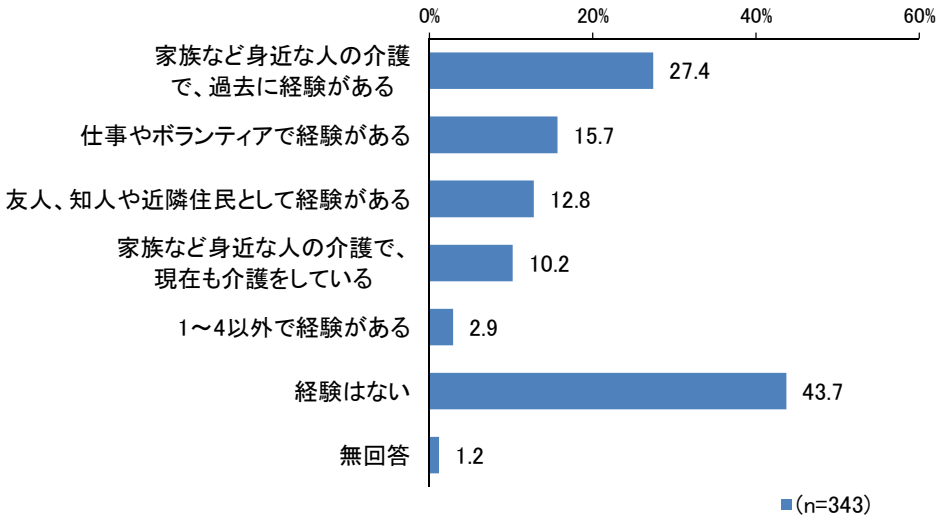
３．自分自身や家族が認知症になった場合について

（1）認知症の人と接した経験

問８　あなたは、今までに認知症の方と接した経験がありますか。（あてはまるものすべてに○）

認知症の人と接した経験については、「経験はない」が 43.7％で最も高く、次いで「家族など身近な人の介護で、過去に経験がある」が 27.4％、「仕事やボランティアで経験がある」が 15.7％、「友人、知人や近隣住民として経験がある」が 12.8％、「家族など身近な人の介護で、現在も介護をしている」が 10.2％となっている。

【認知症の人と接した経験】



年齢別にみると、どの年代も「経験はない」が最も高い回答であるが、20・30 歳代では「仕事やボランティアで経験がある」が 26.3%で他の年代よりも高い。

性別にみると、男性は「経験はない」が 48.2%で半数近いが、女性は 40.6%で約 4 割である。「家族など身近な人の介護で、過去に経験がある」は男女の違いはほとんどないが、「仕事やボランティアで経験がある」、「友人、知人や近隣住民として経験がある」、「家族など身近な人の介護で、現在も介護をしている」は、いずれも男性よりも女性の方が高くなっている。

【年齢別、性別　認知症の人と接した経験】

（%）

		回答者数（n）	家族など身近な人の介護で、過去に経験がある	仕事やボランティアで経験がある	友人、知人や近隣住民として経験がある	家族など身近な人の介護で、現在も介護をしている	1～4以外で経験がある	経験はない	無回答
全体		343	27.4	15.7	12.8	10.2	2.9	43.7	1.2
年齢別	20・30歳代	76	25.0	26.3	9.2	9.2	2.6	43.4	－
	40歳代	70	28.6	11.4	8.6	10.0	2.9	45.7	－
	50歳代	66	22.7	12.1	15.2	10.6	1.5	47.0	1.5
	60歳代	79	31.6	13.9	17.7	13.9	1.3	39.2	2.5
	70歳以上	45	28.9	13.3	11.1	4.4	8.9	44.4	2.2
性別	男性	137	27.0	8.0	10.2	7.3	3.6	48.2	1.5
	女性	187	27.8	19.8	15.5	12.8	2.7	40.6	1.1

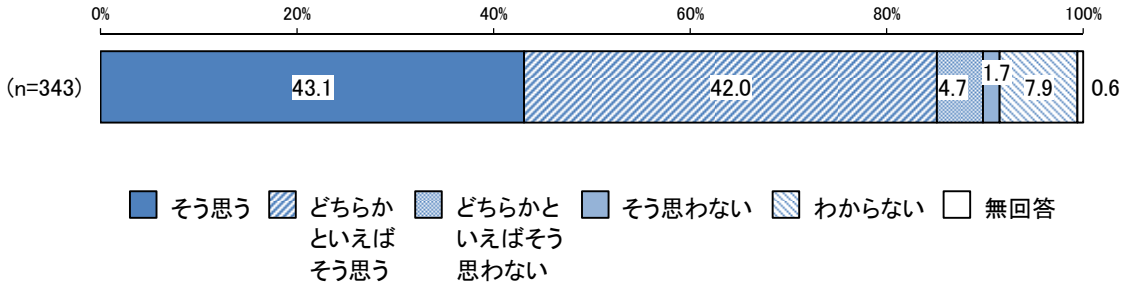
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（2）周囲の人の対応によって認知症の症状の進行が変わると思うか

問９　あなたは、周囲の人の対応によって、認知症の症状の進行が変わると思いますか。

周囲の人の対応によって認知症の症状の進行が変わると思うかについては、「そう思う」（43.1％）と、「どちらかといえばそう思う」（42.0％）が合わせて 85.1％となっている。

【周囲の人の対応によって認知症の症状の進行が変わると思うか】



年齢別にみると、40 歳代、60 歳代、70 歳以上では「そう思う」が 4 割を超えて、他の年代よりも高い。

性別にみると、女性の方が男性よりも「そう思う」が 8.5 ポイント高く、逆に男性は「わからない」が高い傾向である。

【年齢別、性別　周囲の人の対応によって認知症の症状の進行が変わると思うか】

（%）

		回答者数（n）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全体		343	43.1	42.0	4.7	1.7	7.9	0.6
年齢別	20・30歳代	76	39.5	44.7	5.3	3.9	6.6	－
	40歳代	70	47.1	34.3	8.6	－	10.0	－
	50歳代	66	36.4	50.0	3.0	1.5	9.1	－
	60歳代	79	45.6	41.8	3.8	2.5	5.1	1.3
	70歳以上	45	48.9	35.6	2.2	－	11.1	2.2
性別	男性	137	38.0	42.3	5.8	2.2	10.2	1.5
	女性	187	46.5	41.2	4.3	1.6	6.4	－

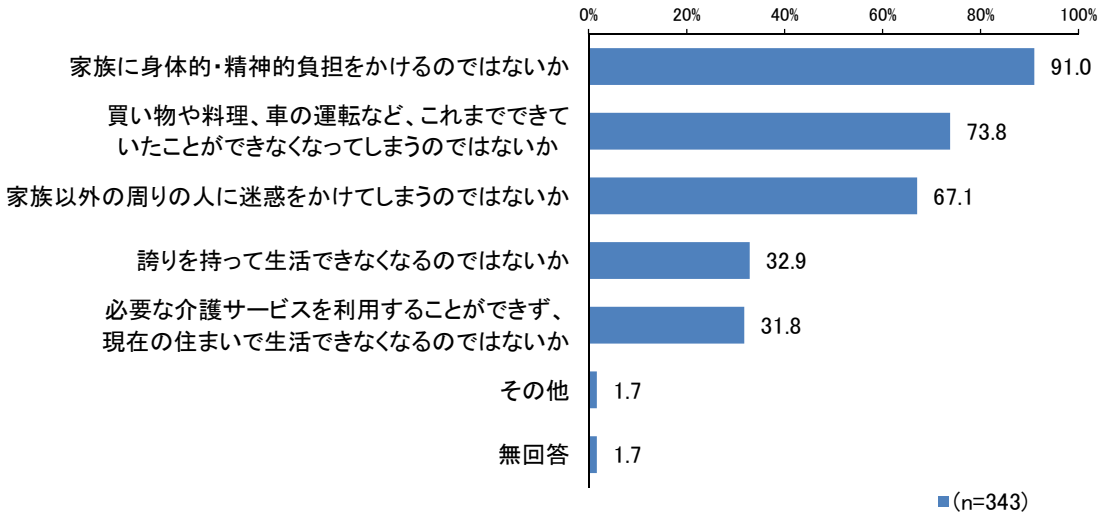
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（3）認知症に対する不安

問１０　あなたの認知症に対する不安は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

認知症に対する不安については、「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか」が 91.0％で最も高く、次いで「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなってしまうのではないか」が 73.8％、「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」が 67.1％となっている。

【認知症に対する不安】



年齢別にみると、家族に負担をかけたり、周りの人に迷惑をかけたりする不安は、50 歳代以下の方が 60 歳代以上よりも強い傾向である。

性別にみると、女性の方が男性よりも全般的に回答割合が高くなっており、認知症に対する不安が強い傾向である。なかでも、「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなってしまうのではないか」は、男性より 10 ポイント以上高く、男女の差がみられている。

【年齢別、性別　認知症に対する不安】

（%）

		回答者数（n）	家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか	買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなってしまうのではないか	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか	誇りを持って生活できなくなるのではないか	必要な介護サービスを利用することができず、現在の住まいで生活できなくなるのではないか	その他	無回答
全体		343	91.0	73.8	67.1	32.9	31.8	1.7	1.7
年齢別	20・30歳代	76	94.7	77.6	73.7	39.5	32.9	1.3	1.3
	40歳代	70	94.3	77.1	74.3	30.0	32.9	1.4	－
	50歳代	66	92.4	66.7	71.2	30.3	39.4	－	1.5
	60歳代	79	89.9	70.9	57.0	34.2	27.8	3.8	1.3
	70歳以上	45	82.2	77.8	53.3	28.9	26.7	2.2	4.4
性別	男性	137	91.2	69.3	65.7	31.4	32.1	－	1.5
	女性	187	92.5	80.2	70.1	35.3	32.6	3.2	0.5

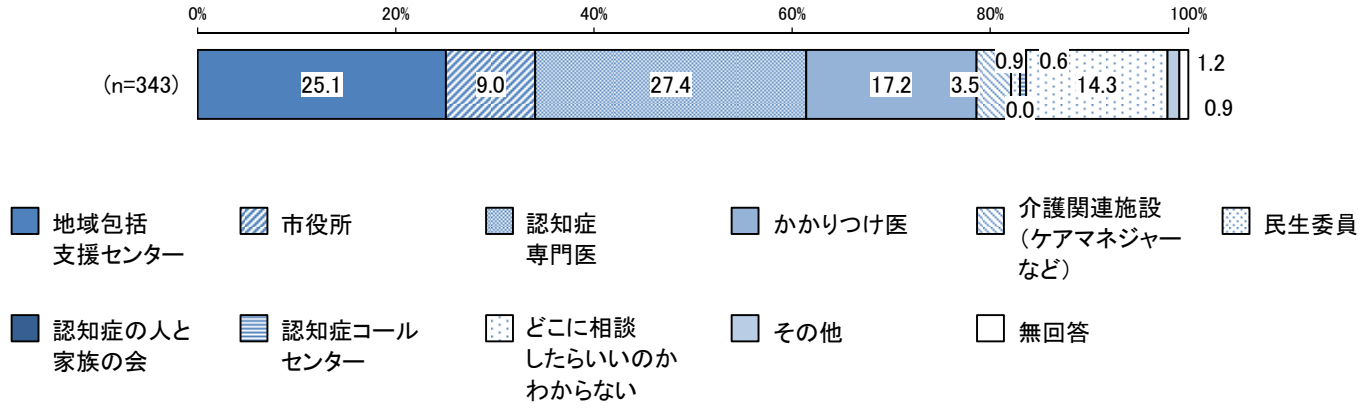
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（4）認知症の疑いがある場合の相談機関

問１１　もし、あなたやあなたの家族が認知症の疑いがあるとき、家族や知人以外では、まず、どこに（だれに）相談すると思いますか。（もっともあてはまるものに○）

認知症の疑いがある場合にまず相談する機関については、「認知症専門医」が 27.4%で最も高く、次いで「地域包括支援センター」が 25.1%、「かかりつけ医」が 17.2%、「どこに相談したらいいのかわからない」が 14.3%となっている。

【認知症の疑いがある場合の相談機関】



年齢別にみると、20･30 歳代は「認知症専門医」が 36.8%で、他の年代に比べて高くなっている。「地域包括支援センター」は 50 歳代以上では 3 割を超えているが、40 歳代以下では 1 割台である。40 歳代以下の世代に地域包括支援センターの認知が低いことがうかがえる。

また、年代が低いほど「どこに相談したらいいのかわからない」が高くなる傾向である。

性別にみると、「認知症専門医」は男女の回答割合はほぼ同じである。「地域包括支援センター」は女性の方が 7.7 ポイント高くなっている。

【年齢別、性別　認知症の疑いがある場合の相談機関】

（%）

		回答者数（n）	地域包括支援センター	市役所	認知症専門医	かかりつけ医	介護関連施設（ケアマネジャーなど）	民生委員	認知症の人と家族の会	認知症コールセンター	どこに相談したらいいのかわからない	その他	無回答
全体		343	25.1	9.0	27.4	17.2	3.5	0.9	－	0.6	14.3	1.2	0.9
年齢別	20・30歳代	76	14.5	7.9	36.8	13.2	3.9	－	－	1.3	19.7	2.6	－
	40歳代	70	11.4	20.0	24.3	22.9	4.3	－	－	－	17.1	－	－
	50歳代	66	33.3	6.1	28.8	10.6	6.1	－	－	－	15.2	－	－
	60歳代	79	34.2	5.1	21.5	21.5	2.5	－	－	－	11.4	1.3	2.5
	70歳以上	45	33.3	6.7	28.9	15.6	－	6.7	－	2.2	4.4	－	2.2
性別	男性	137	21.2	10.2	27.0	19.0	4.4	－	－	0.7	14.6	1.5	1.5
	女性	187	28.9	7.0	27.8	16.0	2.1	1.6	－	0.5	15.0	0.5	0.5

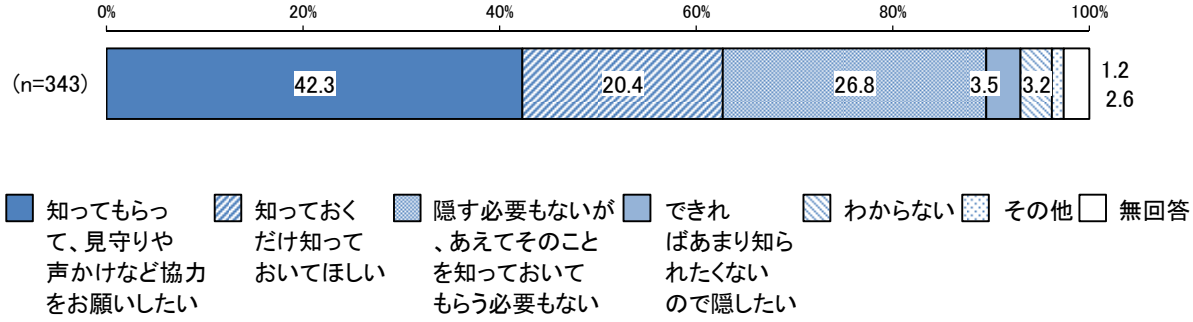
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（5）家族が認知症になった場合に近所の人に知ってもらいたいか

問１２　もし、あなたの家族が認知症になったら、そのことを近所の人に知ってもらおうと思いますか。（もっともあてはまるものに○）

家族が認知症になった場合にそのことを近所の人に知ってもらいたいかについては、「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」が 42.3％で最も高く、次いで「隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない」が 26.8％、「知っておくだけ知っておいてほしい」が 20.4％となっている。

【家族が認知症になった場合に近所の人に知ってもらいたいか】



年齢別にみると、70 歳以上では「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」が 5 割を超えており、他の年代よりも高くなっている。20・30 歳代では「できればあまり知られたくないので隠したい」がやや高くなっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」が 8.8 ポイント高い。「隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない」は、男性の方が女性より 9.8 ポイント高くなっている。

【年齢別、性別　家族が認知症になった場合に近所の人に知ってもらいたいか】

（%）

		回答者数（n）	知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい	知っておくだけ知っておいてほしい	隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない	できればあまり知られたくないので隠したい	わからない	その他	無回答
全体		343	42.3	20.4	26.8	3.5	3.2	1.2	2.6
年齢別	20・30歳代	76	31.6	23.7	30.3	9.2	1.3	1.3	2.6
	40歳代	70	47.1	21.4	24.3	1.4	2.9	－	2.9
	50歳代	66	39.4	19.7	30.3	1.5	9.1	－	－
	60歳代	79	46.8	21.5	21.5	2.5	2.5	1.3	3.8
	70歳以上	45	51.1	13.3	28.9	2.2	－	2.2	2.2
性別	男性	137	37.2	17.5	32.8	6.6	2.2	－	3.6
	女性	187	46.0	22.5	23.0	1.6	3.7	1.6	1.6

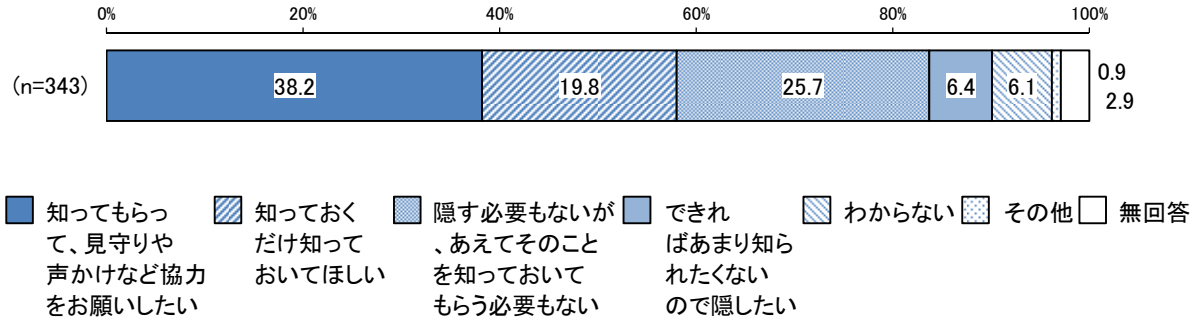
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（6）自分自身が認知症になった場合に近所の人に知ってもらいたいか

問１３　もし、あなたが認知症になったら、そのことを近所の人に知ってもらおうと思いますか。（もっともあてはまるものに○）

自分自身が認知症になった場合にそのことを近所の人に知ってもらいたいかについては、「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」が 38.2%で最も高く、次いで「隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない」が 25.7%、「知っておくだけ知っておいてほしい」が 19.8%となっている。

【自分自身が認知症になった場合に近所の人に知ってもらいたいか】



年齢別にみると、60 歳代以上では「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」が 4 割を超えて、他の年代よりも高い。20・30 歳代は「できればあまり知られたくないので隠したい」が他の年代よりも 10 ポイント以上高い。

性別にみると、「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」と「知っておくだけ知っておいてほしい」は女性の方が男性よりも高く、「隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない」は男性の方が女性より高くなっている。

【年齢別、性別　自分自身が認知症になった場合に近所の人に知ってもらいたいか】

（%）

		回答者数（ｎ）	知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい	知っておくだけ知っておいてほしい	隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない	できればあまり知られたくないので隠したい	わからない	その他	無回答
全体		343	38.2	19.8	25.7	6.4	6.1	0.9	2.9
年齢別	20・30歳代	76	25.0	27.6	25.0	17.1	1.3	2.6	1.3
	40歳代	70	38.6	18.6	25.7	4.3	10.0	－	2.9
	50歳代	66	37.9	27.3	25.8	1.5	7.6	－	－
	60歳代	79	48.1	15.2	25.3	2.5	3.8	－	5.1
	70歳以上	45	46.7	4.4	26.7	4.4	11.1	2.2	4.4
性別	男性	137	34.3	15.3	34.3	6.6	5.1	0.7	3.6
	女性	187	40.6	23.0	20.3	6.4	6.4	1.1	2.1

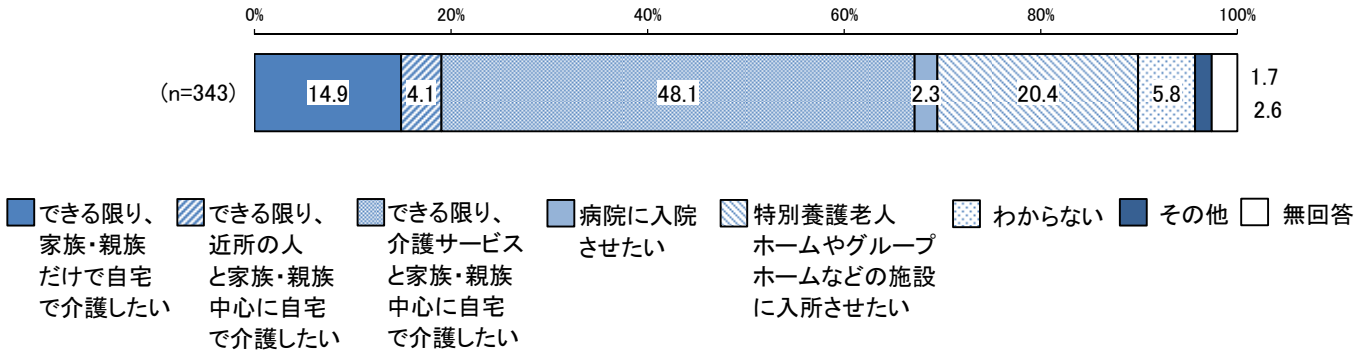
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（7）家族が認知症になった場合の生活場所

問１４　もし、あなたの家族が認知症になったら、どこで生活したいですか。（もっともあてはまるものに○）

家族が認知症になった場合に希望する生活場所については、「できる限り、介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護したい」が 48.1％で最も高く、次いで「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所させたい」が 20.4％、「できる限り、家族・親族だけで自宅で介護したい」が 14.9％となっている。

【家族が認知症になった場合の生活場所】



年齢別にみると、70 歳以上では、何らかのかたちで“自宅で介護したい”という回答の合計が 53.3％と半数を超えている一方で、「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所させたい」が 33.3％と他の年代に比べて高いのは、現実として自宅で介護するのが難しいと思う人がやや多いと推察される。

性別にみると、「できる限り、介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護したい」は女性の方が高く、「できる限り、家族・親族だけで自宅で介護したい」は男性の方が高くなっている。

【年齢別、性別　家族が認知症になった場合の生活場所】

（%）

		回答者数（n）	できる限り、家族・親族だけで自宅で介護したい	できる限り、近所の人と家族・親族中心に自宅で介護したい	できる限り、介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護したい	病院に入院させたい	特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所させたい	わからない	その他	無回答
全体		343	14.9	4.1	48.1	2.3	20.4	5.8	1.7	2.6
年齢別	20・30歳代	76	10.5	3.9	52.6	3.9	21.1	3.9	2.6	1.3
	40歳代	70	12.9	4.3	58.6	1.4	15.7	2.9	1.4	2.9
	50歳代	66	12.1	3.0	53.0	4.5	19.7	6.1	1.5	－
	60歳代	79	21.5	5.1	40.5	1.3	17.7	7.6	2.5	3.8
	70歳以上	45	17.8	2.2	33.3	－	33.3	8.9	－	4.4
性別	男性	137	19.7	5.8	43.8	4.4	18.2	4.4	－	3.6
	女性	187	11.2	2.1	52.9	1.1	20.9	7.0	3.2	1.6

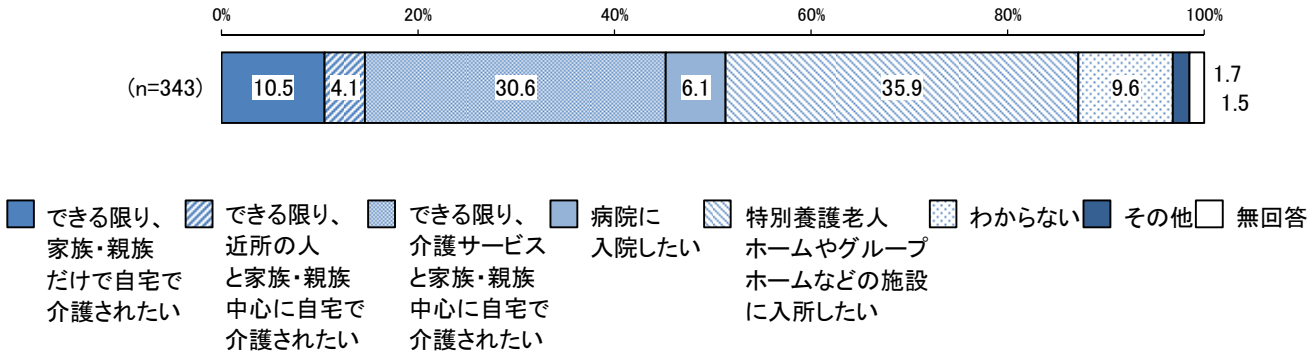
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（8）自分自身が認知症になった場合の生活場所

問１５　もし、あなたが認知症になったら、どこで生活したいですか。（もっともあてはまるものに○）

自分自身が認知症になった場合に希望する生活場所については、「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」が 35.9％で最も高く、次いで「できる限り、介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護されたい」が 30.6％、「できる限り、家族・親族だけで自宅で介護されたい」が 10.5％となっている。

【自分自身が認知症になった場合の生活場所】



年齢別にみると、70 歳以上では「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」が 44.4％で、他の年代に比べて高い。40 歳代も 70 歳以上と近い傾向である。20・30 歳代は「できる限り、介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護されたい」が 38.2％で他の年代に比べて高くなっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」が 15.6 ポイント高く、差が大きくなっている。

【年齢別、性別　自分自身が認知症になった場合の生活場所】

（%）

		回答者数（n）	できる限り、家族・親族だけで自宅で介護されたい	できる限り、近所の人と家族・親族中心に自宅で介護されたい	できる限り、介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護されたい	病院に入院したい	特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい	わからない	その他	無回答
全体		343	10.5	4.1	30.6	6.1	35.9	9.6	1.7	1.5
年齢別	20・30歳代	76	10.5	3.9	38.2	6.6	35.5	2.6	1.3	1.3
	40歳代	70	10.0	1.4	27.1	7.1	40.0	11.4	2.9	－
	50歳代	66	9.1	1.5	33.3	6.1	34.8	13.6	－	1.5
	60歳代	79	13.9	6.3	27.8	7.6	30.4	11.4	1.3	1.3
	70歳以上	45	8.9	4.4	24.4	2.2	44.4	8.9	4.4	2.2
性別	男性	137	13.9	6.6	31.4	7.3	27.7	8.8	2.2	2.2
	女性	187	8.0	1.6	30.5	5.3	43.3	10.2	1.1	－

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

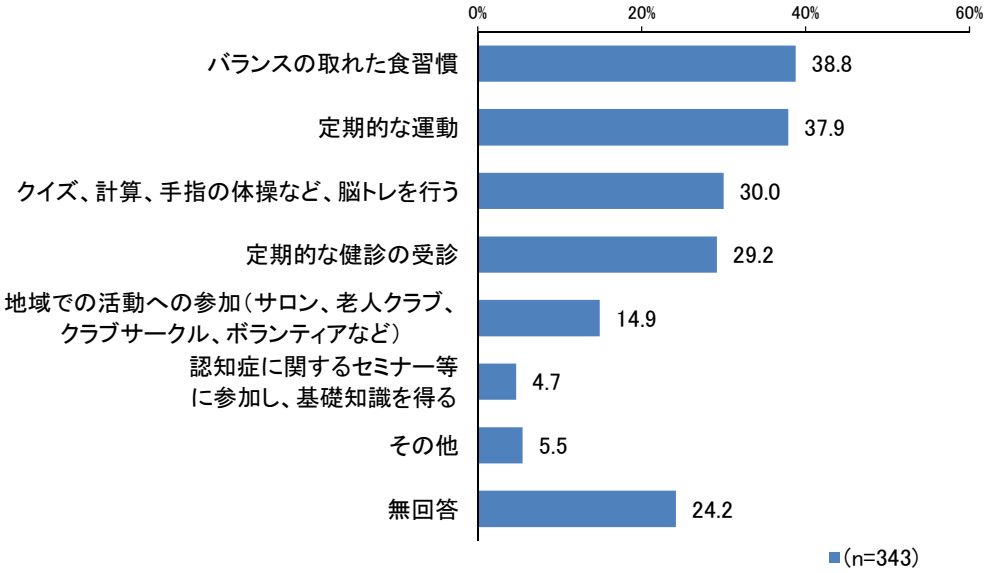
４．認知症予防について

（1）認知症予防のために取り組んでいること

問１６　あなたが認知症の予防のために取り組んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

認知症予防のために取り組んでいることは、「バランスの取れた食習慣」が 38.8％で最も高く、次いで「定期的な運動」が 37.9％、「クイズ、計算、手指の体操など、脳トレを行う」が 30.0％、「定期的な健診の受診」が 29.2％となっている。

【認知症予防のために取り組んでいること】



年齢別にみると、60 歳代以上は総じていずれの項目も回答割合が高く、認知症予防のために意識的に取り組んでいる様子がうかがえる。

性別にみると、「バランスの取れた食習慣」は、女性の方が男性より 10 ポイント以上高く、逆に「定期的な運動」は男性の方が女性より 10 ポイント以上高くなっているところに男女の違いがみられている。

【年齢別、性別　認知症予防のために取り組んでいること】

（%）

		回答者数（n）	バランスの取れた食習慣	定期的な運動	クイズ、計算、手指の体操など、脳トレを行う	定期的な健診の受診	地域での活動への参加（サロン、老人クラブ、クラブサークル、ボランティアなど）	認知症に関するセミナー等に参加し、基礎知識を得る	その他	無回答
全体		343	38.8	37.9	30.0	29.2	14.9	4.7	5.5	24.2
年齢別	20・30歳代	76	35.5	21.1	15.8	21.1	10.5	6.6	2.6	42.1
	40歳代	70	21.4	27.1	24.3	32.9	2.9	4.3	8.6	30.0
	50歳代	66	39.4	42.4	28.8	19.7	10.6	4.5	1.5	22.7
	60歳代	79	49.4	49.4	44.3	39.2	16.5	3.8	6.3	12.7
	70歳以上	45	51.1	57.8	33.3	35.6	37.8	－	8.9	8.9
性別	男性	137	32.8	45.3	27.7	32.1	13.1	4.4	5.1	28.5
	女性	187	44.4	33.7	31.0	28.9	15.5	5.3	5.9	20.3

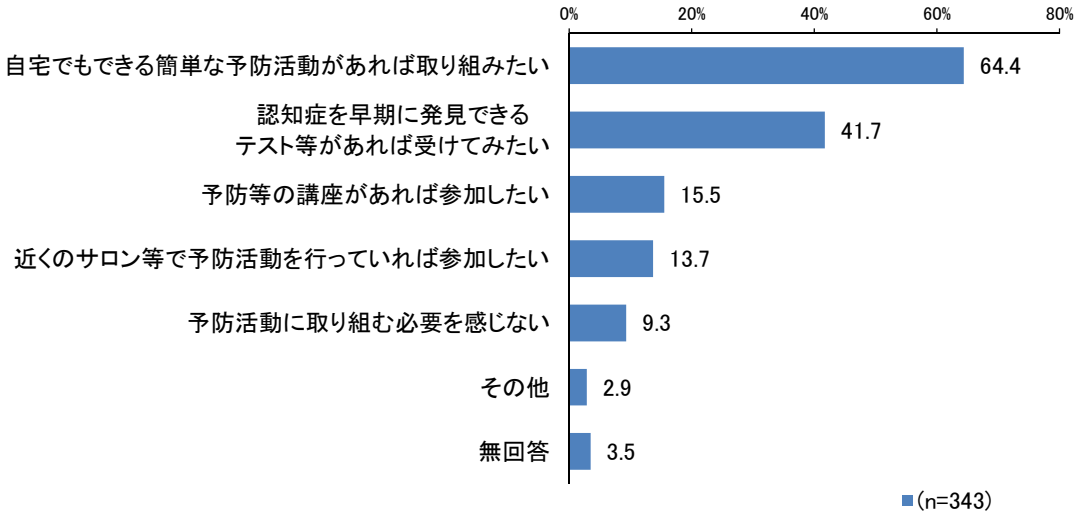
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（2）認知症予防についての考え方

問１７　認知症の予防についてどのように考えますか。（あてはまるものすべてに○）

認知症予防についての考え方については、「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」が64.4％で最も高く、次いで「認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい」が 41.7％となっている。

【認知症予防についての考え方】



年齢別にみると、年代が上がるほど「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」の回答割合が高くなっている。60 歳代では「認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい」が 50.6％で他の年代に比べて高くなっている。自分も認知症になるかもしれないという意識の表れと推察される。

性別にみると、「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」と「認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい」は、男性の方が女性より高く、「予防等の講座があれば参加したい」と「近くのサロン等で予防活動を行っていれば参加したい」は、女性の方が男性より高くなっている。

【年齢別、性別　認知症予防についての考え方】

（%）

		回答者数（n）	自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい	認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい	予防等の講座があれば参加したい	近くのサロン等で予防活動を行っていれば参加したい	予防活動に取り組む必要を感じない	その他	無回答
全体		343	64.4	41.7	15.5	13.7	9.3	2.9	3.5
年齢別	20・30歳代	76	55.3	40.8	10.5	10.5	13.2	7.9	1.3
	40歳代	70	64.3	38.6	17.1	12.9	14.3	4.3	1.4
	50歳代	66	65.2	43.9	16.7	12.1	9.1	－	4.5
	60歳代	79	69.6	50.6	15.2	16.5	2.5	－	5.1
	70歳以上	45	71.1	31.1	17.8	13.3	8.9	－	4.4
性別	男性	137	67.2	47.4	11.7	9.5	8.0	3.6	2.9
	女性	187	64.7	38.5	18.2	16.6	10.7	1.6	3.2

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

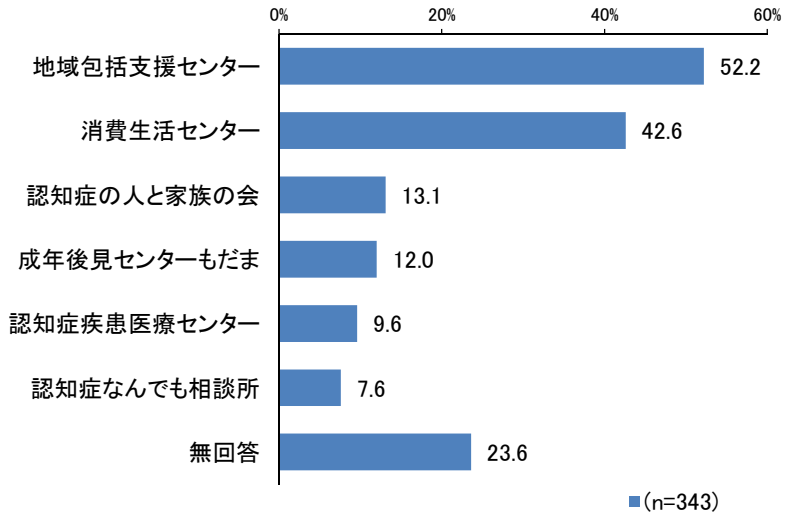
５．認知症に関する制度やサービスについて

（1）知っている相談機関

問１８　次のうち、あなたが知っているものすべてに○をしてください。

知っている相談機関については、「地域包括支援センター」が 52.2%で最も高く、次いで「消費生活センター」が 42.6%となっている。

【知っている相談機関】



年齢別にみると、60 歳代以上では、「地域包括支援センター」は 6 割以上が挙げており、他の年代に比べて高くなっている。20･30 歳代は「消費生活センター」は他の年代よりもやや高くなっている。

性別にみると、いずれの項目も女性の方が男性より回答割合が高く、認知率が高いことがわかる。

【年齢別、性別　知っている相談機関】

（%）

		回答者数（n）	地域包括支援センター	消費生活センター	認知症の人と家族の会	成年後見センターもだま	認知症疾患医療センター	認知症なんでも相談所	無回答
全体		343	52.2	42.6	13.1	12.0	9.6	7.6	23.6
年齢別	20・30歳代	76	46.1	48.7	13.2	14.5	10.5	10.5	23.7
	40歳代	70	32.9	38.6	8.6	5.7	8.6	4.3	35.7
	50歳代	66	56.1	42.4	12.1	9.1	10.6	9.1	27.3
	60歳代	79	64.6	40.5	17.7	11.4	8.9	5.1	15.2
	70歳以上	45	64.4	42.2	11.1	20.0	8.9	8.9	13.3
性別	男性	137	48.2	40.9	8.8	8.0	8.8	6.6	27.7
	女性	187	56.1	44.9	16.6	14.4	9.1	8.0	20.3

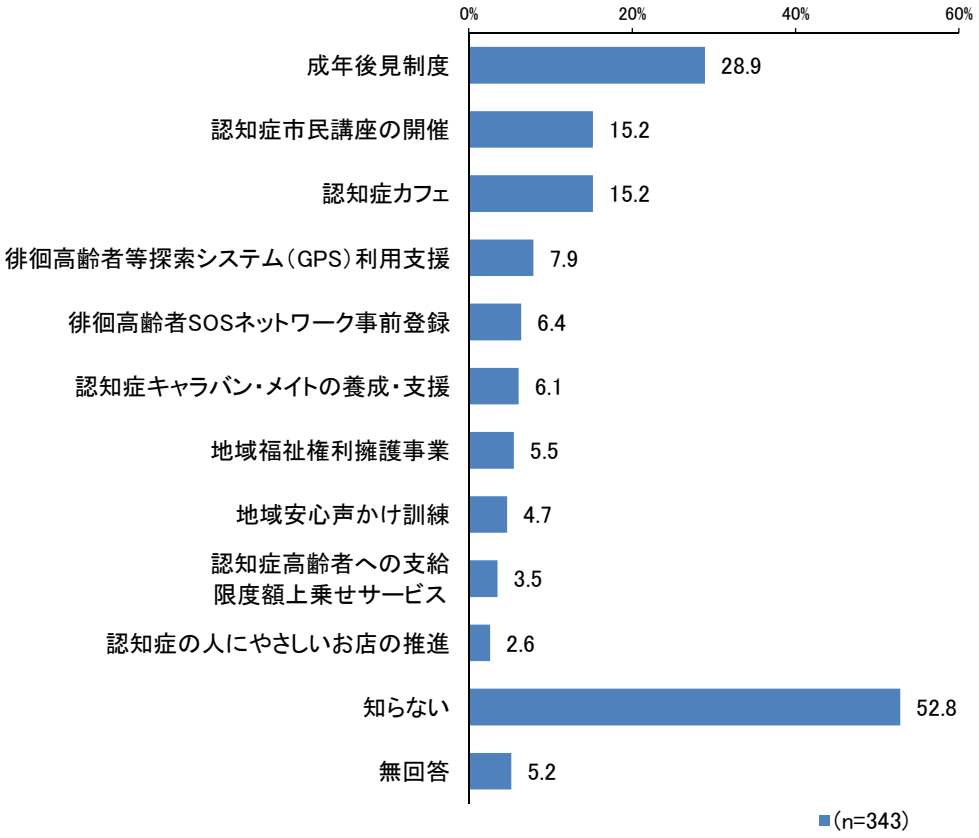
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（2）知っている認知症に関する取り組み

問１９　市等が実施している、認知症に関する取組のうち、知っているものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

知っている認知症に関する取り組みについては、「知らない」が 52.8％と高くなっている。取り組みとしては、「成年後見制度」が28.9％で最も高く、次いで「認知症市民講座の開催」と「認知症カフェ」がともに15.2％となっている。

【知っている認知症に関する取り組み】



年齢別にみると、年代が下がるほど「知らない」の回答割合が高い傾向である一方で、20・30 歳代はほとんどの項目で全体平均よりも高くなっている。この年代は、仕事やボランティアを通じて知る機会がある人が一定含まれていることによると考えられる。

性別にみると、男女による大きな違いはみられない。

【年齢別、性別　知っている認知症に関する取り組み】

（%）

		回答者数（n）	成年後見制度	認知症市民講座の開催	認知症カフェ	徘徊高齢者等探索システム（GPS）利用支援	徘徊高齢者SOSネットワーク事前登録	認知症キャラバン・メイトの養成・支援	地域福祉権利擁護事業	地域安心声かけ訓練	認知症高齢者への支給限度額上乗せサービス	認知症の人にやさしいお店の推進	知らない	無回答
全体		343	28.9	15.2	15.2	7.9	6.4	6.1	5.5	4.7	3.5	2.6	52.8	5.2
年齢別	20・30歳代	76	30.3	13.2	18.4	11.8	10.5	11.8	10.5	6.6	5.3	5.3	60.5	2.6
	40歳代	70	24.3	14.3	12.9	4.3	2.9	2.9	4.3	1.4	－	2.9	61.4	5.7
	50歳代	66	24.2	16.7	18.2	9.1	9.1	4.5	6.1	3.0	3.0	－	51.5	3.0
	60歳代	79	34.2	17.7	15.2	7.6	5.1	6.3	1.3	5.1	3.8	2.5	44.3	6.3
	70歳以上	45	33.3	11.1	8.9	6.7	2.2	2.2	4.4	6.7	6.7	－	42.2	8.9
性別	男性	137	27.7	16.8	11.7	6.6	3.6	8.0	5.1	4.4	3.6	2.2	54.7	4.4
	女性	187	29.9	13.9	18.7	8.6	8.0	5.3	5.9	5.3	3.7	3.2	51.9	4.8

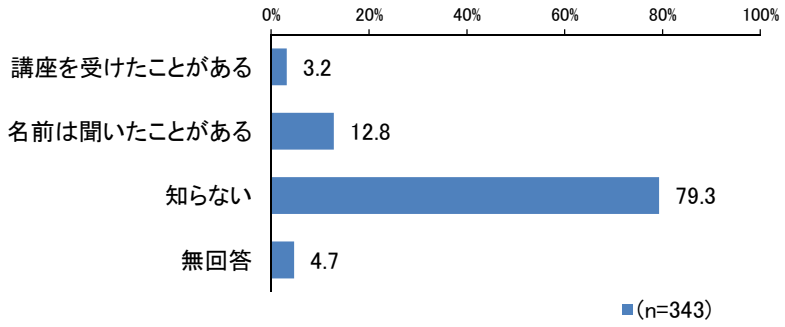
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（3）認知症サポーター養成講座の認知状況

問２０　草津市では「認知症サポーター養成講座」を開催していますが、知っていますか。（あてはまるものすべてに○）

「認知症サポーター養成講座」については、「知らない」が 79.3％で最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」が 12.8％、「講座を受けたことがある」が 3.2％となっている。

【認知症サポーター養成講座の認知状況】



年齢別にみると、40 歳代と 50 歳代は「知らない」が 8 割を超えており、他の年代に比べて認知率が低い。
性別にみると、女性の方が男性より「名前は聞いたことがある」の回答が 9.6 ポイント高くなっている。

【年齢別、性別　認知症サポーター養成講座の認知状況】

（%）

		回答者数（n）	講座を受けたことがある	名前は聞いたことがある	知らない	無回答
全体		343	3.2	12.8	79.3	4.7
年齢別	20・30歳代	76	6.6	13.2	75.0	5.3
	40歳代	70	－	12.9	85.7	1.4
	50歳代	66	3.0	10.6	83.3	3.0
	60歳代	79	2.5	13.9	79.7	3.8
	70歳以上	45	4.4	13.3	73.3	8.9
性別	男性	137	4.4	8.0	81.0	6.6
	女性	187	2.7	17.6	78.1	1.6

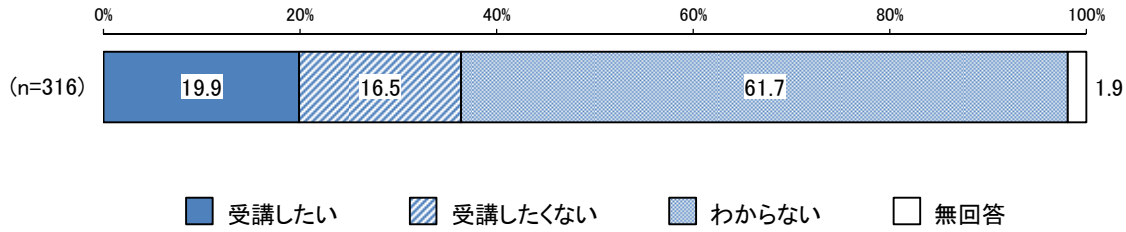
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（4）認知症サポーター養成講座の受講意向

問２１　問２０で「２．名前は聞いたことがある」または「３．知らない」とお答えされた方におうかがいします。あなたは「認知症サポーター養成講座」を受講したいと思いますか。

認知症サポーター養成講座の受講意向については、「わからない」が 61.7%で最も高く、次いで「受講したい」が 19.9%、「受講したくない」が 16.5%となっている。

【認知症サポーター養成講座の受講意向】



年齢別にみると、50 歳代以上では「受講したい」が 2 割を超えている。一方で 60 歳代以上では「受講したくない」も 2 割前後の回答がみられている。

性別にみると、女性の方が男性より「受講したい」の回答が高く、男性の方が女性より「受講したくない」の回答が高くなっている。

【年齢別、性別　認知症サポーター養成講座の受講意向】

（%）

		回答者数（n）	受講したい	受講したくない	わからない	無回答
全体		316	19.9	16.5	61.7	1.9
年齢別	20・30歳代	67	17.9	11.9	70.1	－
	40歳代	69	14.5	17.4	65.2	2.9
	50歳代	62	22.6	16.1	59.7	1.6
	60歳代	74	21.6	18.9	58.1	1.4
	70歳以上	39	25.6	20.5	48.7	5.1
性別	男性	122	14.8	20.5	62.3	2.5
	女性	179	22.9	14.0	61.5	1.7

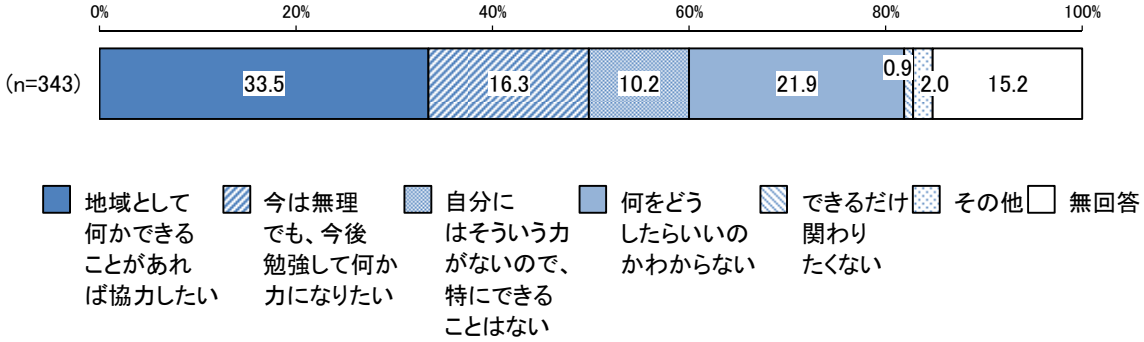
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（5）近所に認知症の人がいた場合の考え・行動

問２２　あなたの近所に認知症の方がいる場合、どのように感じ、どのように行動したいですか。（もっともあてはまるものに○）

近所に認知症の人がいた場合の考え・行動については、「地域として何かできることがあれば協力したい」が 33.5％で最も高く、次いで「何をどうしたらいいのかわからない」が 21.9％、「今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい」が 16.3％となっている。

【近所に認知症の人がいた場合の考え・行動】



年齢別にみると、年代が上がるほど「地域として何かできることがあれば協力したい」の回答が高い傾向である。40 歳代では「今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい」が他の年代に比べて高くなっている。

性別にみると、「地域として何かできることがあれば協力したい」は、女性の方が男性よりもやや高く、「何をどうしたらいいのかわからない」は、男性の方が女性よりやや高くなっている。

【年齢別、性別　近所に認知症の人がいた場合の考え・行動】

（%）

		回答者数（ｎ）	地域として何かできることがあれば協力したい	今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい	自分にはそういう力がないので、特にできることはない	何をどうしたらいいのかわからない	できるだけ関わりたくない	その他	無回答
全体		343	33.5	16.3	10.2	21.9	0.9	2.0	15.2
年齢別	20・30歳代	76	28.9	18.4	10.5	22.4	1.3	1.3	17.1
	40歳代	70	28.6	27.1	7.1	24.3	－	1.4	11.4
	50歳代	66	34.8	21.2	7.6	19.7	－	3.0	13.6
	60歳代	79	32.9	8.9	13.9	22.8	－	2.5	19.0
	70歳以上	45	46.7	2.2	13.3	20.0	4.4	2.2	11.1
性別	男性	137	31.4	16.1	11.7	24.8	1.5	0.7	13.9
	女性	187	36.4	16.0	9.1	19.8	0.5	3.2	15.0

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

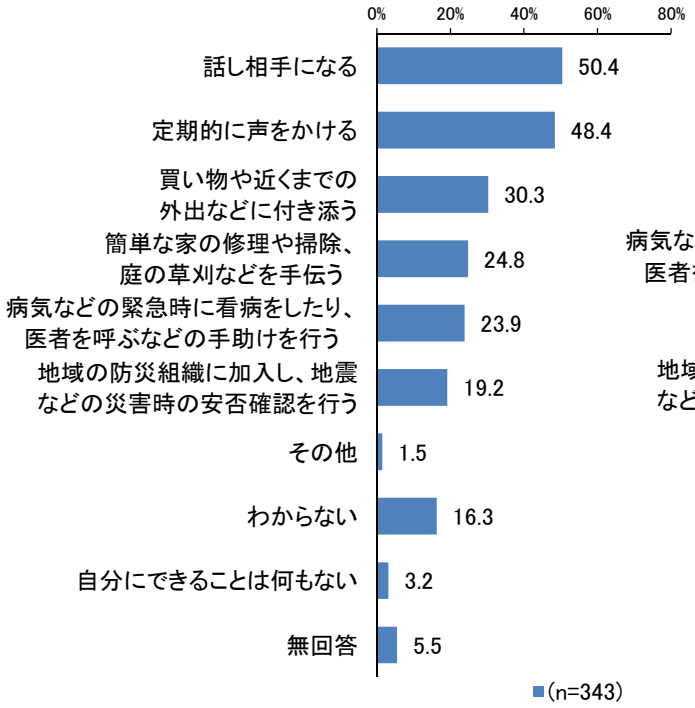
（6）認知症の人・家族介護者への支援方法

問２３　認知症の方とその家族を支えるとしたら、あなたにはどんなことができると考えますか。（あてはまるものすべてに○）

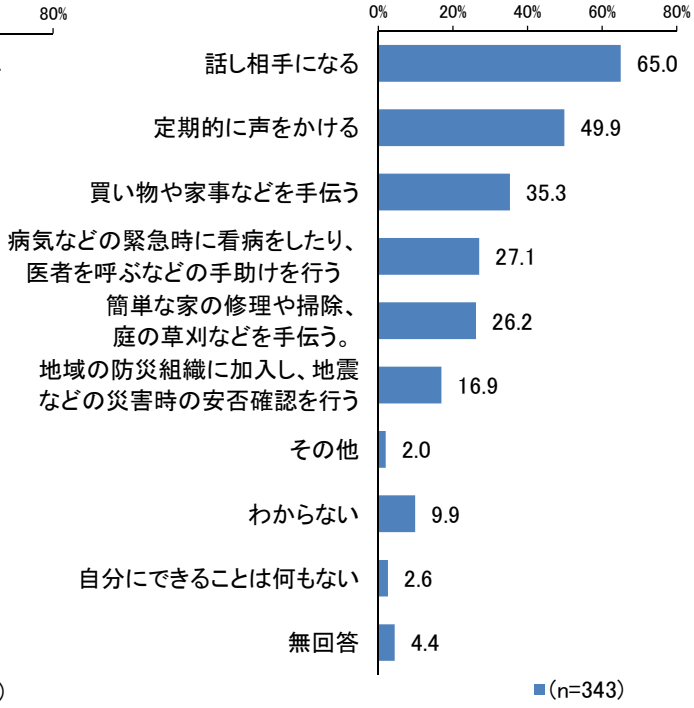
認知症の人への支援方法については、「話し相手になる」が 50.4％で最も高く、次いで「定期的に声をかける」が 48.4％、「買い物や近くまでの外出などに付き添う」が 30.3％となっている。

家族介護者への支援方法については、「話し相手になる」が 65.0％で最も高く、次いで「定期的に声をかける」が 49.9％、「買い物や家事などを手伝う」が 35.3％となっている。

【認知症の人への支援方法】



【家族介護者への支援方法】



年齢別にみると、認知症の人への支援方法、家族介護者への支援方法ともに、20・30 歳代では、他の年代よりも回答割合の高い項目が多く、具体的な支援方法のイメージがもてている様子である。この年代は、仕事やボランティアで認知症の人と接した経験のある人が一定含まれていることによると考えられる。

性別にみると、認知症の人への支援方法、家族介護者への支援方法ともに、「話し相手になる」、「定期的に声をかける」、「買い物や家事などを手伝う」は、女性の方が男性より高く、「簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などを手伝う」、「地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う」は、男性の方が女性よりも高くなっている。

【年齢別、性別　認知症の人への支援方法】

（%）

		回答者数（ｎ）	話し相手になる	定期的に声をかける	買い物や近くまでの外出などに付き添う	簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などを手伝う	病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助けを行う	地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う	その他	わからない	自分にできることは何もない	無回答
全体		343	50.4	48.4	30.3	24.8	23.9	19.2	1.5	16.3	3.2	5.5
年齢別	20・30歳代	76	63.2	57.9	35.5	28.9	39.5	22.4	－	6.6	3.9	2.6
	40歳代	70	50.0	44.3	31.4	20.0	22.9	22.9	2.9	20.0	2.9	2.9
	50歳代	66	51.5	50.0	31.8	24.2	21.2	21.2	1.5	19.7	1.5	4.5
	60歳代	79	40.5	44.3	24.1	24.1	16.5	13.9	－	20.3	3.8	8.9
	70歳以上	45	46.7	42.2	26.7	26.7	17.8	15.6	2.2	17.8	4.4	6.7
性別	男性	137	43.8	41.6	29.2	30.7	24.8	21.2	2.2	18.2	3.6	5.8
	女性	187	55.6	54.0	32.1	22.5	25.1	19.3	1.1	15.5	2.7	3.7

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

【年齢別、性別　家族介護者への支援方法】

（%）

		回答者数（ｎ）	話し相手になる	定期的に声をかける	買い物や家事などを手伝う	病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助けを行う	簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などを手伝う。	地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う	その他	わからない	自分にできることは何もない	無回答
全体		343	65.0	49.9	35.3	27.1	26.2	16.9	2.0	9.9	2.6	4.4
年齢別	20・30歳代	76	75.0	59.2	38.2	34.2	32.9	21.1	－	3.9	2.6	1.3
	40歳代	70	70.0	44.3	41.4	27.1	24.3	20.0	4.3	11.4	－	2.9
	50歳代	66	69.7	56.1	39.4	28.8	24.2	18.2	1.5	10.6	3.0	3.0
	60歳代	79	59.5	44.3	27.8	24.1	26.6	12.7	－	11.4	2.5	7.6
	70歳以上	45	42.2	42.2	28.9	17.8	20.0	13.3	6.7	15.6	6.7	4.4
性別	男性	137	54.0	46.0	35.0	28.5	28.5	21.2	3.6	13.1	2.9	5.1
	女性	187	74.9	54.0	37.4	27.3	26.2	15.5	1.1	7.0	2.1	2.7

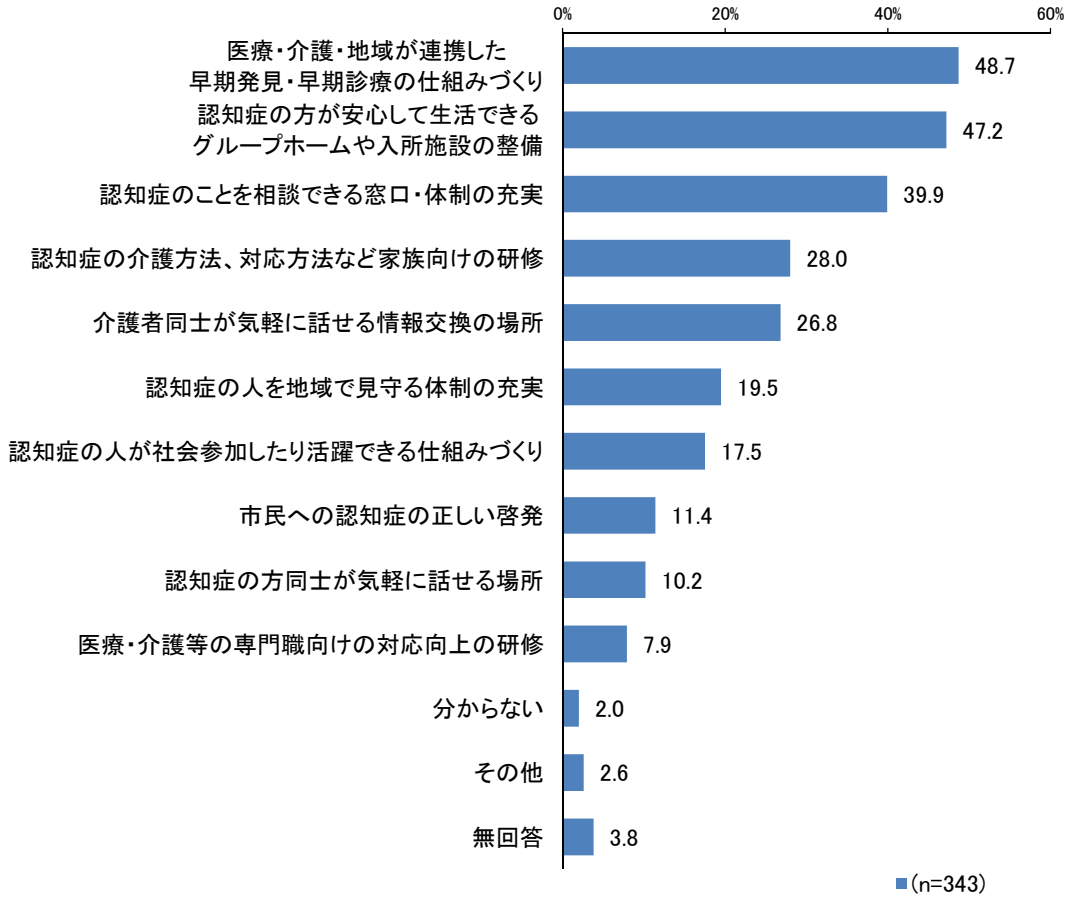
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（7）重点を置くべき認知症施策

問２４　認知症の施策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。（あてはまるもの３つまで○）

重点を置くべき認知症施策については、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療の仕組みづくり」が 48.7％で最も高く、次いで「認知症の方が安心して生活できるグループホームや入所施設の整備」が 47.2％、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」が 39.9％となっている。

【重点を置くべき認知症施策】



年齢別にみると、20・30 歳代は「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療の仕組みづくり」が61.8%で他の年代に比べて高く、40 歳代では「認知症の人を地域で見守る体制の充実」が他の年代よりも高くなっている。50 歳代では「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」を 48.5%が挙げている。70 歳以上では「認知症の方が安心して生活できるグループホームや入所施設の整備」を 6 割が挙げて高くなっている。

性別にみると、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療の仕組みづくり」は、男性の方が女性よりやや高く、「認知症の方が安心して生活できるグループホームや入所施設の整備」は、女性の方が男性よりやや高くなっている。

【年齢別、性別　重点を置くべき認知症施策】

（%）

		回答者数（n）	医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療の仕組みづくり	認知症の方が安心して生活できるグループホームや入所施設の整備	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	認知症の介護方法、対応方法など家族向けの研修	介護者同士が気軽に話せる情報交換の場所	認知症の人を地域で見守る体制の充実	認知症の人が社会参加したり活躍できる仕組みづくり	市民への認知症の正しい啓発	認知症の方同士が気軽に話せる場所	医療・介護等の専門職向けの対応向上の研修	分からない	その他	無回答
全体		343	48.7	47.2	39.9	28.0	26.8	19.5	17.5	11.4	10.2	7.9	2.0	2.6	3.8
年齢別	20・30歳代	76	61.8	43.4	34.2	30.3	28.9	14.5	23.7	13.2	13.2	5.3	2.6	2.6	1.3
	40歳代	70	44.3	51.4	37.1	20.0	32.9	30.0	14.3	11.4	11.4	10.0	1.4	1.4	2.9
	50歳代	66	42.4	39.4	48.5	33.3	30.3	24.2	12.1	10.6	15.2	6.1	1.5	4.5	3.0
	60歳代	79	49.4	46.8	41.8	29.1	22.8	16.5	20.3	12.7	6.3	7.6	2.5	2.5	5.1
	70歳以上	45	44.4	60.0	37.8	31.1	20.0	11.1	15.6	4.4	4.4	13.3	2.2	2.2	4.4
性別	男性	137	52.6	43.8	38.0	24.8	24.8	15.3	19.0	8.0	7.3	8.8	4.4	2.9	5.1
	女性	187	47.6	49.7	42.2	31.0	29.9	21.9	16.6	13.9	12.3	8.0	－	2.7	1.6

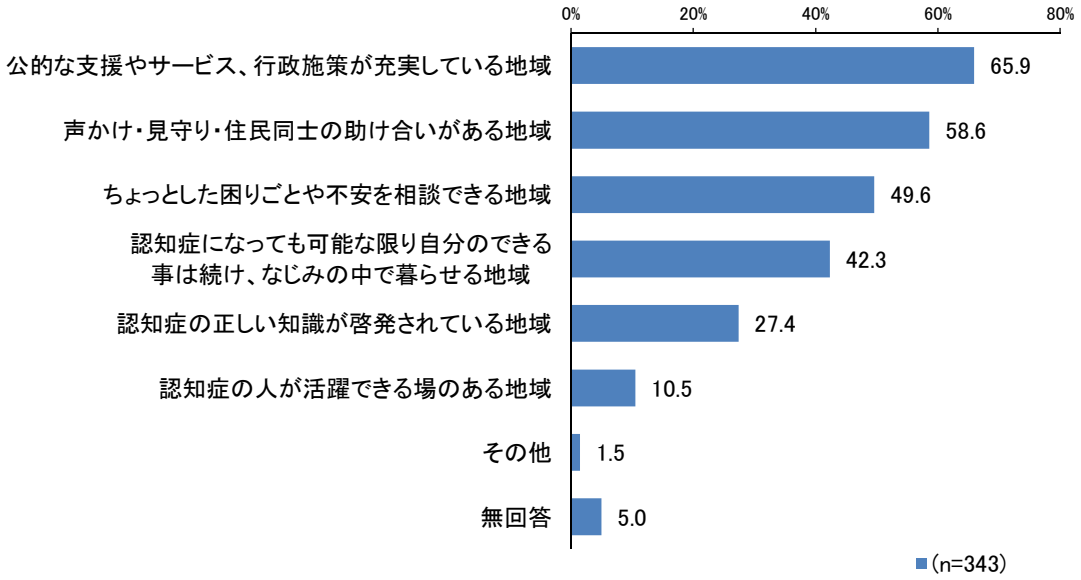
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（8）認知症になっても安心で暮らしやすい地域

問２５　あなたやあなたの家族が認知症になった場合、安心で暮らしやすい地域とはどんな地域だと思いますか。（あてはまるもの３つまで○）

認知症になっても安心で暮らしやすい地域については、「公的な支援やサービス、行政施策が充実している地域」が 65.9％で最も高く、次いで「声かけ・見守り・住民同士の助け合いがある地域」が 58.6％、「ちょっとした困りごとや不安を相談できる地域」が 49.6％となっている。

【認知症になっても安心で暮らしやすい地域】



年齢別にみると、50 歳代では、「ちょっとした困りごとや不安を相談できる地域」が 60.6%で他の年代より高く、70 歳以上では「認知症になっても可能な限り自分のできる事は続け、なじみの中で暮らせる地域」が 57.8%で他の年代よりも高くなっている。

性別にみると、「声かけ・見守り・住民同士の助け合いがある地域」、「認知症の正しい知識が啓発されている地域」は、女性の方が男性より 10 ポイント程度高くなっている。

【年齢別、性別　認知症になっても安心で暮らしやすい地域】

（%）

		回答者数（n）	公的な支援やサービス、行政施策が充実している地域	声かけ・見守り・住民同士の助け合いがある地域	ちょっとした困りごとや不安を相談できる地域	認知症になっても可能な限り自分のできる事は続け、なじみの中で暮らせる地域	認知症の正しい知識が啓発されている地域	認知症の人が活躍できる場のある地域	その他	無回答
全体		343	65.9	58.6	49.6	42.3	27.4	10.5	1.5	5.0
年齢別	20・30歳代	76	68.4	56.6	39.5	35.5	31.6	17.1	－	3.9
	40歳代	70	70.0	61.4	47.1	47.1	25.7	11.4	2.9	2.9
	50歳代	66	69.7	62.1	60.6	36.4	27.3	4.5	3.0	4.5
	60歳代	79	64.6	65.8	54.4	40.5	24.1	12.7	1.3	2.5
	70歳以上	45	55.6	44.4	46.7	57.8	28.9	4.4	－	11.1
性別	男性	137	67.9	52.6	52.6	40.9	22.6	8.0	2.2	5.1
	女性	187	66.8	63.1	48.1	42.8	31.6	12.3	1.1	3.2

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

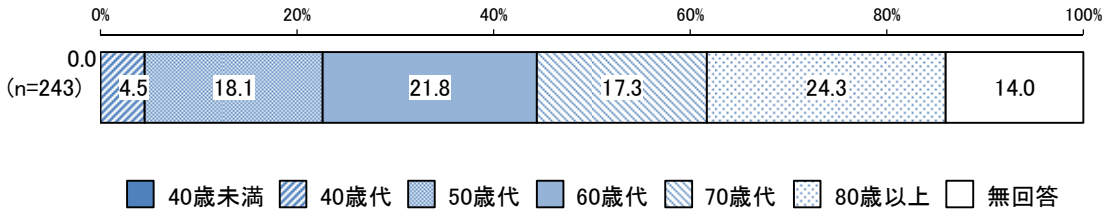
Ⅲ　調査結果（家族）

１．主に介護を行っている人について

(1)介護者の年齢

介護者の年齢は、「80 歳以上」が 24.3%で最も高く、次いで「60 歳代」が 21.8%、「50 歳代」が 18.1%、「70 歳代」が 17.3%となっている。

【介護者の年齢】



介護者の性別にみると、男性は「80 歳以上」の割合が高く、女性は「50 歳代」から「80 歳代」がいずれも 2 割強である。

【性別　介護者の年齢】

(%)

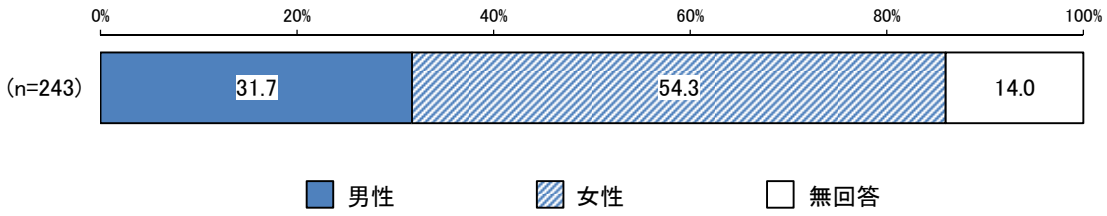
		回答者数（n）	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
全体		243	－	4.5	18.1	21.8	17.3	24.3	14.0
性別	男性	77	－	2.6	16.9	26.0	14.3	37.7	2.6
	女性	132	－	6.8	22.0	22.7	23.5	20.5	4.5

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

(2)介護者の性別

介護者の性別は、「男性」が 31.7%、「女性」が 54.3%となっている。

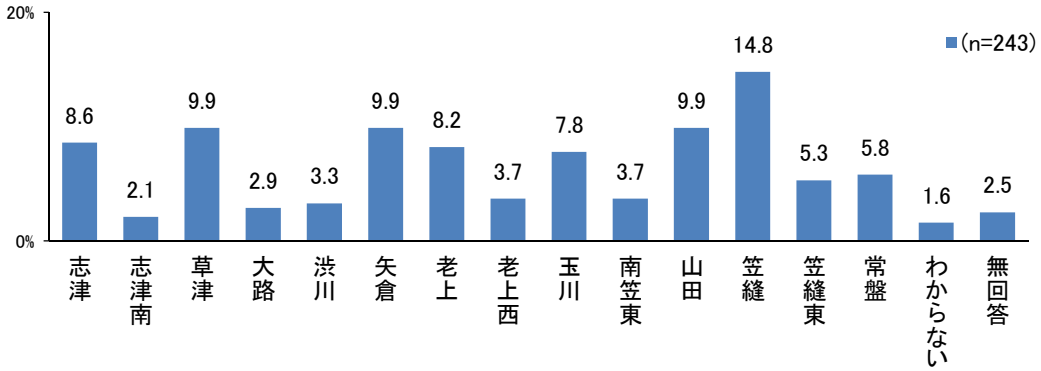
【介護者の性別】



(3)介護者の居住地域

介護者の居住地域は、「笠縫」が 14.8%で最も高く、次いで「草津」、「矢倉」、「山田」がいずれも 9.9%、「志津」が 8.6%、「老上」が 8.2%、「玉川」が 7.8%となっている。

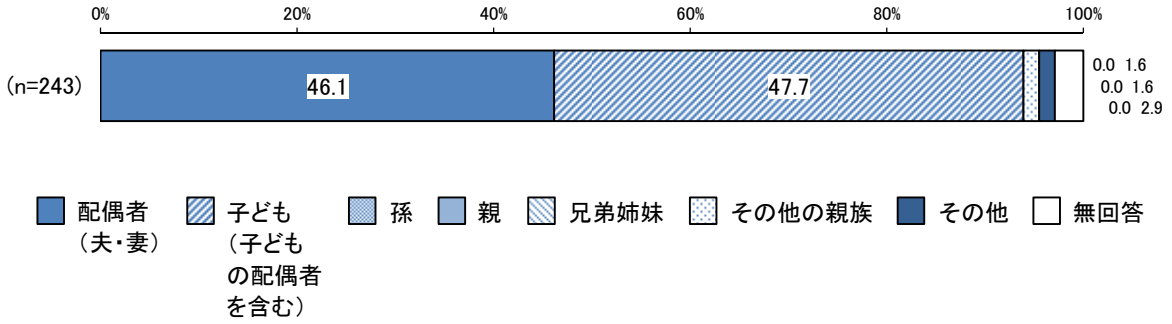
【介護者の居住地域】



(4)介護を受けている人との関係

介護を受けている人との関係は、「子ども(子どもの配偶者を含む)」が 47.7%、「配偶者(夫・妻)」が 46.1%となっている。

【介護を受けている人との関係】



介護者の年齢別にみると、60 歳代以下はほとんどが「子ども(子どもの配偶者を含む)」で、70 歳代以上はほとんどが「配偶者(夫・妻)」となっている。

【年齢別　介護を受けている人との関係】

(%)

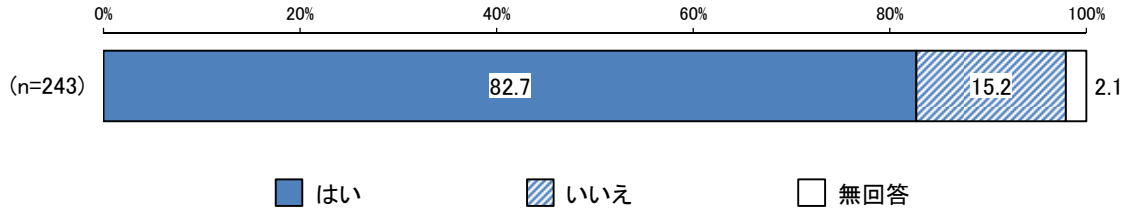
		回答者数(n)	配偶者(夫・妻)	子ども(子どもの配偶者を含む)	孫	親	兄弟姉妹	その他の親族	その他	無回答
全体		243	46.1	47.7	−	−	−	1.6	1.6	2.9
年齢別	60歳未満	55	−	92.7	−	−	−	1.8	1.8	3.6
	60歳代	53	3.8	88.7	−	−	−	3.8	−	3.8
	70歳代	42	90.5	7.1	−	−	−	−	2.4	−
	80歳以上	59	88.1	3.4	−	−	−	1.7	3.4	3.4

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

(5)介護を受けている人との同居有無

介護を受けている人と同居しているかについては、「はい」が 82.7%、「いいえ」が 15.2%となっている。

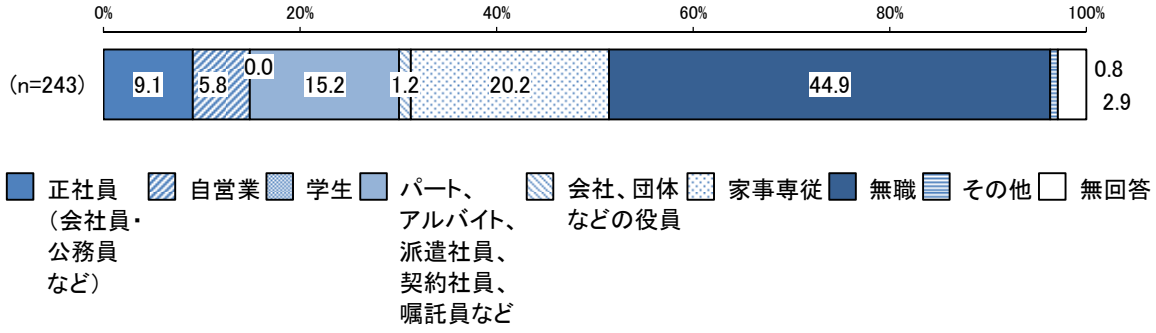
【介護を受けている人との同居有無】



(6)介護者の職業

介護者の職業は、「無職」が 44.9%で最も高く、次いで「家事専従」が 20.2%、「パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員など」が 15.2%となっている。

【介護者の職業】



介護者の年齢別にみると、60 歳未満では、「正社員(会社員・公務員など)」が 25.5%で、「自営業」、「パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員など」、「会社、団体などの役員」と合わせると働いている人は 72.8%を占める。60 歳代では、働いている人は 43.4%である。

【年齢別　介護者の職業】

(%)

		回答者数(n)	正社員(会社員・公務員など)	自営業	学生	パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員など	会社、団体などの役員	家事専従	無職	その他	無回答
全体		243	9.1	5.8	-	15.2	1.2	20.2	44.9	0.8	2.9
年齢別	60歳未満	55	25.5	7.3	-	38.2	1.8	14.5	10.9	-	1.8
	60歳代	53	3.8	11.3	-	26.4	1.9	18.9	34.0	1.9	1.9
	70歳代	42	-	7.1	-	2.4	2.4	33.3	52.4	-	2.4
	80歳以上	59	1.7	1.7	-	-	-	18.6	74.6	-	3.4

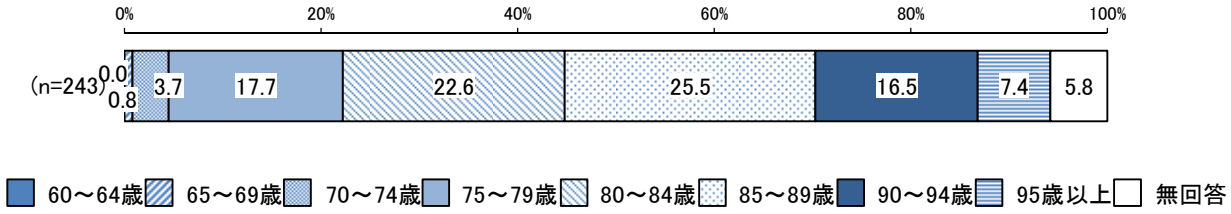
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

２．介護を受けている本人について

（1）介護を受けている人の年齢

介護を受けている人の年齢は、「85～89 歳」が 25.5%で最も高く、次いで「80～84 歳」が 22.6%、「75～79 歳」が 17.7%、「90～94 歳」が 16.5%となっている。

【介護を受けている人の年齢】



介護者の年齢別にみると、60 歳代以下では介護を受けている人の年齢は 80 歳代から 90 歳代が高く、概ね親の年代と考えられる。70 歳代以上では、介護者の年齢と介護を受けている人の年齢がほぼ同年代であることから配偶者であると考えられる。

【年齢別　介護を受けている人の年齢】

（%）

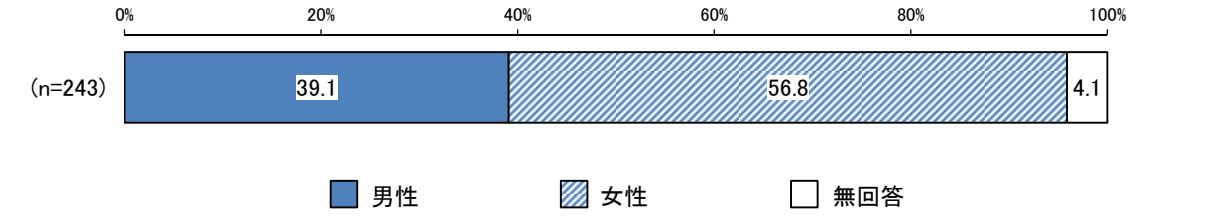
		回答者数（n）	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	無回答
全体		243	－	0.8	3.7	17.7	22.6	25.5	16.5	7.4	5.8
年齢別	60歳未満	55	－	－	3.6	14.5	30.9	32.7	12.7	3.6	1.8
	60歳代	53	－	1.9	－	1.9	7.5	26.4	43.4	18.9	－
	70歳代	42	－	2.4	9.5	47.6	23.8	4.8	2.4	7.1	2.4
	80歳以上	59	－	－	－	11.9	32.2	33.9	8.5	1.7	11.9

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（2）介護を受けている人の性別

介護を受けている人の性別は、「男性」が 39.1%、「女性」が 56.8%となっている。

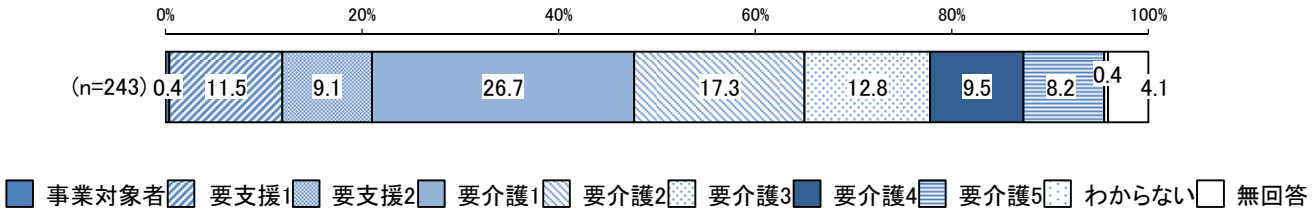
【介護を受けている人の性別】



(3)介護を受けている人の要介護度

介護を受けている人の要介護度は、「要介護 1」が 26.7%で最も高く、次いで「要介護 2」が 17.3%、「要介護 3」が 12.8%となっている。

【介護を受けている人の要介護度】



認知症の診断・症状の有無別にみると、診断・症状有りでは、「要介護 1」と「要介護 2」を合わせて 53.2%で、要支援以下は 1 割に満たない。診断・症状無しでは、「要支援 1」と「要支援 2」、「事業対象者」を合わせて 35.7%である。

【認知症の診断・症状の有無別 介護を受けている人の要介護度】

(%)

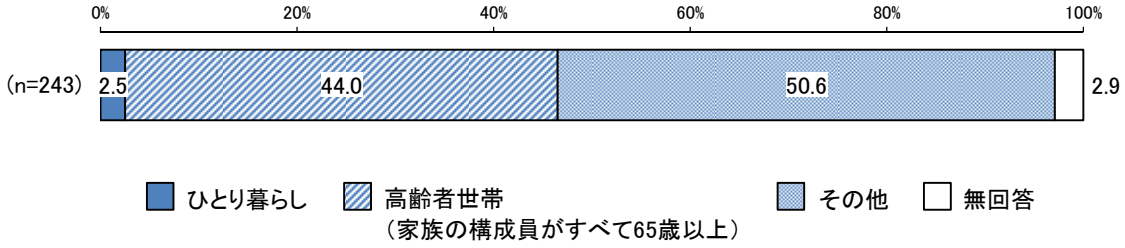
		回答者数（n）	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	わからない	無回答
全体		243	0.4	11.5	9.1	26.7	17.3	12.8	9.5	8.2	0.4	4.1
有無別認知症	診断・症状有り	126	－	4.0	4.8	30.2	23.0	14.3	11.1	9.5	0.8	2.4
	診断・症状無し	112	0.9	20.5	14.3	24.1	11.6	11.6	7.1	6.3	－	3.6

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（4）介護を受けている人の家族構成

介護を受けている人の家族構成は、「その他」が 50.6%で最も高く、次いで「高齢者世帯（家族の構成員がすべて 65 歳以上）」が 44.0%、「ひとり暮らし」が 2.5%となっている。

【介護を受けている人の家族構成】

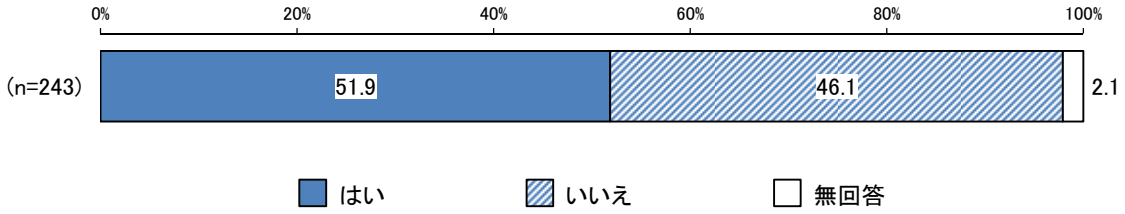


（5）認知症の診断・症状の有無

問３　介護を受けておられるご本人は、認知症の診断を受けておられる、または認知症の症状がありますか。

認知症の診断を受けている、または、認知症の症状があるかについては、「はい」が 51.9%、「いいえ」が 46.1%となっている。

【認知症の診断・症状の有無】



３．発症から相談、医療機関へのつながりの状況について

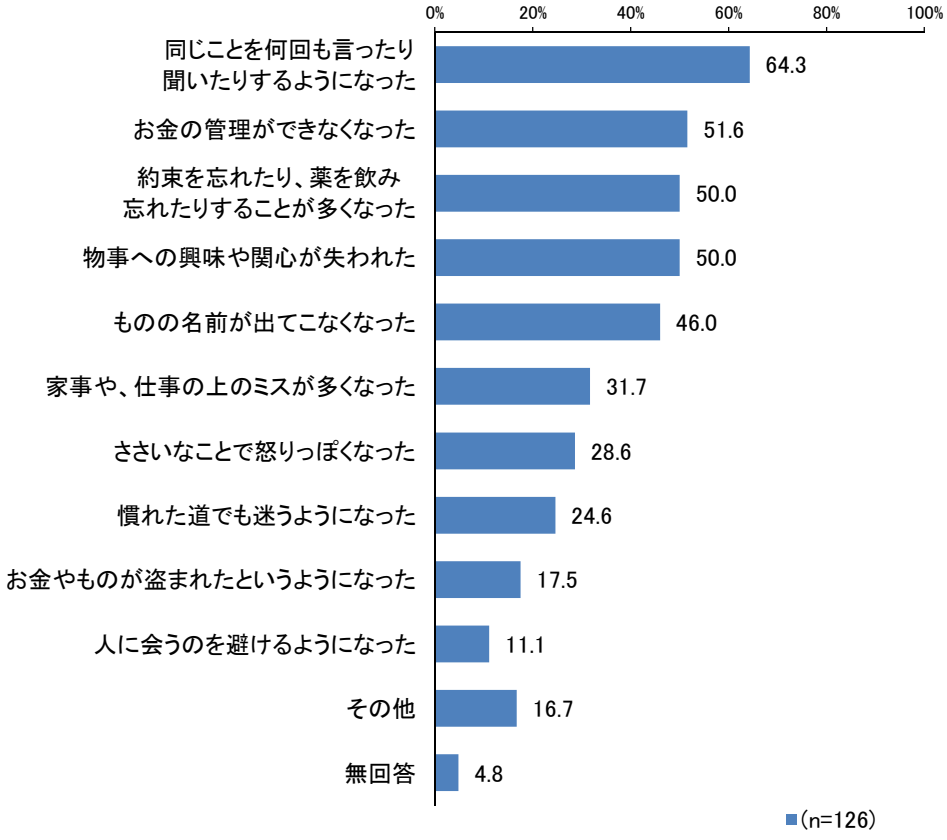
（1）認知症と思い始めたきっかけ

※問４～問２３は、問３で「１．はい」と答えた方にお伺いします。

問４　あなたは、介護を受けておられるご本人の、どのような様子を見て、認知症ではないかと思い始めましたか。（あてはまるものすべてに○）

認知症と思い始めたきっかけについては、「同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった」が 64.3％で最も高く、次いで「お金の管理ができなくなった」が 51.6％、「約束を忘れたり、薬を飲み忘れたりすることが多くなった」と「物事への興味や関心が失われた」がともに 50.0％、「ものの名前が出てこなくなった」が 46.0％となっている。

【認知症と思い始めたきっかけ】

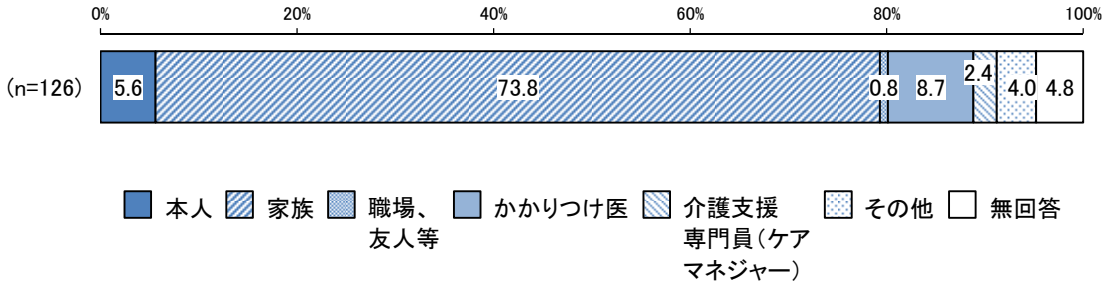


（2）本人の変化に最初に気づいた人

問５　認知症のご本人の変化に誰が最初に気づきましたか？（いずれか１つに○）

本人の変化に最初に気づいた人は、「家族」が 73.8%で最も高く、次いで「かかりつけ医」が 8.7%、「本人」が 5.6%となっている。

【本人の変化に最初に気づいた人】

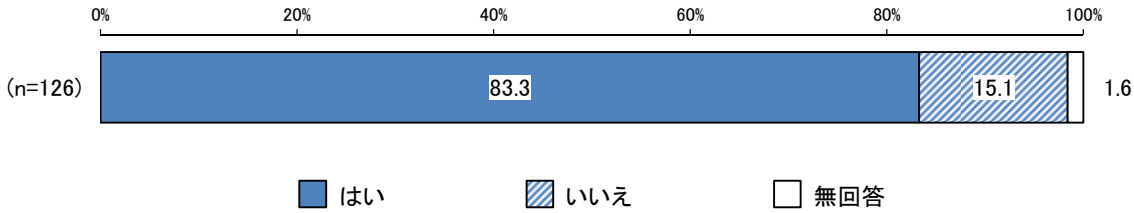


（3）専門家への相談の有無

問６　あなたは、認知症のご本人のことで、家族・知人以外の専門家に相談をしたことがありますか？

家族・知人以外の専門家に相談したことがあるかについては、「はい」が 83.3%、「いいえ」が 15.1%となっている。

【専門家への相談の有無】

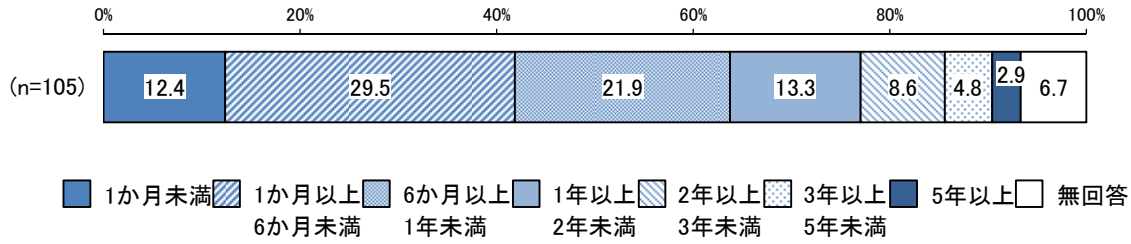


（4）認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間

問７　あなたが、家族・知人以外の専門家に認知症のことで相談したのは、あなたが認知症ではないかと思い始めてからどのくらいの期間ですか。

認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間については、「1 か月以上 6 か月未満」が 29.5%で最も高く、次いで「6 か月以上 1 年未満」が 21.9%、「1 年以上 2 年未満」が 13.3%となっている。

【認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間】



介護を受けている人との同居状況別にみると、非同居では「1 か月未満」、「1 か月以上 6 か月未満」が同居よりも高い一方で、「5 年以上」の割合も高くなっている。

【介護を受けている人との同居状況別　認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間】

（%）

		回答者数（n）	1か月未満	1か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体		105	12.4	29.5	21.9	13.3	8.6	4.8	2.9	6.7
状況別 同居	同居	82	11.0	29.3	22.0	13.4	8.5	6.1	1.2	8.5
	非同居	22	18.2	31.8	22.7	9.1	9.1	－	9.1	－

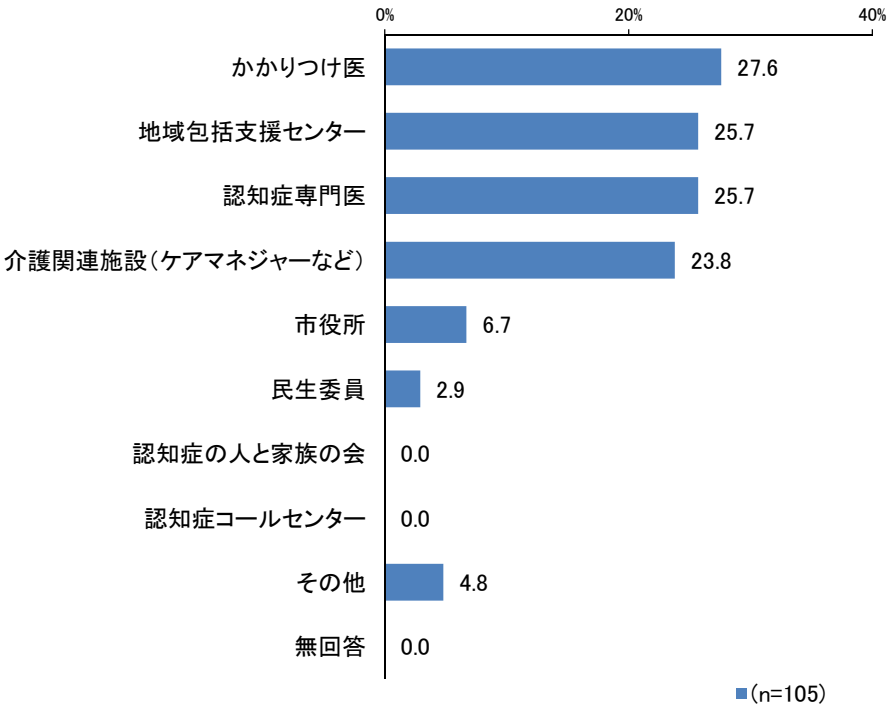
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（5）認知症を最初に相談した機関

問８　家族・知人以外で最初に、認知症の相談をしたところはどこですか。

家族・知人以外で最初に認知症の相談をしたところについては、「かかりつけ医」が 27.6％で最も高く、次いで「地域包括支援センター」と「認知症専門医」がともに 25.7％、「介護関連施設（ケアマネジャーなど）」が 23.8％となっている。

【認知症を最初に相談した機関】



介護者の年齢別にみると、60 歳代では「かかりつけ医」が、70 歳代では「地域包括支援センター」が、80 歳以上では「認知症専門医」が、それぞれ他の年代よりも高くなっている。

介護者の性別にみると、男性の方が女性より「認知症専門医」が高く、女性の方が男性より「地域包括支援センター」が高くなっている。

【年齢別、性別　認知症を最初に相談した機関】

（%）

		回答者数（ｎ）	認知症の人と家族の会	認知症コールセンター	かかりつけ医	地域包括支援センター	認知症専門医	介護関連施設（ケアマネジャーなど）	市役所	民生委員	その他	無回答
全体		105	－	－	27.6	25.7	25.7	23.8	6.7	2.9	4.8	－
年齢別	60歳未満	23	－	－	21.7	17.4	26.1	26.1	8.7	－	－	－
	60歳代	26	－	－	38.5	34.6	19.2	23.1	7.7	－	－	－
	70歳代	17	－	－	17.6	41.2	17.6	17.6	5.9	－	11.8	－
	80歳以上	24	－	－	29.2	16.7	33.3	20.8	4.2	8.3	8.3	－
性別	男性	30	－	－	26.7	20.0	36.7	20.0	－	3.3	6.7	－
	女性	62	－	－	27.4	30.6	19.4	25.8	9.7	3.2	3.2	－

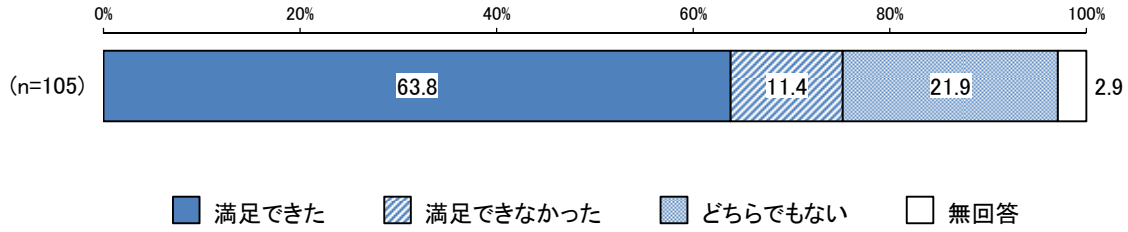
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（6）相談結果の満足度

問９　相談の結果は、満足できましたか。

相談の結果については、「満足できた」が 63.8%で最も高く、次いで「どちらでもない」が 21.9%、「満足できなかった」が 11.4%となっている。

【相談結果の満足度】



介護者の年齢別にみると、60 歳代は「満足できた」が他の年代に比べて高く、70 歳代は「満足できた」が低くなっている。

介護者の性別にみると、男性の方が女性よりも「満足できた」の回答が高い。女性は「どちらでもない」が男性より高くなっている。

介護を受けている人との関係別にみると、子どもの方が配偶者よりも「満足できた」の回答が高くなっている。

【年齢別、性別、介護を受けている人との関係別　相談結果の満足度】

（%）

		回答者数（n）	満足できた	満足できなかった	どちらでもない	無回答
全体		105	63.8	11.4	21.9	2.9
年齢別	60歳未満	23	65.2	4.3	30.4	－
	60歳代	26	73.1	11.5	11.5	3.8
	70歳代	17	47.1	17.6	29.4	5.9
	80歳以上	24	66.7	4.2	29.2	－
性別	男性	30	70.0	13.3	16.7	－
	女性	62	59.7	9.7	27.4	3.2
関係別	配偶者	49	57.1	14.3	24.5	4.1
	子ども	51	68.6	9.8	19.6	2.0
	その他	5	80.0	－	20.0	－

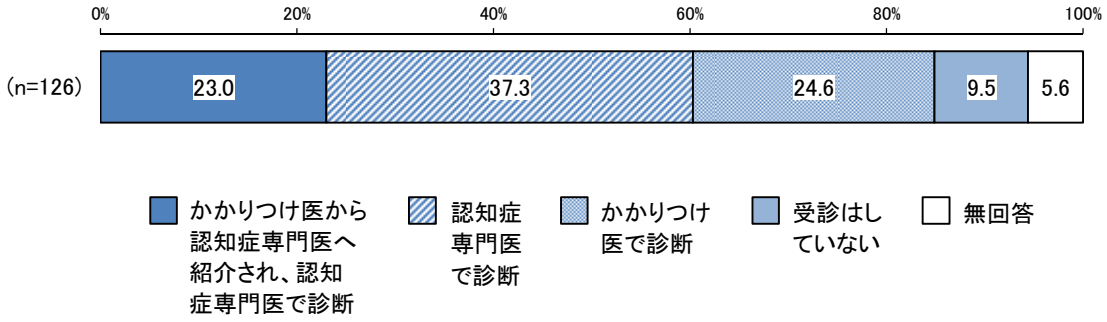
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの
（ただし回答者数が10件未満の項目は除く）

（7）病院の受診有無

問１０　介護を受けておられる方は認知症について病院をどのような形で受診し、診断を受けられましたか。

認知症について病院をどのような形で受診し、診断を受けたかについては、「認知症専門医で診断」が37.3%で最も高く、次いで「かかりつけ医で診断」が 24.6%、「かかりつけ医から認知症専門医へ紹介され、認知症専門医で診断」が 23.0%となっている。

【病院の受診有無】



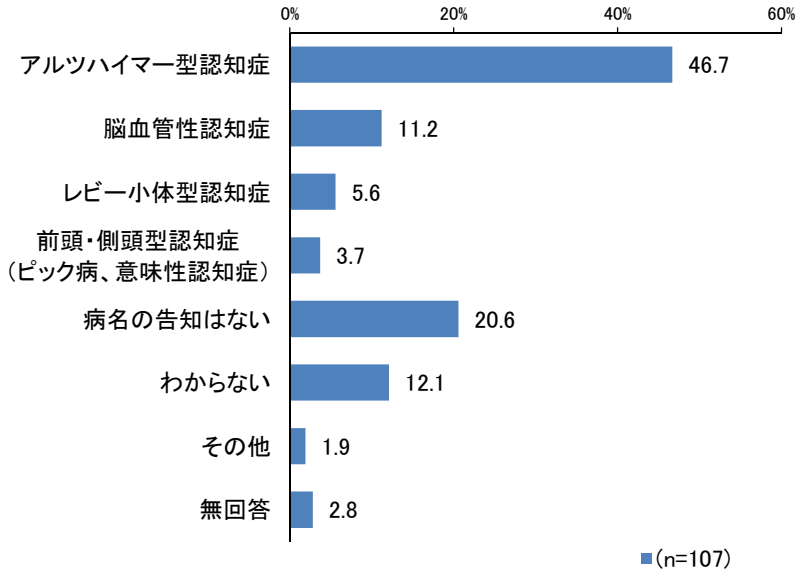
（8）認知症の病名

※問１１～１４は、問１０で「１～３」と答えられた方にお伺いします。

問１１　認知症の病名は次のどれですか。

病院で診断を受けた結果は、「アルツハイマー型認知症」が 46.7%で最も高く、次いで「病名の告知はない」が 20.6%、「わからない」が 12.1%、「脳血管性認知症」が 11.2%、「レビー小体型認知症」が 5.6%、、「前頭・側頭型認知症（ピック病、意味性認知症）」が 3.7%となっている。

【認知症の病名】

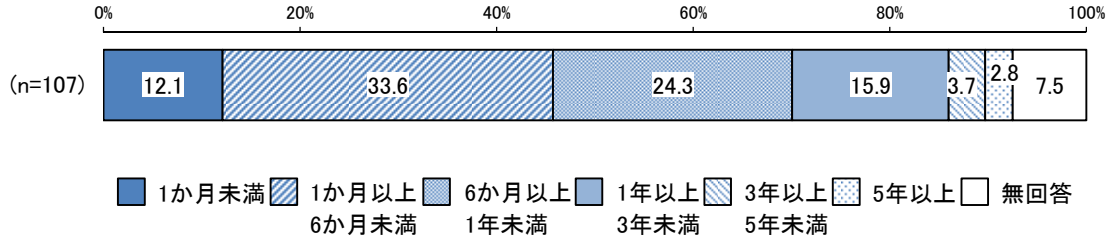


（9）認知症と思い始めてから病院を受診するまでの期間

問１２　介護を受けておられる方が、病院に受診されたのは、認知症ではないかとあなたが思い始めてからどのくらいの期間ですか。

認知症と思い始めてから病院を受診するまでの期間については、「1か月以上6か月未満」が33.6%で最も高く、次いで「6か月以上1年未満」が24.3%、「1年以上3年未満」が15.9%、「1か月未満」が12.1%となっている。

【認知症と思い始めてから病院を受診するまでの期間】



介護者の年齢別にみると、60歳代以下では半数以上が6か月未満である。介護者の年代が上がるほど病院を受診するまでの期間が長くなる傾向がみられている。

介護者の性別にみると、男性は58.8%が6か月未満である。女性の方が病院を受診するまでの期間が長い傾向がみられている。

【年齢別、性別　認知症と思い始めてから病院を受診するまでの期間】

（%）

		回答者数（n）	1か月未満	1か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体		107	12.1	33.6	24.3	15.9	3.7	2.8	7.5
年齢別	60歳未満	24	12.5	45.8	20.8	16.7	－	－	4.2
	60歳代	28	14.3	39.3	17.9	10.7	3.6	10.7	3.6
	70歳代	16	－	43.8	18.8	25.0	－	－	12.5
	80歳以上	26	7.7	23.1	26.9	23.1	7.7	－	11.5
性別	男性	34	8.8	50.0	29.4	11.8	－	－	－
	女性	62	11.3	27.4	19.4	19.4	6.5	4.8	11.3

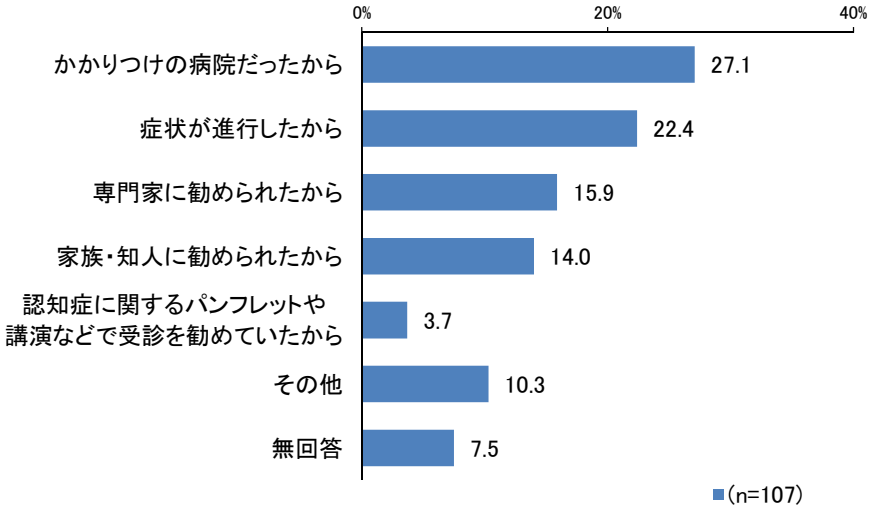
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

(10)病院の受診にいたった理由(きっかけ)

問１３　受診にいたった理由（きっかけ）は何ですか。

病院の受診にいたった理由(きっかけ)については、「かかりつけの病院だったから」が 27.1%で最も高く、次いで「症状が進行したから」が 22.4%、「専門家に勧められたから」が 15.9%、「家族・知人に勧められたから」が 14.0%、「その他」が 10.3%となっている。

【病院の受診にいたった理由(きっかけ)】



介護者の年齢別にみると、60 歳未満では「症状が進行したから」が 54.2%で他の年代に比べて特に高い。60 歳代と 80 歳以上は「かかりつけの病院だったから」が最も高い。70 歳代は回答が分散している。

介護を受けている人との関係別にみると、配偶者は「かかりつけの病院だったから」と「家族・知人に勧められたから」が高く、子どもは「症状が進行したから」が高くなっている。

【年齢別、介護を受けている人との関係別　病院の受診にいたった理由(きっかけ)】

(%)

		回答者数（n）	かかりつけの病院だったから	症状が進行したから	専門家に勧められたから	家族・知人に勧められたから	認知症に関するパンフレットや講演などで受診を勧めていたから	その他	無回答
全体		107	27.1	22.4	15.9	14.0	3.7	10.3	7.5
年齢別	60歳未満	24	8.3	54.2	12.5	8.3	－	12.5	4.2
	60歳代	28	35.7	17.9	21.4	7.1	7.1	3.6	7.1
	70歳代	16	18.8	25.0	12.5	12.5	6.3	18.8	6.3
	80歳以上	26	38.5	3.8	15.4	26.9	－	7.7	7.7
関係別	配偶者	49	32.7	10.2	16.3	22.4	4.1	12.2	4.1
	子ども	52	19.2	36.5	15.4	7.7	3.8	9.6	7.7
	その他	5	60.0	－	－	－	－	－	40.0

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの
（ただし回答者数が10件未満の項目は除く）

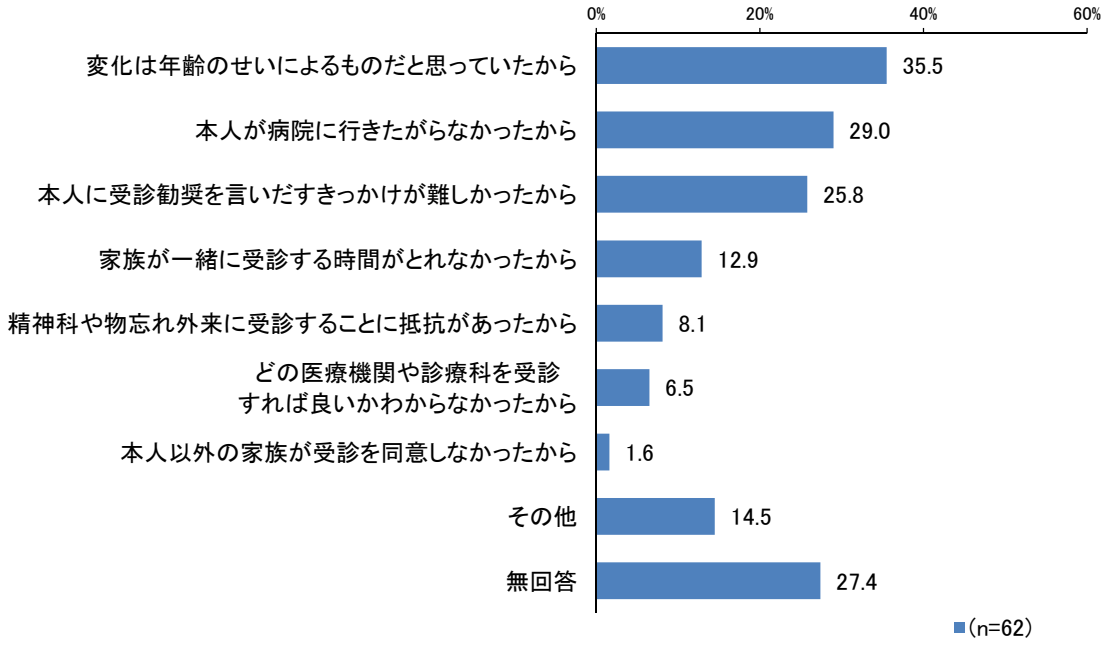
(11)受診に時間がかかった、または、受診していない理由

※問１２で受診に６か月以上かかった（３～６）と回答した方、問１０で４．受診はしていないと回答した方にお伺いします。

問１４　受診に６か月以上かかった、または、受診していない理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

受診に 6 か月以上かかった、または、受診していない理由は、「変化は年齢のせいによるものだと思っていたから」が 35.5%で最も高く、次いで「本人が病院に行きたがらなかったから」が 29.0%、「本人に受診勧奨を言いだすきっかけが難しかったから」が 25.8%となっている。

【受診に時間がかかった、または、受診していない理由】



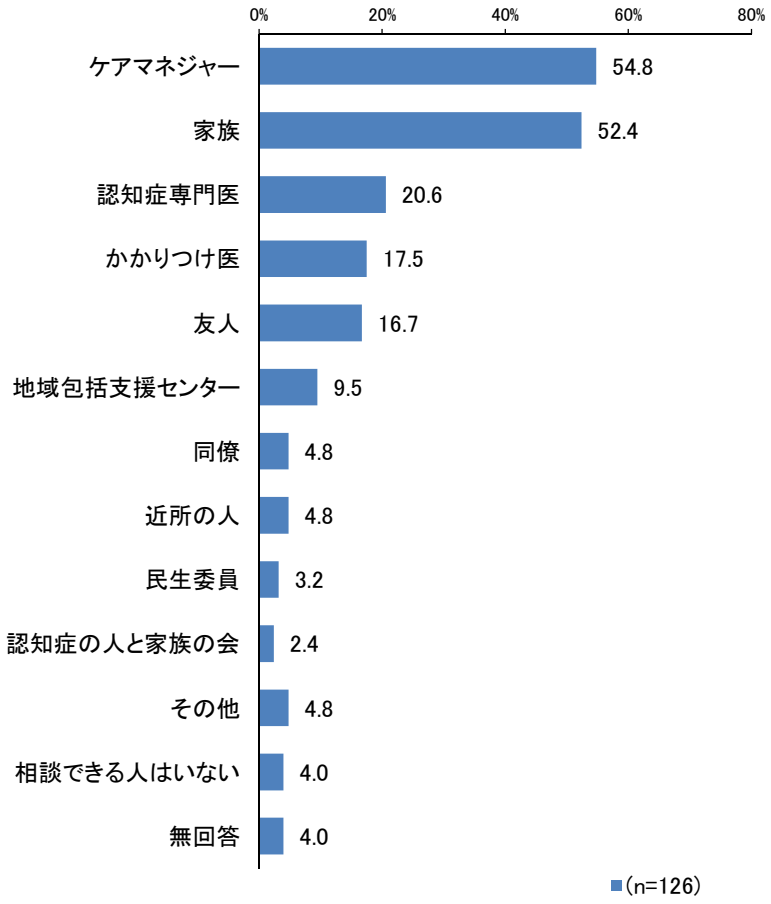
４．相談相手と周囲とのかかわりについて

（1）介護の悩みを相談できる相手

問１５　あなたは、介護の悩みを相談できる人がいますか。（あてはまるものすべてに○）

介護の悩みを相談できる相手については、「ケアマネジャー」が 54.8％で最も高く、次いで「家族」が 52.4％、「認知症専門医」が 20.6％、「かかりつけ医」が 17.5％、「友人」が 16.7％となっている。

【介護の悩みを相談できる相手】



介護者の年齢別にみると、60 歳未満は「ケアマネジャー」が他の年代に比べて高く、60 歳代、80 歳以上では「家族」の割合が高い。70 歳代は「地域包括支援センター」がやや高い。60 歳未満と 70 歳代では「相談できる人がいない」の回答がそれぞれ 1 割みられている。

介護者の性別にみると、男性の方が女性より「ケアマネジャー」、「家族」、「かかりつけ医」が高く、女性は男性に比べて「友人」の割合が高い。

【年齢別、性別　介護の悩みを相談できる相手】

（%）

		回答者数（n）	ケアマネジャー	家族	認知症専門医	かかりつけ医	友人	地域包括支援センター	同僚	近所の人	民生委員	認知症の人と家族の会	その他	相談できる人はいない	無回答
全体		126	54.8	52.4	20.6	17.5	16.7	9.5	4.8	4.8	3.2	2.4	4.8	4.0	4.0
年齢別	60歳未満	29	69.0	41.4	20.7	10.3	20.7	－	13.8	3.4	－	－	6.9	10.3	3.4
	60歳代	31	54.8	77.4	25.8	16.1	25.8	6.5	3.2	6.5	3.2	－	9.7	－	－
	70歳代	19	57.9	42.1	21.1	21.1	5.3	21.1	－	5.3	5.3	5.3	－	10.5	－
	80歳以上	31	38.7	58.1	16.1	25.8	9.7	16.1	3.2	3.2	3.2	－	－	－	6.5
性別	男性	36	63.9	61.1	19.4	25.0	8.3	8.3	2.8	5.6	2.8	5.6	2.8	2.8	－
	女性	75	50.7	50.7	22.7	14.7	20.0	9.3	6.7	4.0	4.0	－	5.3	5.3	5.3

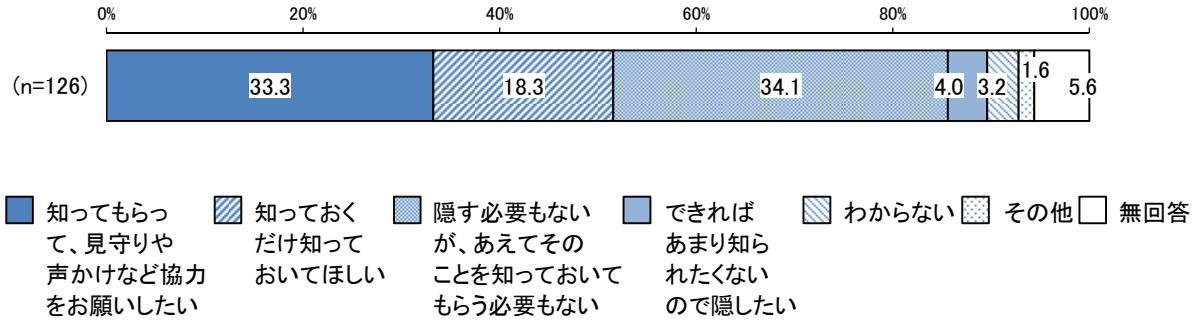
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

(2)介護を受けている人の認知症について近所の人に知ってもらいたいか

問１６　あなたは、介護を受けておられる方が認知症であることを近所の人に知ってもらいたいですか。

介護を受けている人が認知症であることを近所の人に知ってもらいたいかについては、「隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない」が 34.1%で最も高く、次いで「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」が 33.3%、「知っておくだけ知っておいてほしい」が 18.3%となっている。

【介護を受けている人の認知症について近所の人に知ってもらいたいか】



介護者の性別にみると、「隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない」は男性の方が女性よりも 9.7 ポイント高い。

【性別　介護を受けている人の認知症について近所の人に知ってもらいたいか】

(%)

		回答者数（n）	知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい	知っておくだけ知っておいてほしい	隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない	できればあまり知られたくないので隠したい	わからない	その他	無回答
全体		126	33.3	18.3	34.1	4.0	3.2	1.6	5.6
性別	男性	36	36.1	22.2	41.7	－	－	－	－
	女性	75	30.7	17.3	32.0	5.3	5.3	1.3	8.0

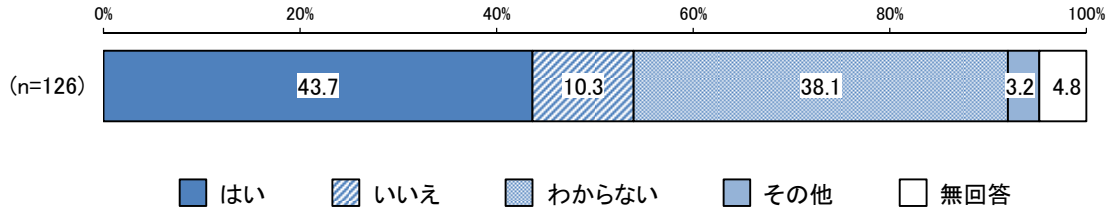
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（3）認知症についての周囲の人の理解状況

問１７　あなたは、周囲の人が認知症について理解してくれていると思いますか。

周囲の人が認知症について理解してくれていると思うかについては、「はい」が 43.7%、「いいえ」が 10.3%、「わからない」が 38.1%となっている。

【認知症についての周囲の人の理解状況】



介護者の年齢別にみると、60 歳代以下では「はい」が最も高く、なかでも 60 歳代では 61.3%となっている。一方、70 歳代以上では「わからない」が最も高く 4 割を超えている。70 歳代では「いいえ」が 26.3%で「はい」と同率である。

介護者の性別にみると、男性は「わからない」が 52.8%で半数を超えている。

介護を受けている人との関係別にみると、子どもは「はい」が 49.2%で配偶者よりも 13.6 ポイント高い。配偶者は「わからない」と「いいえ」がそれぞれ子どもよりも高くなっている。

【年齢別、性別、介護を受けている人との関係別　認知症についての周囲の人の理解状況】

（%）

		回答者数（n）	はい	いいえ	わからない	その他	無回答
全体		126	43.7	10.3	38.1	3.2	4.8
年齢別	60歳未満	29	44.8	13.8	31.0	6.9	3.4
	60歳代	31	61.3	3.2	32.3	3.2	－
	70歳代	19	26.3	26.3	42.1	－	5.3
	80歳以上	31	32.3	6.5	48.4	3.2	9.7
性別	男性	36	41.7	5.6	52.8	－	－
	女性	75	38.7	13.3	34.7	5.3	8.0
関係別	配偶者	59	35.6	11.9	42.4	1.7	8.5
	子ども	61	49.2	9.8	34.4	4.9	1.6
	その他	5	60.0	－	40.0	－	－

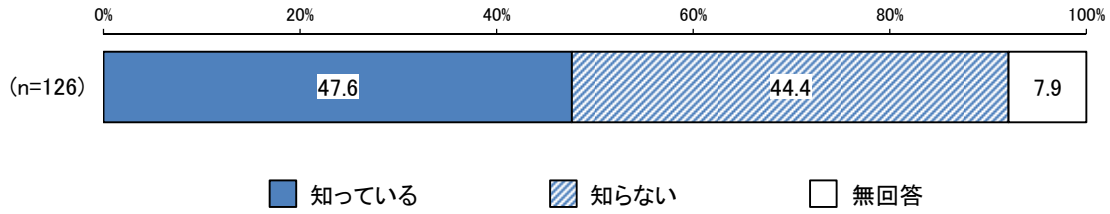
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの
（ただし回答者数が10件未満の項目は除く）

（4）認知症相談医の認知状況

問１８　病院や診療所によって「認知症相談医」がいるところがあることを知っていますか。

認知症相談医については、「知っている」が 47.6%、「知らない」が 44.4%となっている。

【認知症相談医の認知状況】



介護者の年齢別にみると、60 歳代は「知っている」が 54.8%で他の年代よりも高い。

【年齢別　認知症相談医の認知状況】

（%）

		回答者数（n）	知っている	知らない	無回答
全体		126	47.6	44.4	7.9
年齢別	60歳未満	29	48.3	44.8	6.9
	60歳代	31	54.8	45.2	－
	70歳代	19	36.8	47.4	15.8
	80歳以上	31	45.2	48.4	6.5

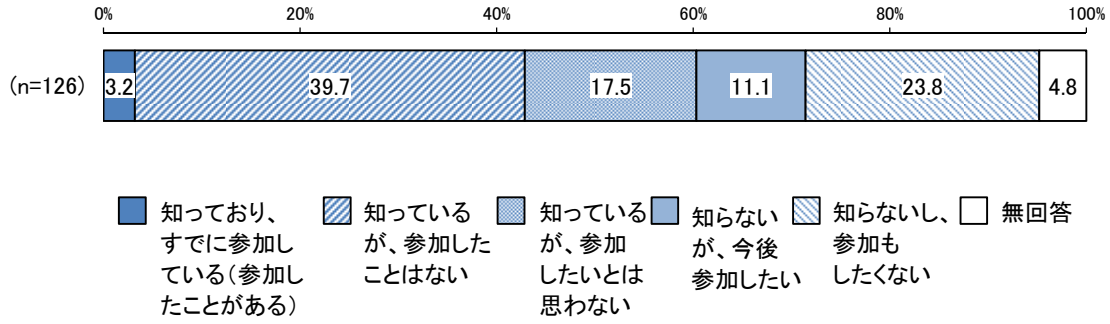
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

(5)「なごみ会」「認知症カフェ」の認知状況・参加意向

問１９　毎月、認知症の人と家族の会のつどい「なごみ会」や、「認知症カフェ」が市内で開催されていますが、知っていますか。また、参加しようと思いますか。

「なごみ会」「認知症カフェ」については、「知っているが、参加したことはない」が 39.7％で最も高く、次いで「知らないし、参加もしたくない」が 23.8％、「知っているが、参加したいとは思わない」が 17.5％となっている。

【「なごみ会」「認知症カフェ」の認知状況・参加意向】



介護者の年齢別にみると、60 歳未満では「知らないが、今後参加したい」が他の年代に比べて高い。60 歳代では「知っているが、参加したいとは思わない」が、70 歳代以上では「知らないし、参加もしたくない」が、それぞれ他の年代に比べて高くなっている。

介護者の性別にみると、男性の方が女性より「知っているが、参加したいとは思わない」が高く、「知らないが、今後参加したい」は女性の方が高くなっている。

【年齢別、性別 「なごみ会」「認知症カフェ」の認知状況・参加意向】

（%）

		回答者数（n）	知っており、すでに参加している。（参加したことがある。）	知っているが、参加したことはない。	知っているが、参加したいとは思わない。	知らないが、今後参加したい。	知らないし、参加もしたくない。	無回答
全体		126	3.2	39.7	17.5	11.1	23.8	4.8
年齢別	60歳未満	29	3.4	41.4	10.3	24.1	17.2	3.4
	60歳代	31	－	41.9	25.8	6.5	22.6	3.2
	70歳代	19	5.3	31.6	15.8	5.3	31.6	10.5
	80歳以上	31	－	38.7	16.1	9.7	32.3	3.2
性別	男性	36	5.6	33.3	30.6	5.6	25.0	－
	女性	75	2.7	38.7	12.0	13.3	25.3	8.0

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

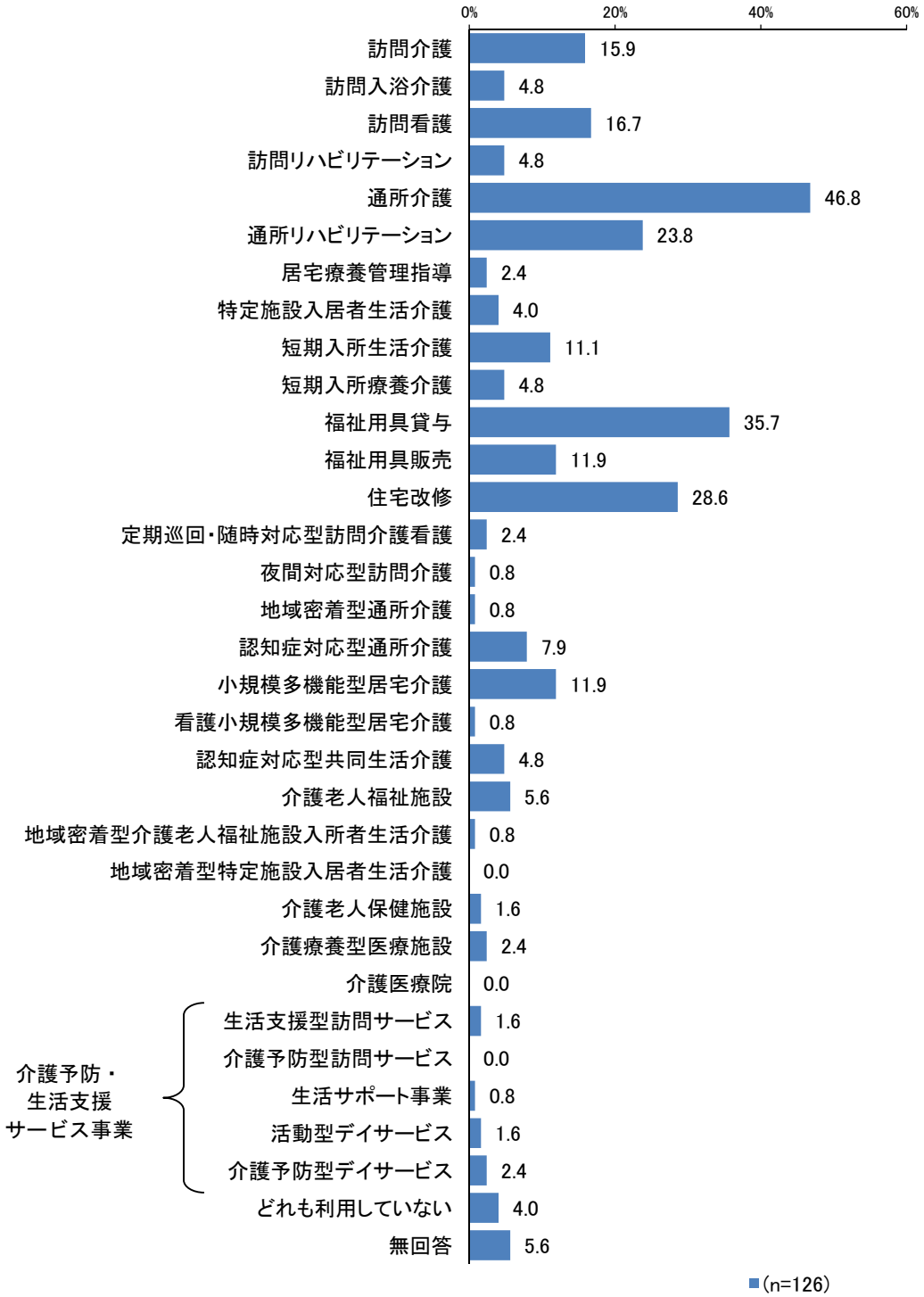
５．サービス・制度について

（1）介護保険等のサービス利用状況

問２０　介護を受けておられる方は、介護保険等のサービスを利用されていますか。利用中のサービスすべてに○をつけてください。

介護保険等のサービス利用状況については、「通所介護」が 46.8％で最も高く、次いで「福祉用具貸与」が 35.7％、「住宅改修」が 28.6％、「通所リハビリテーション」が 23.8％となっている。

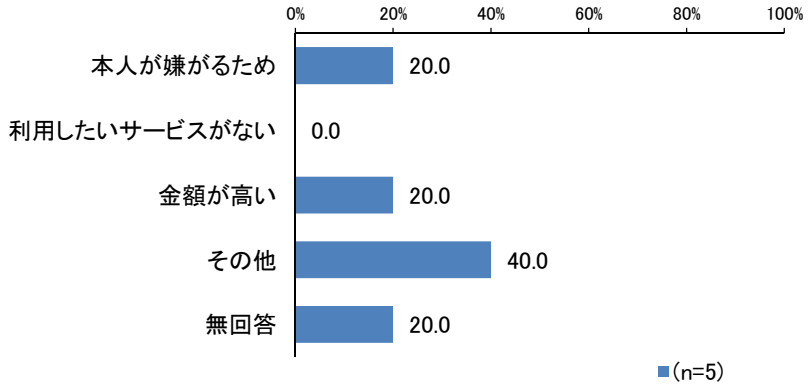
【介護保険等のサービス利用状況】



■利用していない理由

介護保険等のサービスを利用していない理由については、「その他」が 40.0%(2 件)で最も高く、次いで「本人が嫌がるため」と「金額が高い」がともに 20.0%(1 件)となっている。

【介護保険等のサービスを利用していない理由】

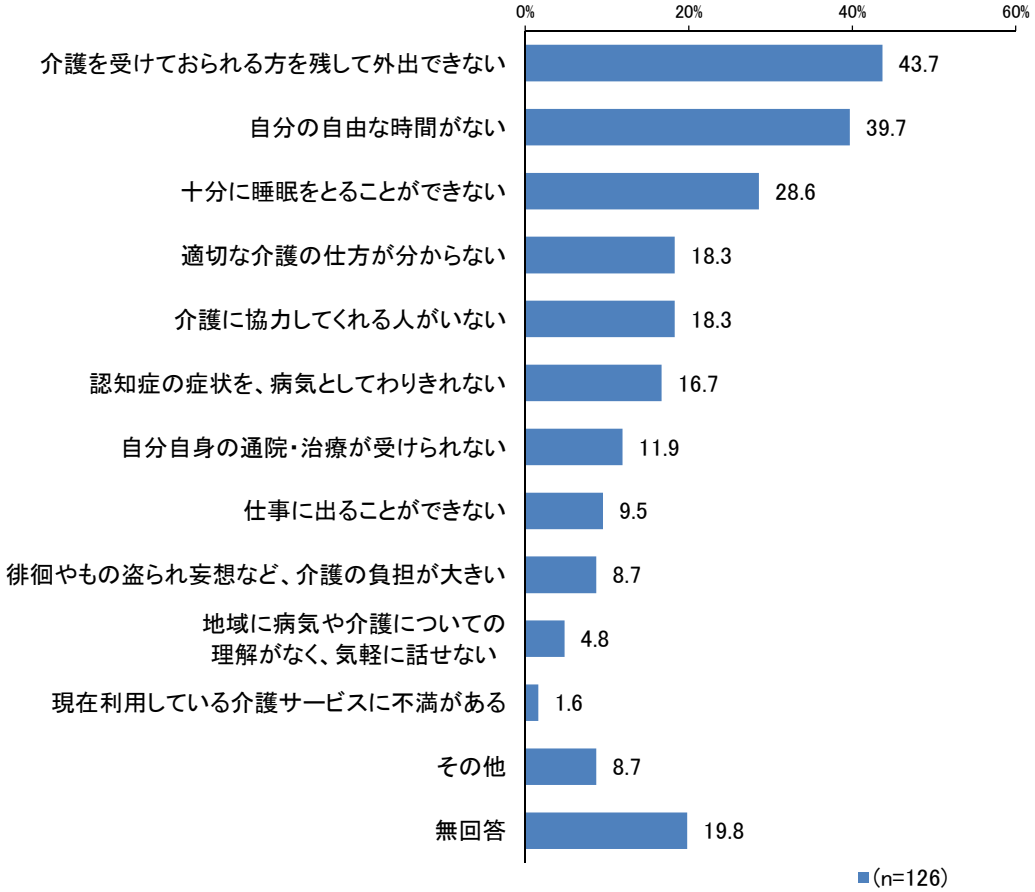


(2)認知症の人の介護で困ることや負担に感じること

問２１　認知症の方を介護していて困ること、負担に感じることはどのような時ですか。(あてはまるものすべてに○)

認知症の人の介護で困ることや負担に感じることについては、「介護を受けておられる方を残して外出できない」が 43.7%で最も高く、次いで「自分の自由な時間がない」が 39.7%、「十分に睡眠をとることができない」が 28.6%となっている。

【認知症の人の介護で困ることや負担に感じること】



介護者の年齢別にみると、60 歳未満では「介護に協力してくれる人がいない」が他の年代に比べて高く、60 歳代では「介護を受けておられる方を残して外出できない」、「仕事に出ることができな」が高くなっている。70 歳代では「自分の自由な時間がない」、「自分自身の通院・治療が受けられない」が他の年代よりも高くなっている。

介護者の性別にみると、男性の方が女性に比べて「介護を受けておられる方を残して外出できない」、次いで「自分の自由な時間がない」、「十分に睡眠をとることができない」が、それぞれ 10 ポイント以上高い。女性は「介護に協力してくれる人がいない」、「自分自身の通院・治療が受けられない」が男性よりも高くなっている。

【年齢別、性別　認知症の人の介護で困ることや負担に感じること】

（%）

		回答者数（n）	介護を受けておられる方を残して外出できない	自分の自由な時間がない	十分に睡眠をとることができない	適切な介護の仕方が分からない	介護に協力してくれる人がいない	認知症の症状を、病気としてわりきれない	自分自身の通院・治療が受けられない	仕事に出ることができない	徘徊やもの盗られ妄想など、介護の負担が大きい	地域に病気や介護についての理解がなく、気軽に話せない	現在利用している介護サービスに不満がある	その他	無回答
全体		126	43.7	39.7	28.6	18.3	18.3	16.7	11.9	9.5	8.7	4.8	1.6	8.7	19.8
年齢別	60歳未満	29	34.5	37.9	27.6	17.2	34.5	13.8	10.3	10.3	6.9	10.3	3.4	20.7	17.2
	60歳代	31	64.5	48.4	35.5	6.5	16.1	19.4	9.7	22.6	9.7	-	3.2	6.5	6.5
	70歳代	19	47.4	57.9	31.6	26.3	26.3	21.1	26.3	5.3	10.5	5.3	-	5.3	15.8
	80歳以上	31	38.7	29.0	25.8	25.8	3.2	19.4	3.2	-	9.7	6.5	-	3.2	29.0
性別	男性	36	58.3	50.0	38.9	19.4	5.6	19.4	8.3	13.9	11.1	5.6	5.6	5.6	11.1
	女性	75	42.7	38.7	26.7	14.7	26.7	17.3	14.7	8.0	9.3	5.3	-	10.7	21.3

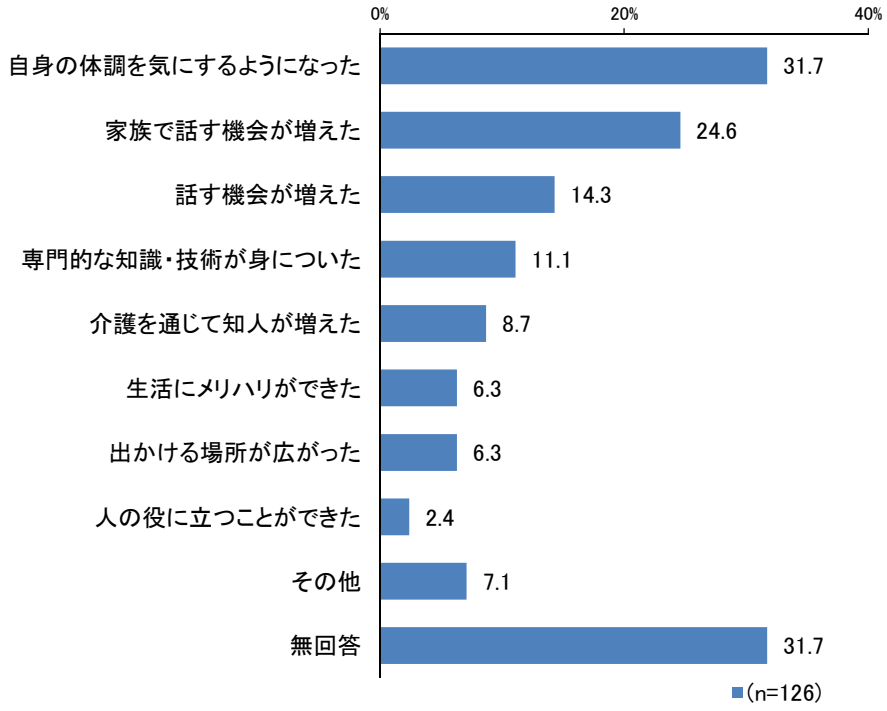
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（3）認知症の人の介護をしていて良かったこと

問２２　認知症の方を介護していて、良かったことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

認知症の人の介護をしていて良かったことについては、「自身の体調を気にするようになった」が 31.7％で最も高く、次いで「家族で話す機会が増えた」が 24.6％となっている。

【認知症の人の介護をしていて良かったこと】



介護者の年齢別にみると、60 歳未満では「専門的な知識・技術が身についた」が他の年代に比べて高く、60 歳代では「自身の体調を気にするようになった」、「家族で話す機会が増えた」、「話す機会が増えた」が高くなっている。80 歳以上は「自身の体調を気にするようになった」、「家族で話す機会が増えた」に加えて「出かける場所が広がった」がやや高くなっている。

介護者の性別にみると、すべての項目で男性の回答割合が女性を上回っている。なかでも「自身の体調を気にするようになった」、「家族で話す機会が増えた」、「話す機会が増えた」、「介護を通じて知人が増えた」はそれぞれ 10 ポイント以上高くなっている。

【年齢別、性別　認知症の人の介護をしていて良かったこと】

（%）

		回答者数（n）	自身の体調を気にするようになった	家族で話す機会が増えた	話す機会が増えた	専門的な知識・技術が身についた	介護を通じて知人が増えた	生活にメリハリができた	出かける場所が広がった	人の役に立つことができた	その他	無回答
全体		126	31.7	24.6	14.3	11.1	8.7	6.3	6.3	2.4	7.1	31.7
年齢別	60歳未満	29	17.2	17.2	10.3	27.6	6.9	3.4	3.4	3.4	6.9	37.9
	60歳代	31	48.4	35.5	25.8	9.7	6.5	9.7	3.2	3.2	6.5	9.7
	70歳代	19	15.8	10.5	10.5	5.3	5.3	5.3	5.3	－	15.8	52.6
	80歳以上	31	41.9	32.3	9.7	3.2	9.7	6.5	12.9	3.2	6.5	25.8
性別	男性	36	41.7	33.3	25.0	13.9	13.9	5.6	8.3	－	8.3	13.9
	女性	75	25.3	20.0	10.7	10.7	4.0	5.3	5.3	4.0	6.7	40.0

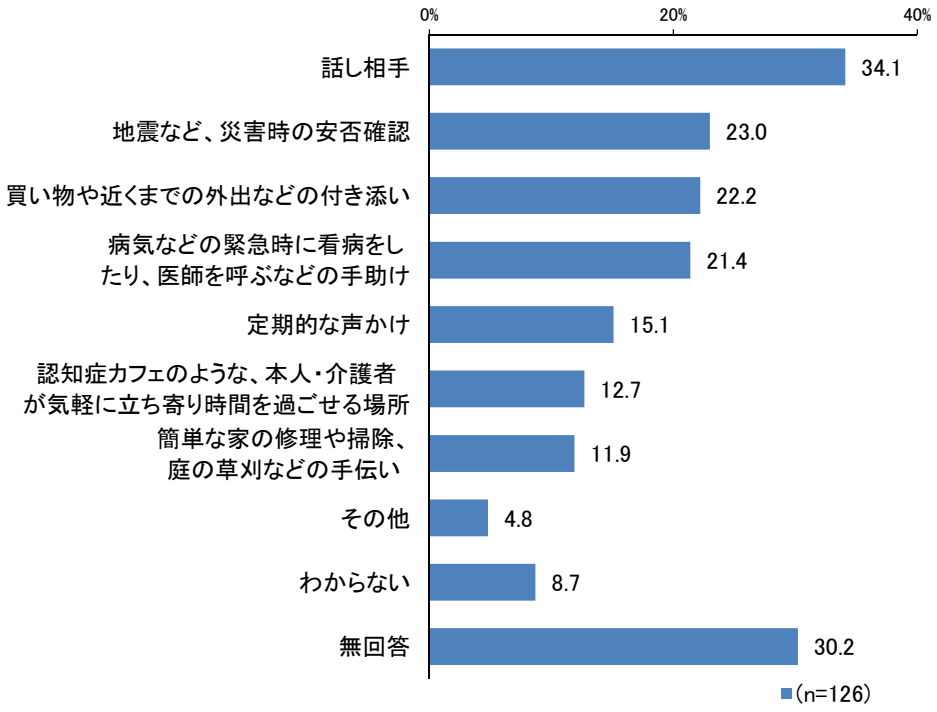
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（4）認知症の人・介護している人に対してあってほしい地域支援

問２３　認知症の方を介護している者として、身近に地域であったらいいなと思うものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

認知症の人に対してあってほしい地域支援については、「話し相手」が 34.1％で最も高く、次いで「地震など、災害時の安否確認」が 23.0％、「買い物や近くまでの外出などの付き添い」が 22.2％、「病気などの緊急時に看病をしたり、医師を呼ぶなどの手助け」が 21.4％となっている。

【認知症の人に対してあってほしい地域支援】



介護者の年齢別にみると、60 歳未満では「地震など、災害時の安否確認」が他の年代よりも高く、60 歳代では「話し相手」が特に高くなっている。

介護者の性別にみると、ほとんどの項目で女性よりも男性の回答割合が高くなっており、なかでも「病気などの緊急時に看病をしたり、医師を呼ぶなどの手助け」と「定期的な声かけ」は 10 ポイント以上高い。

【年齢別、性別　認知症の人に対してあってほしい地域支援】

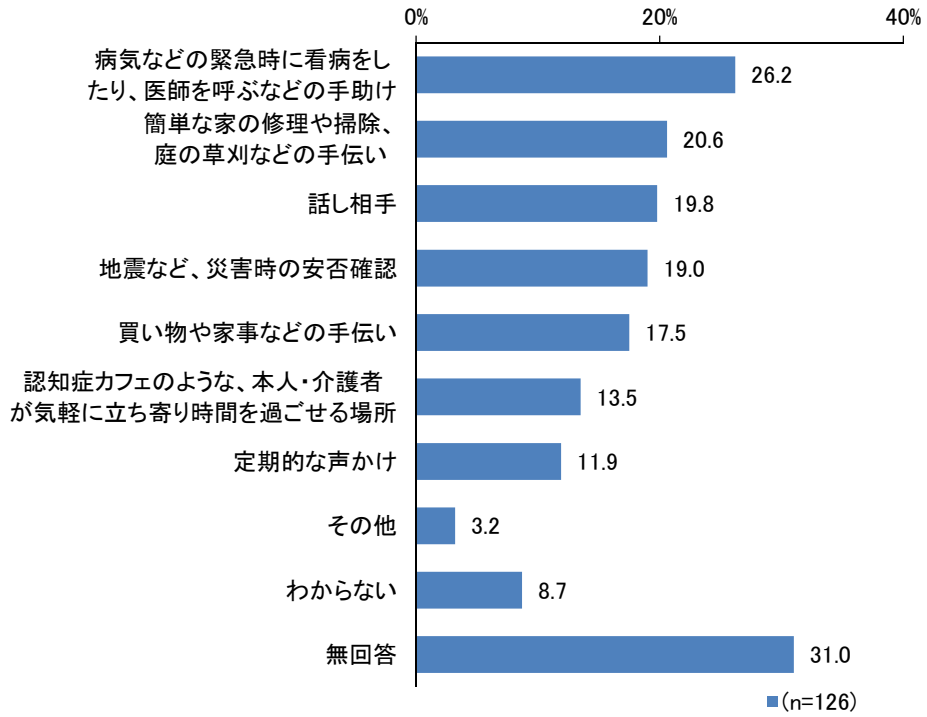
（%）

		回答者数（ｎ）	話し相手	地震など、災害時の安否確認	買い物や近くまでの外出などの付き添い	病気などの緊急時に看病をしたり、医師を呼ぶなどの手助け	定期的な声かけ	認知症カフェのような、本人・介護者が気軽に立ち寄り時間を過ごせる場所	簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などの手伝い	その他	わからない	無回答
全体		126	34.1	23.0	22.2	21.4	15.1	12.7	11.9	4.8	8.7	30.2
年齢別	60歳未満	29	27.6	34.5	24.1	27.6	17.2	10.3	10.3	3.4	13.8	27.6
	60歳代	31	45.2	25.8	29.0	22.6	19.4	16.1	12.9	6.5	3.2	22.6
	70歳代	19	36.8	26.3	21.1	15.8	10.5	10.5	15.8	5.3	5.3	36.8
	80歳以上	31	22.6	16.1	16.1	22.6	12.9	16.1	9.7	3.2	12.9	32.3
性別	男性	36	36.1	27.8	25.0	30.6	25.0	11.1	13.9	5.6	8.3	30.6
	女性	75	33.3	22.7	21.3	17.3	10.7	13.3	9.3	4.0	9.3	30.7

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

介護している人に対してあってほしい地域支援については、「病気などの緊急時に看病をしたり、医師を呼ぶなどの手助け」が 26.2%で最も高く、次いで「簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などの手伝い」が 20.6%、「話し相手」が 19.8%、「地震など、災害時の安否確認」が 19.0%、「買い物や家事などの手伝い」が 17.5%となっている。

【介護している人に対してあってほしい地域支援】

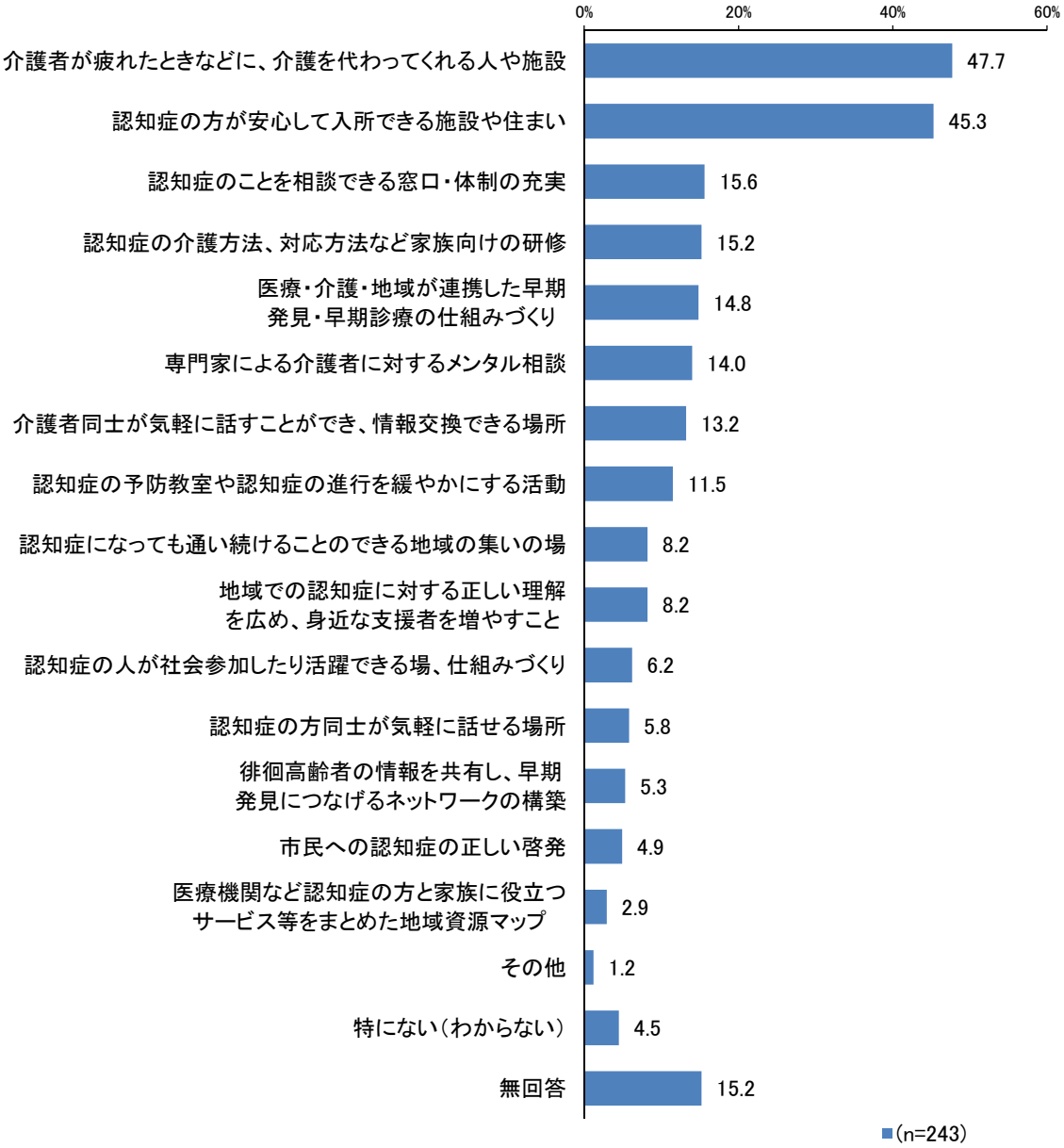


（5）認知症対策として重要な施策

問２４　認知症の対策として、重要だと思われる施策は何ですか。（特に重要と思うものを３つまでお答えください。）

認知症対策として重要な施策については、「介護者が疲れたときなどに、介護を代わってくれる人や施設」が 47.7％で最も高く、次いで「認知症の方が安心して入所できる施設や住まい」が 45.3％となっている。

【認知症対策として重要な施策】



認知症の診断・症状の有無別にみると、診断・症状無しは診断・症状有りよりも「介護者が疲れたときなどに、介護を代わってくれる人や施設」が 15.8 ポイント高い。「認知症の介護方法、対応方法など家族向けの研修」は、診断・症状有りの方が 12.5 ポイント高くなっている。

【認知症の診断・症状の有無別　認知症対策として重要な施策】

（%）

		回答者数（n）	介護者が疲れたときなどに、介護を代わってくれる人や施設	認知症の方が安心して入所できる施設や住まい	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	認知症の介護方法、対応方法など家族向けの研修	医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療の仕組みづくり	専門家による介護者に対するメンタル相談	介護者同士が気軽に話すことができ、情報交換できる場所	認知症の予防教室や認知症の進行を緩やかにする活動	認知症になっても通い続けることのできる地域の集いの場	地域での認知症に対する正しい理解を広め、身近な支援者を増やすこと
全体		243	47.7	45.3	15.6	15.2	14.8	14.0	13.2	11.5	8.2	8.2
有無別認知症	診断・症状有り	126	41.3	45.2	13.5	21.4	11.9	17.5	11.9	9.5	7.1	10.3
	診断・症状無し	112	57.1	47.3	18.8	8.9	18.8	10.7	15.2	14.3	9.8	6.3

		回答者数（n）	認知症の人が社会参加したり活躍できる場、仕組みづくり	認知症の方同士が気軽に話せる場所	徘徊高齢者の情報を共有し、早期発見につなげるネットワークの構築	市民への認知症の正しい啓発	医療機関など認知症の方と家族に役立つサービス等をまとめた地域資源マップ	その他	特にない（わからない）	無回答
全体		243	6.2	5.8	5.3	4.9	2.9	1.2	4.5	15.2
有無別認知症	診断・症状有り	126	5.6	7.9	7.1	6.3	3.2	2.4	5.6	11.9
	診断・症状無し	112	7.1	3.6	3.6	3.6	2.7	－	3.6	15.2

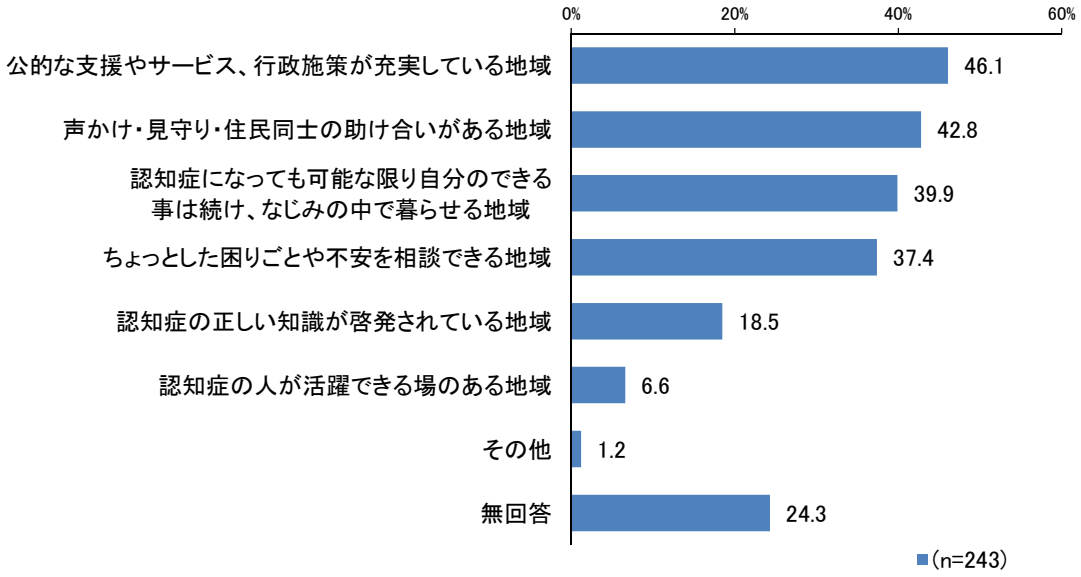
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高いもの

（6）認知症になっても安心で暮らしやすい地域

問２５　あなたやあなたの家族が認知症になった場合、安心で暮らしやすい地域とはどんな地域だと思いますか。（あてはまるもの３つまで○）

認知症になっても安心で暮らしやすい地域については、「公的な支援やサービス、行政施策が充実している地域」が 46.1％で最も高く、次いで「声かけ・見守り・住民同士の助け合いがある地域」が 42.8％、「認知症になっても可能な限り自分のできる事は続け、なじみの中で暮らせる地域」が 39.9％、「ちょっとした困りごとや不安を相談できる地域」が 37.4％となっている。

【認知症になっても安心で暮らしやすい地域】



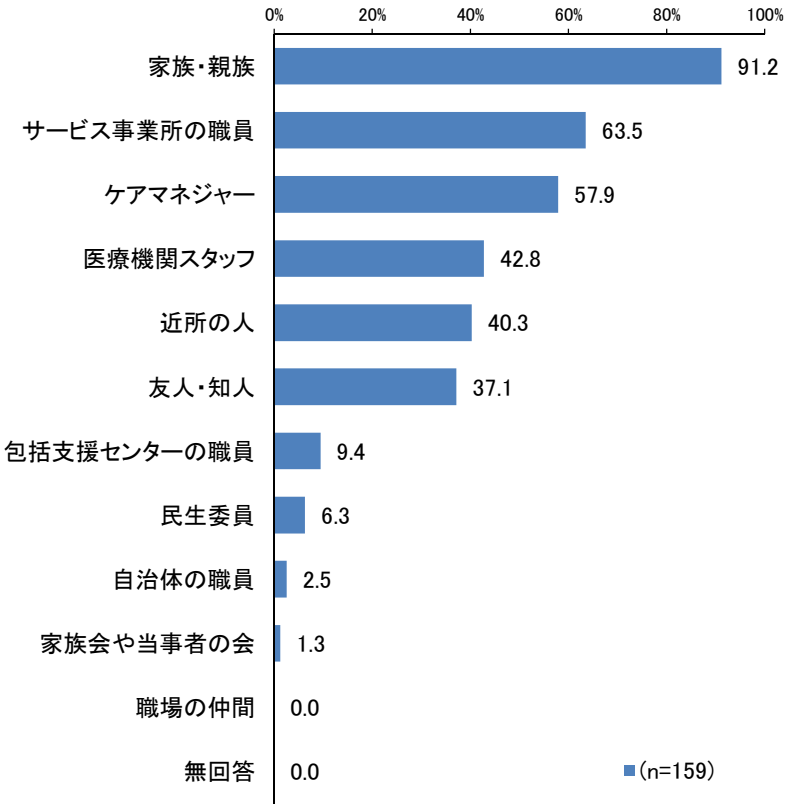
Ⅳ　調査結果（本人）

１．最近話した人について

問１　最近話した人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

最近話した人は「家族・親族」が 91.2%で最も高く、次いで「サービス事業所の職員」63.5%、「ケアマネジャー」57.9%となっている。また、「医療機関スタッフ」(42.8%)、「近所の人」(40.3%)、「友人・知人」(37.1%)を挙げる人が約 4 割程度みられている。

【最近話した人】

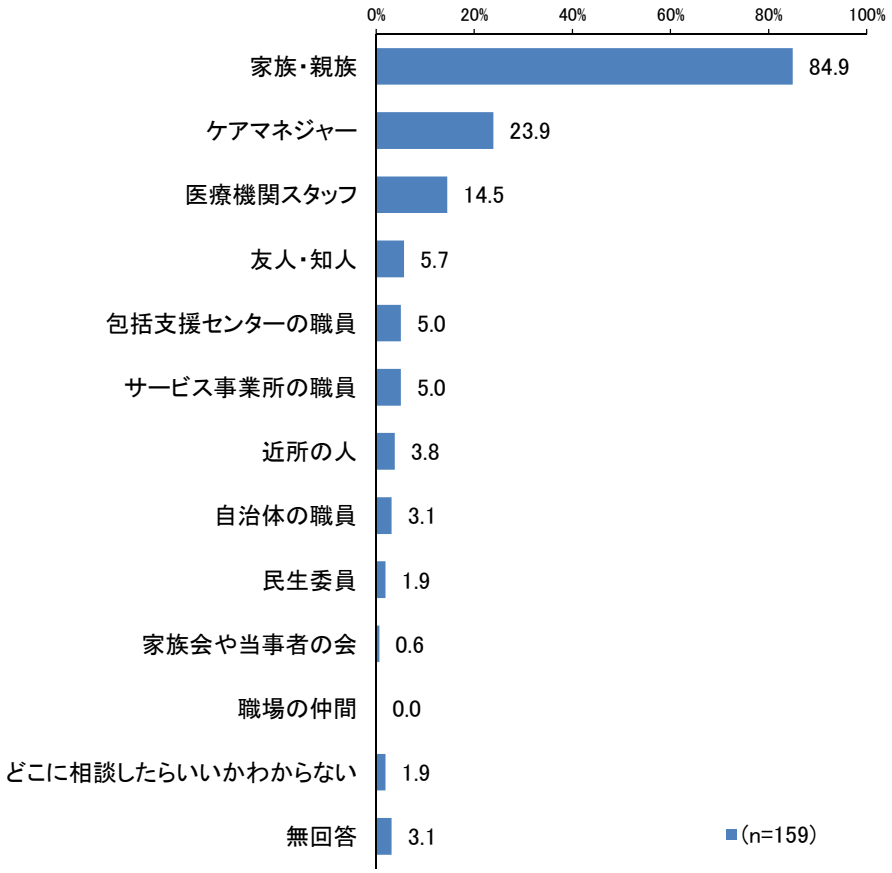


２．認知症になったときの相談先について

問２　もし、あなたや、あなたの家族が認知症になったら、どこ（だれ）に相談すると思いますか。（もっともあてはまるものに○）

家族が認知症になったときの相談先では、「家族・親族」84.9％で最も高い。「ケアマネジャー」(23.9％)、「医療機関スタッフ」(14.5％)を挙げる人が 1～2 割みられている。その他を挙げる人はわずかである。

【家族が認知症になったときの相談先】

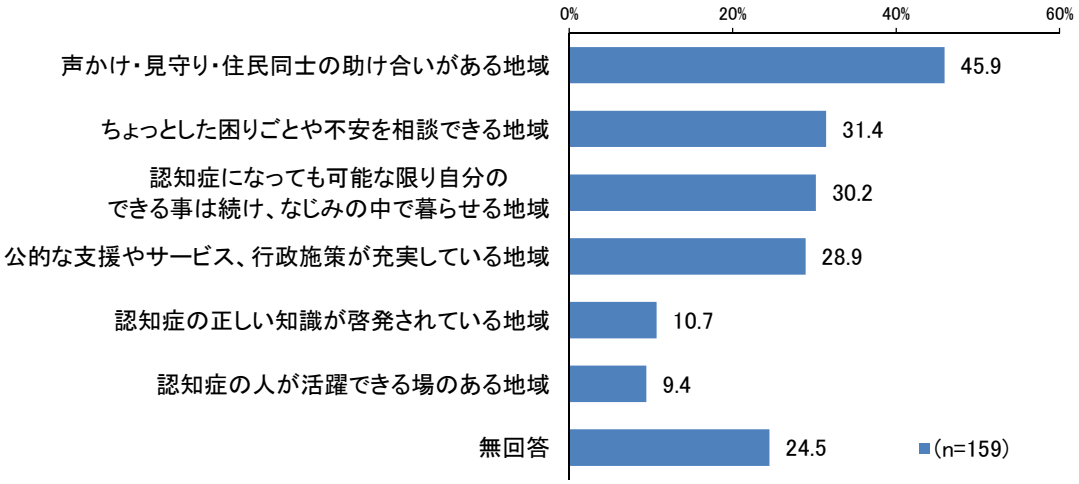


３．認知症の人にとって暮らしやすい地域について

問３　認知症の人にとって安心で暮らしやすい地域とは、どんな地域だと思いますか。（あてはまるもの３つまで○）

認知症の人にとって安心で暮らしやすい地域については、「声かけ・見守り・住民同士の助け合いがある地域」が 45.9％で最も高く、「ちょっとした困りごとや不安を相談できる地域」（31.4％）、「認知症になっても可能な限り自分のできる事は続け、なじみの中で暮らせる地域」（30.2％）、「公的な支援やサービス、行政施策が充実している地域」（28.9％）が、ほぼ同程度で続いている。

【認知症の人にとって安心で暮らしやすい地域とは】



問４　あなたが幸福感を感じるときはどんなときですか。御自由にお答えください。

幸福感を感じるときについて 101 人から 116 件の記入があり、集約した結果は以下の通りとなっている。

内容	件数
家族と一緒にいるとき	32 件
元気でいられるとき	13 件
自分のことが自分でできるとき	12 件
好きなものを食べるとき	10 件
自分の好きなことをしているとき	9 件
人と話すとき	9 件
家族が世話をしてくれるとき	8 件
テレビを観ているとき	7 件
介護施設に行っているとき	3 件
本を読んでいるとき	2 件
人の優しい気持ちを感じるとき	2 件
風呂に入っているとき	2 件
自分が他人の力になれたとき	1 件
ゲームをしているとき	1 件
家族のことを思うとき	1 件
出かけるとき	1 件
墓参りしたとき	1 件
友人とカラオケをするとき	1 件
寝ているとき	1 件
合計	116 件

※幸福感を感じることはない等の記入については集計対象としていない。

Ⅴ　調査票

（一般市民用）

【調査票ⅲ（一般市民用）】

認知症市民意識調査　アンケート

問１　あなた自身についてお伺いします。

年齢	＿＿＿＿歳（※令和元年　　月　　日現在）
性別	１．男性　　２．女性
お住まいの学区・地区	１．志津　２．志津南　３．草津　４．大路 ５．渋川　６．矢倉　７．老上　８．老上西 ９．玉川　10．南笠東　11．山田　12．笠縫 13．笠縫東　14．常盤　15．わからない
家族構成	あなたと同居している家族は、あなたを含めて何人ですか。 ＿＿＿＿人
	うち、65歳以上の高齢者がいますか。 １．いる　　２．いない
職業	１．正社員（会社員・公務員など） ２．自営業 ３．学生 ４．パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員など ５．会社、団体などの役員 ６．家事専従 ７．無職 ８．その他（　　）

（１）認知症に対する知識と認識について

問２　あなたは、認知症という病気について、どの程度ご存知ですか。

１．どのような症状の病気かよく知っている
２．どのような症状の病気かある程度知っている
→問３　へお進みください。

３．認知症という言葉ぐらいは知っている
４．まったく知らない
→問４　へお進みください。

問３　あなたが認知症の症状だと思うのは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

１．約束を忘れたり、薬を飲み忘れたりすることが多くなった
２．同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった
３．物事への興味や関心が失われた
４．お金の管理ができなくなった
５．ものの名前が出てこなくなった
６．慣れた道でも迷うようになった
７．家事や、仕事の上のミスが多くなった

8．ささいなことで怒りっぽくなった
9．お金やものが盗まれたというようになった
10．人に会うのを避けるようになった
11．その他（　　）

問４　あなたは、自分自身が認知症になった場合のことを考えたことがありますか。

1．はい　　2．いいえ　　3．わからない

問５　あなたの認知症に対するイメージは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1．認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる
2．認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける
3．認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる
4．認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる
5．認知症になると、症状が進行していき、何もできなくなってしまう

問６　認知症の情報を何から得られていますか。（あてはまるものすべてに○）

1．認知症の講演会や催し物　　2．テレビ、ラジオ等のマスコミ
3．雑誌等の書物　　4．友人・知人からの話
5．市役所（地域包括支援センター）など　　6．医療機関、診療所など
7．介護関連事業所（ｹｱﾏﾈｼﾞｬｰ）など　　8．民生委員
9．社会福祉協議会　　10．パンフレットなどの認知症啓発物
11．その他（　　）　　12．特にない

問７　これまでに認知症に関する講演会や催しに参加したことはありますか。

1．はい　　2．いいえ　　3．わからない

↓「はい」とお答えした人にお尋ねします。

どのような講演会や催しに参加したことがありますか。

（　　）

（２）もし、あなたやあなたの家族が認知症になったら

問８　あなたは、今までに認知症の方と接した経験がありますか。（あてはまるものすべてに○）

１．家族など身近な人の介護で、過去に経験がある
２．家族など身近な人の介護で、現在も介護をしている
３．仕事やボランティアで経験がある
４．友人、知人や近隣住民として経験がある
５．１～４以外で経験がある
　　→具体的に（　　）
６．経験はない

問９　あなたは、周囲の人の対応によって、認知症の症状の進行が変わると思いますか。

１．そう思う
２．どちらかといえばそう思う
３．どちらかといえばそう思わない
４．そう思わない
５．わからない

問１０　あなたの認知症に対する不安は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

１．　家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか
２．　家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか
３．　買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなってしまうのではないか
４．　必要な介護サービスを利用することができず、現在の住まいで生活できなくなるのではないか
５．　誇りを持って生活できなくなるのではないか
６．その他（　　）

問１１　もし、あなたやあなたの家族が認知症の疑いがあるとき、家族や知人以外では、まず、どこに（だれに）相談すると思いますか。（もっともあてはまるものに○）

１．地域包括支援センター　　２．市役所
３．認知症専門医　　４．かかりつけ医
５．介護関連施設（ケアマネジャーなど）　　６．民生委員
７．認知症の人と家族の会　　８．認知症コールセンター
９．どこに相談したらいいのかわからない　　１０．その他（　　）

問１２　もし、あなたの家族が認知症になったら、そのことを近所の人に知ってもらおうと思いますか。（もっともあてはまるものに○）

１．知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい
２．知っておくだけ知っておいてほしい
３．隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない
４．できればあまり知られたくないので隠したい
５．わからない
６．その他（　　）

問１３　もし、あなたが認知症になったら、そのことを近所の人に知ってもらおうと思いますか。（もっともあてはまるものに○）

１．知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい
２．知っておくだけ知っておいてほしい
３．隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない
４．できればあまり知られたくないので隠したい
５．わからない
６．その他（　　）

問１４　もし、あなたの家族が認知症になったら、どこで生活したいですか。（もっともあてはまるものに○）

１．　できる限り、家族・親族だけで自宅で介護したい
２．　できる限り、近所の人と家族・親族中心に自宅で介護したい
３．　できる限り、介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護したい
４．　病院に入院させたい
５．　特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所させたい
６．　わからない
７．　その他（　　）

※１　特別養護老人ホーム
要介護高齢者のための生活施設。入浴、排泄、食事等の介護その他日常生活の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行う。

※２　認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
認知症（急性を除く）の高齢者に対して、共同生活住居で、家庭的な環境と地域住民との交流の下、入浴、排泄、食事等の介護などの日常生活上の世話と機能訓練を行う。

問１５　もし、あなたが認知症になったら、どこで生活したいですか。（もっともあてはまるものに○）

１．　できる限り、家族・親族だけで自宅で介護されたい
２．　できる限り、近所の人と家族・親族中心に自宅で介護されたい
３．　できる限り、介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護されたい
４．　病院に入院したい
５．　特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい
６．　わからない
７．　その他（　　）

（３）認知症予防について

問１６　あなたが認知症の予防のために取り組んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

１．定期的な運動
２．バランスの取れた食習慣
３．定期的な健診の受診
４．地域での活動への参加（サロン、老人クラブ、クラブサークル、ボランティアなど）
５．認知症に関するセミナー等に参加し、基礎知識を得る
６．クイズ、計算、手指の体操など、脳トレを行う
７．その他（　　）

問１７　認知症の予防についてどのように考えますか。（あてはまるものすべてに○）

１．自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい
２．認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい
３．近くのサロン等で予防活動を行っていれば参加したい
４．予防等の講座があれば参加したい
５．予防活動に取り組む必要を感じない
６．その他（　　）

（4）認知症に関する制度やサービスについて

問１８　次のうち、あなたが知っているものすべてに○をしてください。

１．地域包括支援センター	２．消費生活センター
３．認知症の人と家族の会	４．認知症疾患医療センター
５．成年後見センターもだま	６．認知症なんでも相談所

※１　地域包括支援センター
高齢者の総合的な相談窓口

※２　消費生活センター
消費生活に関する困りごとや、契約・解約に関することなど消費生活全般の相談窓口

※３　認知症の人と家族の会
認知症の人とその家族や介護者が体験談や悩み等を話し、集う場

※４　認知症疾患医療センター
家族をはじめ、保健医療・福祉関係者等認知症の人にかかわる人からの相談窓口

※５　成年後見センターもだま
障がい者・高齢者等に対する相談業務や後見業務を行う法人

※６　認知症なんでも相談所
地域密着型サービス事業所にある認知症のことや介護のこと等を相談する窓口

問１９　市等が実施している、認知症に関する取組のうち、知っているものはどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

１．認知症キャラバン・メイトの養成・支援
２．認知症市民講座の開催
３．認知症の人にやさしいお店の推進
４．認知症カフェ
５．地域安心声かけ訓練
６．徘徊高齢者ＳＯＳネットワーク事前登録
７．徘徊高齢者等探索システム（ＧＰＳ）利用支援
８．認知症高齢者への支給限度額上乗せサービス
９．地域福祉権利擁護事業
10．成年後見制度
11．知らない

※１　地域福祉権利擁護事業
利用者ができる限り地域で自立した生活を継続していくために、福祉サービスの利用支援やそれに付随した日常的な金銭管理等の援助を行う。

※２　成年後見制度
財産管理や身上監護に関する契約等の法律行為全般を行う。

問２０　草津市では「認知症サポーター養成講座」を開催していますが、知っていますか。（あてはまるものすべてに○）

１．講座を受けたことがある	→問２２　へお進みください。
２．名前は聞いたことがある ３．知らない	→問２１　へお進みください。

※認知症サポーター養成講座
　認知症の人やその家族を見守り、支援する「認知症サポーター」を養成するための講座

問２１　問２０で「２．名前は聞いたことがある」または「３．知らない」とお答えされた方におうかがいします。あなたは「認知症サポーター養成講座」を受講したいと思いますか。

１．受講したい	２．受講したくない
３．わからない	

問２２　あなたの近所に認知症の方がいる場合、どのように感じ、どのように行動したいですか。（もっともあてはまるものに○）

１．　地域として何かできることがあれば協力したい
２．　今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい
３．　自分にはそういう力がないので、特にできることはない
４．　何をどうしたらいいのかわからない
５．　できるだけ関わりたくない
６．　その他（　　）

問２３　認知症の方とその家族を支えるとしたら、あなたにはどんなことができると考えますか。（あてはまるものすべてに○）

認知症の方に対して	介護している家族に対して
１．話し相手になる	１．話し相手になる
２．買い物や近くまでの外出などに付き添う	２．買い物や家事などを手伝う
３．簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などを手伝う	３．簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などを手伝う。
４．病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助けを行う	４．病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助けを行う
５．定期的に声をかける	５．定期的に声をかける
６．地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う	６．地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う
７．その他（　　）	７．その他（　　）
８．わからない	８．わからない
９．自分にできることは何もない	９．自分にできることは何もない

問２４　認知症の施策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。（あてはまるもの３つまで○）

１．	医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療の仕組みづくり
２．	医療・介護等の専門職向けの対応向上の研修
３．	介護者同士が気軽に話せる情報交換の場所
４．	認知症の介護方法、対応方法など家族向けの研修
５．	認知症の方同士が気軽に話せる場所
６．	認知症の人が社会参加したり活躍できる仕組みづくり
７．	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実
８．	認知症の人を地域で見守る体制の充実
９．	認知症の方が安心して生活できるグループホームや入所施設の整備
１０．	市民への認知症の正しい啓発
１１．	分からない
１２．	その他（　　）

問２５　あなたやあなたの家族が認知症になった場合、安心で暮らしやすい地域とはどんな地域だと思いますか。（あてはまるもの３つまで○）

１．声かけ・見守り・住民同士の助け合いがある地域
２．認知症の正しい知識が啓発されている地域
３．ちょっとした困りごとや不安を相談できる地域
４．公的な支援やサービス、行政施策が充実している地域
５．認知症になっても可能な限り自分のできる事は続け、なじみの中で暮らせる地域
６．認知症の人が活躍できる場のある地域
７．その他（　　）

調査にご協力ありがとうございました。
お手数ですが、返信用封筒にこの用紙を入れて、８月２３日（金）までにご投函くださいますよう、お願い申しあげます。

（家族用）

【調査票ⅱ（家族用）】

問１　あなた（主に介護を行っている方）についておうかがいします。

年齢	＿＿＿＿歳（※令和元年　　月　　日現在）
性別	１．男性　　２．女性
お住まいの学区・地区	１．志津　　２．志津南　　３．草津　　４．大路 ５．渋川　　６．矢倉　　７．老上　　８．老上西 ９．玉川　　10．南笠東　　11．山田　　12．笠縫 13．笠縫東　　14．常盤　　15．わからない
介護を受けておられる方との関係	あなたは、介護を受けておられる方から見て、次のどれにあたりますか。 １．配偶者（夫・妻）　　２．子ども（子どもの配偶者を含む） ３．孫　　４．親 ５．兄弟姉妹　　６．その他の親族 ７．その他（　　）
家族構成	介護を受けておられる方と同居していますか。 １．はい　　２．いいえ
職業	１．正社員（会社員・公務員など） ２．自営業 ３．学生 ４．パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員など ５．会社、団体などの役員 ６．家事専従 ７．無職 ８．その他（　　）

問２　介護を受けておられるご本人について、おうかがいします。

年齢	＿＿＿＿歳（※令和元年　　月　　日現在）
性別	１．男性　　２．女性
介護保険の要介護度	事業対象者　　要支援１　　要支援２ 要介護１　　要介護２　　要介護３ 要介護４　　要介護５　　わからない
家族構成	１．ひとり暮らし ２．高齢者世帯（家族の構成員がすべて６５歳以上） ３．その他

問３　介護を受けておられるご本人は、認知症の診断を受けておられる、または認知症の症状がありますか。

１．はい　⇒　問４へ　　２．いいえ　⇒　問２４へ

※問４～問２３は、問３で「１．はい」と答えた方にお伺いします。

（１）発症から相談、医療機関へのつながりの状況

問４　あなたは、介護を受けておられるご本人の、どのような様子を見て、認知症ではないかと思い始めましたか。（あてはまるものすべてに○）

１．約束を忘れたり、薬を飲み忘れたりすることが多くなった
２．同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった
３．物事への興味や関心が失われた
４．お金の管理ができなくなった
５．ものの名前が出てこなくなった
６．慣れた道でも迷うようになった
７．家事や、仕事の上のミスが多くなった
８．ささいなことで怒りっぽくなった
９．お金やものが盗まれたというようになった
10．人に会うのを避けるようになった
11．その他（　　）

問５　認知症のご本人の変化に誰が最初に気づきましたか？（いずれか１つに○）

１．本人　　２．家族　　３．職場、友人等
４．かかりつけ医　　５．介護支援専門員（ケアマネジャー）
６．その他（　　）

問６　あなたは、認知症のご本人のことで、家族・知人以外の専門家に相談をしたことがありますか？

１．はい　⇒　問７へ　　２．いいえ　⇒問１０へ

問７　あなたが、家族・知人以外の専門家に認知症のことで相談したのは、あなたが認知症ではないかと思い始めてからどのくらいの期間ですか。

１．１か月未満　　２．１か月以上６か月未満　　３．６か月以上１年未満
４．１年以上２年未満　　５．２年以上３年未満　　６．３年以上５年未満
７．５年以上

問８　家族・知人以外で最初に、認知症の相談をしたところはどこですか。

１．地域包括支援センター	２．市役所
３．認知症専門医	４．かかりつけ医
５．介護関連施設（ケアマネジャーなど）	６．民生委員
７．認知症の人と家族の会	８．認知症コールセンター
９．その他（　　）	

問９　相談の結果は、満足できましたか。

１．満足できた　　２．満足できなかった　　３．どちらでもない

問１０　介護を受けておられる方は認知症について病院をどのような形で受診し、診断を受けられましたか。

１．かかりつけ医から認知症専門医へ紹介され、認知症専門医で診断
２．認知症専門医で診断
３．かかりつけ医で診断
　　} １～３の方は問１１へ
４．受診はしていない　　⇒問１４へ

※問１１～１４は、問１０で「１～３」と答えられた方にお伺いします。

問１１　認知症の病名は次のどれですか。

１．アルツハイマー型認知症
２．脳血管性認知症
３．レビー小体型認知症
４．前頭・側頭型認知症（ピック病、意味性認知症）
５．病名の告知はない
６．わからない
７．その他（　　）

問１２　介護を受けておられる方が、病院に受診されたのは、認知症ではないかとあなたが思い始めてからどのくらいの期間ですか。

１．１か月未満	２．１か月以上６か月未満
３．６か月以上１年未満	４．１年以上３年未満
５．３年以上５年未満	６．５年以上

問１３　受診にいたった理由（きっかけ）は何ですか。

１．家族・知人に勧められたから
　（受診を勧めた人・・・　　）
２．専門家に勧められたから
　（受診を勧めた人・・・　　）
３．症状が進行したから
　（具体的な症状・・・　　）
４．かかりつけの病院だったから
５．認知症に関するパンフレットや講演などで受診を勧めていたから
６．その他（　　）

※問１２で受診に６か月以上かかった（３～６）と回答した方、問１０で４．受診はしていないと回答した方にお伺いします。

問１４　受診に６か月以上かかった、または、受診していない理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

１．本人が病院に行きたがらなかったから
２．変化は年齢のせいによるものだと思っていたから
３．本人に受診勧奨を言いだすきっかけが難しかったから
４．どの医療機関や診療科を受診すれば良いかわからなかったから
５．精神科や物忘れ外来に受診することに抵抗があったから
６．家族が一緒に受診する時間がとれなかったから
７．本人以外の家族が受診を同意しなかったから
８．その他（　　）

（2）相談相手と周囲とのかかわりについて

問１５　あなたは、介護の悩みを相談できる人がいますか。（あてはまるものすべてに○）

１．家族（主に＿＿＿＿）	２．友人	３．認知症専門医
４．かかりつけ医	５．認知症の人と家族の会	６．同僚
７．近所の人	８．ケアマネジャー	９．地域包括支援センター
10．民生委員	11．その他（　　）	12. 相談できる人はいない

問１６　あなたは、介護を受けておられる方が認知症であることを近所の人に知ってもらいたいですか。

１．知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい
２．知っておくだけ知っておいてほしい
３．隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない
４．できればあまり知られたくないので隠したい
５．わからない
６．その他（　　）

問１７　あなたは、周囲の人が認知症について理解してくれていると思いますか。

１．はい	２．いいえ
３．わからない	４．その他（　　）

問１８　病院や診療所によって「認知症相談医」がいるところがあることを知っていますか。

１．知っている	２．知らない

※認知症相談医

県と県医師会が協働で創設した認定制度で、県の研修を修了し、この認定を受けたものは認知症の早期発見・早期対応や、専門医療機関への受診誘導、家族支援などを行う。

問１９　毎月、認知症の人と家族の会のつどい「なごみ会」や、「認知症カフェ」が市内で開催されていますが、知っていますか。また、参加しようと思いますか。

１．知っており、すでに参加している。（参加したことがある。）
２．知っているが、参加したことはない。
３．知っているが、参加したいとは思わない。
４．知らないが、今後参加したい。
５．知らないし、参加もしたくない。

（3）サービス・制度について

問２０　介護を受けておられる方は、介護保険等のサービスを利用されていますか。利用中のサービスすべてに○をつけてください。

1．訪問介護（ヘルパー訪問）
2．訪問入浴介護
3．訪問看護
4．訪問リハビリテーション
5．通所介護（デイサービス）
6．通所リハビリテーション（デイケア）
7．居宅療養管理指導（定期的な往診、薬剤師による服薬管理など）
8．特定施設入居者生活介護（有料老人ホームやケアハウスなど）
9．短期入所生活介護（特別養護老人ホーム短期入所）
10．短期入所療養介護（療養型医療施設、老人保健施設短期入所）
11．福祉用具貸与（ベッドや車いす、歩行器等の貸し出し）
12．福祉用具販売
13．住宅改修（手すり、段差改修などの移動範囲を安全に広げるための小規模な住宅改造）
14．定期巡回・随時対応型訪問介護看護
15．夜間対応型訪問介護
16．地域密着型通所介護
17．認知症対応型通所介護（認知症対応型デイサービス）
18．小規模多機能型居宅介護（通い、訪問、泊まりのサービスが一体的に受けられるサービス）
19．看護小規模多機能型居宅介護
20．認知症対応型共同生活介護（認知症の高齢者が共同生活するホーム）
21．介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
22．地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）
23．地域密着型特定施設入居者生活介護
24．介護老人保健施設（老人保健施設）
25．介護療養型医療施設（療養病床等）
26．介護医療院
27．（介護予防・生活支援サービス事業）生活支援型訪問サービス
28．（介護予防・生活支援サービス事業）介護予防型訪問サービス
29．（介護予防・生活支援サービス事業）生活サポート事業
30．（介護予防・生活支援サービス事業）活動型デイサービス
31．（介護予防・生活支援サービス事業）介護予防型デイサービス
32．どれも利用していない
　→利用していない理由：ア．本人が嫌がるため
　　イ．利用したいサービスがない

ウ．金額が高い
エ．その他（　　）

問２１　認知症の方を介護していて困ること、負担に感じることはどのような時ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．介護を受けておられる方を残して外出できない
2．自分の自由な時間がない
3．徘徊やもの盗られ妄想など、介護の負担が大きい
4．十分に睡眠をとることができない
5．適切な介護の仕方が分からない
6．認知症の症状を、病気としてわりきれない
7．介護に協力してくれる人がいない
8．仕事に出ることができない
9．自分自身の通院・治療が受けられない
10．現在利用している介護サービスに不満がある
11．地域に病気や介護についての理解がなく、気軽に話せない
12．その他（　　）

問２２　認知症の方を介護していて、良かったことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1．家族で話す機会が増えた
2．話す機会が増えた
3．介護を通じて知人が増えた
4．生活にメリハリができた
5．自身の体調を気にするようになった
6．専門的な知識・技術が身についた
7．出かける場所が広がった
8．人の役に立つことができた
9．その他（　　）

問２３　認知症の方を介護している者として、身近に地域であったらいいなと思うものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

認知症の方に対して	介護している方に対して
１．話し相手	１．話し相手
２．買い物や近くまでの外出などの付き添い	２．買い物や家事などの手伝い
３．簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などの手伝い	３．簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などの手伝い
４．病気などの緊急時に看病をしたり、医師を呼ぶなどの手助け	４．病気などの緊急時に看病をしたり、医師を呼ぶなどの手助け
５．定期的な声かけ	５．定期的な声かけ
６．認知症カフェのような、本人・介護者が気軽に立ち寄り時間を過ごせる場所	６．認知症カフェのような、本人・介護者が気軽に立ち寄り時間を過ごせる場所
７．地震など、災害時の安否確認	７．地震など、災害時の安否確認
８．その他（　　）	８．その他（　　）
９．わからない	９．わからない

問２４　認知症の対策として、重要だと思われる施策は何ですか。（特に重要と思うものを３つまでお答えください。）

１．介護者が疲れたときなどに、介護を代わってくれる人や施設
２．認知症の方が安心して入所できる施設や住まい
３．認知症になっても通い続けることのできる地域の集いの場
４．認知症の人が社会参加したり活躍できる場、仕組みづくり
５．認知症の方同士が気軽に話せる場所
６．介護者同士が気軽に話すことができ、情報交換できる場所
７．認知症の介護方法、対応方法など家族向けの研修
８．専門家による介護者に対するメンタル相談
９．地域での認知症に対する正しい理解を広め、身近な支援者を増やすこと
10．医療機関など認知症の方と家族に役立つサービス等をまとめた地域資源マップ
11．徘徊高齢者の情報を共有し、早期発見につなげるネットワークの構築
12．医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療の仕組みづくり
13．認知症のことを相談できる窓口・体制の充実
14．市民への認知症の正しい啓発
15．認知症の予防教室や認知症の進行を緩やかにする活動
16．その他（　　）
17．特にない（わからない）

問２５　あなたやあなたの家族が認知症になった場合、安心で暮らしやすい地域とはどんな地域だと思いますか。（あてはまるもの３つまで○）

１．声かけ・見守り・住民同士の助け合いがある地域
２．認知症の正しい知識が啓発されている地域
３．ちょっとした困りごとや不安を相談できる地域
４．公的な支援やサービス、行政施策が充実している地域
５．認知症になっても可能な限り自分のできる事は続け、なじみの中で暮らせる地域
６．認知症の人が活躍できる場のある地域
７．その他（　　）

調査にご協力ありがとうございました。
お手数ですが、返信用封筒にこの用紙を入れて、９月２日（月）までにご投函くださいますよう、お願い申しあげます。

（本人用）

C票　ご本人様にご回答頂く項目

問1　最近話した人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 家族・親族　2. 友人・知人　3. 近所の人
4. 職場の仲間　5. 民生委員　6. 医療機関スタッフ
7. 自治体の職員　8. 包括支援センターの職員　9. ケアマネジャー
10. サービス事業所の職員　11. 家族会や当事者の会

問2　もし、あなたや、あなたの家族が認知症になったら、どこ（だれ）に相談すると思いますか。（もっともあてはまるものに○）

1. 家族・親族　2. 友人・知人　3. 近所の人
4. 職場の仲間　5. 民生委員　6. 医療機関スタッフ
7. 自治体の職員　8. 包括支援センターの職員　9. ケアマネジャー
10. サービス事業所の職員　11. 家族会や当事者の会　12. どこに相談したらいいかわからない

問3　認知症の人にとって安心で暮らしやすい地域とは、どんな地域だと思いますか。
（あてはまるもの3つまで○）

1. 声かけ・見守り・住民同士の助け合いがある地域
2. 認知症の正しい知識が啓発されている地域
3. ちょっとした困りごとや不安を相談できる地域
4. 公的な支援やサービス、行政施策が充実している地域
5. 認知症になっても可能な限り自分のできる事は続け、なじみの中で暮らせる地域
6. 認知症の人が活躍できる場のある地域

問4　あなたが幸福感を感じるときはどんなときですか。御自由にお答えください。

認知症の高齢者に関するアンケート報告書

発行　令和元年（2019 年）11 月
草津市健康福祉部長寿いきがい課
〒525-8588 草津市草津三丁目 13-30
電　話　077-561-2372
ＦＡＸ　077-561-2480